

同和問題についての市民意識調査
報 告 書

平成 28 年 3 月

名 古 屋 市

はじめに

同和問題は、憲法に保障された基本的人権にかかわる問題であり、市民一人ひとりの生活と権利に深いかかわりのある日本固有の問題です。

本市では、同和問題の解決を図るために、同和対策事業を総合的かつ計画的に推進してまいりました。

こうした取り組みにより、物的な基盤整備は、急速に進展し、実態的な差別解消に向けて、大きな成果と実績を挙げることができました。

現在、法に基づく特別対策としての事業は終了しましたが、平成12年には、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」が制定され、地方公共団体は、国との連携を図りつつ、人権教育・啓発に関する施策を策定し、実施する責務を有するとされました。

教育、就労、産業などの分野や同和問題に関する心理面、意識面においては、なお、いくつかの課題があり、粘り強くそれらの解決を図っていく必要があります。

同和問題に関する市民意識については、昭和56年以降概ね5年ごとの調査を過去7回にわたり実施し、その結果を踏まえ市民啓発の推進に努めてまいりました。

このたび、啓発活動の効果や課題を明らかにするとともに、今後の市民啓発の資料を得るため、平成27年11月に第8回目の市民意識調査を実施しました。

本報告書は、その結果をまとめたものであり、同和問題の速やかな解決と人権意識の高揚に向けて、今後の啓発活動に役立てていきたいと考えております。

この調査の実施にあたりまして、ご協力いただきました市民の皆様
に厚くお礼を申し上げます。

平成28年3月

名古屋市市民経済局長

宮村 喜明

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査項目	1
3	調査方法	1
4	回収状況	1
5	標本構成	2
6	調査結果の見方	3
7	有意検定	3
II	調査結果	4
	(一般的意識の状況)	
1	差別に対する考え方	4
	(同和問題の認知状況)	
2	同和問題の認知状況	11
3	同和問題の認知経路	15
4	同和問題の認知時期	19
	(同和問題の認識状況)	
5	同和問題を知ったときの印象	23
6	同和問題に対する認識状況	26
	(交際や結婚における差別意識の状況)	
7	交際における差別意識	29
8	結婚における差別意識1(親類や親しい人の結婚)	32
9	結婚における差別意識2(子どもの結婚)	35
10	結婚における差別意識3(本人の結婚)	39
	(同和問題の現状認識)	
11	インターネットへの書き込みについての認知状況	43
12	起きていると思う人権問題	46
	(同和問題に関する啓発活動等の認識状況)	
13	啓発活動への参加・関わりの状況	50
	(人権教育の状況)	
14	同和問題の学習	55
15	人権教育に期待するもの	57
16	今後の教育・啓発のあり方	59
	(同和問題の解決策)	
17	同和問題の解決策	61
	(人権に関する認識状況)	
18	「基本的人権」に対する意識	64
III	単純集計表	67
IV	使用調査票	74

I 調査の概要

1 調査の目的

本市では同和問題についての市民意識調査として昭和56年7月に第1回を実施して以来、おおむね5年ごとに調査を実施してきた。この間、その結果を踏まえ市民啓発の推進を図ってきたが、これまで実施してきた啓発の効果及び問題点を明らかにするとともに、今後の啓発のあり方等の資料を得ることを目的として実施した。

2 調査項目

この調査は、次の事項全18問について実施した。

- (1) 一般的意識の状況
- (2) 同和問題の認知状況
- (3) 同和問題の認識状況
- (4) 交際や結婚における差別意識の状況
- (5) 同和問題の現状認識
- (6) 同和問題に関する啓発活動等の認識状況
- (7) 人権教育の状況
- (8) 同和問題の解決策
- (9) 人権に関する認識状況 など

なお、前7回の調査と比較できるようにした。

3 調査方法

- (1) 調査地域 名古屋市全域
- (2) 調査対象 名古屋市内に居住する満20歳以上の市民3,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送法
- (5) 調査期間 平成27年11月11日～11月30日
- (6) 実施主体 名古屋市市民経済局

4 回収状況

	標本数	有効回収標本数	有効回収率(%)
全市	3,000	1,624	54.1%

5 標本構成

(1) 年齢階層

	総数	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
合計	1,624	130	228	303	231	292	249	118	73
	100.0%	8.0%	14.0%	18.7%	14.2%	18.0%	15.3%	7.3%	4.5%
男性	686	57	95	142	99	139	113	41	0
	42.2	43.8	41.7	46.9	42.9	47.6	45.4	34.7	0.0
	100.0%	8.3%	13.8%	20.7%	14.4%	20.3%	16.5%	6.0%	0.0%
女性	832	69	133	160	129	147	129	65	0
	51.2	53.1	58.3	52.8	55.8	50.3	51.8	55.1	0.0
	100.0%	8.3%	16.0%	19.2%	15.5%	17.7%	15.5%	7.8%	0.0%
その他	6	2	0	0	1	1	0	2	0
	0.4	1.5	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	1.7	0.0
	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%
無回答	100	2	-	1	2	5	7	10	73
	6.2	1.5	0.0	0.3	0.9	1.7	2.8	8.5	100.0
	100.0%	2.0%	-	1.0%	2.0%	5.0%	7.0%	10.0%	73.0%

性別欄の中段は年齢階層別の男女比、下段は男女別の年齢階層比

(2) 職業分布

	総数	自営業主 (商工サー ビス、建設 業、自由業 などの事業 主)	家族従事者 (商工サー ビス、建設 業、自由業 などの家族 従事の方)	公務員	教員	企業・団体 の経営者、 役員	企業・団体 の勤め人	臨時雇、 パートタイ マー、派遣、契約社 員などの非 正規雇用	その他の有 業者
合計	1,624	106	40	43	29	34	373	263	26
	100.0%	6.5%	2.5%	2.6%	1.8%	2.1%	23.0%	16.2%	1.6%
男性	686	76	6	24	16	23	255	65	16
	42.2	71.7	15.0	55.8	55.2	67.6	68.4	24.7	61.5
	100.0%	11.1%	0.9%	3.5%	2.3%	3.4%	37.2%	9.5%	2.3%
女性	832	28	34	18	13	10	113	196	9
	51.2	26.4	85.0	41.9	44.8	29.4	30.3	74.5	34.6
	100.0%	3.4%	4.1%	2.2%	1.6%	1.2%	13.6%	23.6%	1.1%
その他	6	1	0	0	0	0	2	0	0
	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
	100.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
無回答	100	1	-	1	-	1	3	2	1
	6.2	0.9	0.0	2.3	0.0	2.9	0.8	0.8	3.8
	100.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	1.0%	3.0%	2.0%	1.0%

	家事専業者	学生	無職	無回答
合計	240	29	363	78
	14.8%	1.8%	22.4%	4.8%
男性	1	16	186	2
	0.4	55.2	51.2	2.6
	0.1%	2.3%	27.1%	0.3%
女性	234	13	163	1
	97.5	44.8	44.9	1.3
	28.1%	1.6%	19.6%	0.1%
その他	1	0	2	0
	0.4	0.0	0.6	0.0
	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%
無回答	4	-	12	75
	1.7	0.0	3.3	96.2
	4.0%	0.0%	12.0%	75.0%

性別欄の中段は職業分布別の男女比、下段は男女別の職業分布比

6 調査結果の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。
このため、合計が100%にならないこともある。
 - (2) 本文中の比率はすべて件数を100%として算出した。
 - (3) 調査結果では、質問文の最後に(SA)(MA)と表示した。SA(Single Answer)は回答を1つだけ選ぶ質問、MA(Multiple Answer)は複数回答が可能な質問であることを表している。
 - (4) 複数回答が可能な質問では、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をするため、各項目の比率の合計は通常100%を超える。
 - (5) 本報告書のグラフ・集計表内の回答選択肢は、省略して掲載している場合がある。
- (注)  は注目すべき事柄をあげたもの。

7 有意検定

調査結果については、有意差検定を行い、結果を検証した。

【計算式】

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{\text{集計値}(\%) \times (100 - \text{集計値}(\%))}{\text{標本数}(s)}}$$

※信頼度は95%(100回中95回はこの幅に収まる)を基準として計算

【標本誤差(早見表)】

		サンプル数														
		10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	200	300	400	500	600
%	1	±6.3	±4.4	±3.6	±3.1	±2.8	±2.6	±2.4	±2.2	±2.1	±2.0	±1.4	±1.1	±1.0	±0.9	±0.8
	2	±8.9	±6.3	±5.1	±4.4	±4.0	±3.6	±3.3	±3.1	±3.0	±2.8	±2.0	±1.6	±1.4	±1.3	±1.1
	3	±10.8	±7.6	±6.2	±5.4	±4.8	±4.4	±4.1	±3.8	±3.6	±3.4	±2.4	±2.0	±1.7	±1.5	±1.4
	4	±12.4	±8.8	±7.2	±6.2	±5.5	±5.1	±4.7	±4.4	±4.1	±3.9	±2.8	±2.3	±2.0	±1.8	±1.6
	5	±13.8	±9.7	±8.0	±6.9	±6.2	±5.6	±5.2	±4.9	±4.6	±4.4	±3.1	±2.5	±2.2	±1.9	±1.8
	6	±15.0	±10.6	±8.7	±7.5	±6.7	±6.1	±5.7	±5.3	±5.0	±4.7	±3.4	±2.7	±2.4	±2.1	±1.9
	7	±16.1	±11.4	±9.3	±8.1	±7.2	±6.6	±6.1	±5.7	±5.4	±5.1	±3.6	±2.9	±2.6	±2.3	±2.1
	8	±17.2	±12.1	±9.9	±8.6	±7.7	±7.0	±6.5	±6.1	±5.7	±5.4	±3.8	±3.1	±2.7	±2.4	±2.2
	9	±18.1	±12.8	±10.4	±9.0	±8.1	±7.4	±6.8	±6.4	±6.0	±5.7	±4.0	±3.3	±2.9	±2.6	±2.3
	10	±19.0	±13.4	±11.0	±9.5	±8.5	±7.7	±7.2	±6.7	±6.3	±6.0	±4.2	±3.5	±3.0	±2.7	±2.4
	15	±22.6	±16.0	±13.0	±11.3	±10.1	±9.2	±8.5	±8.0	±7.5	±7.1	±5.0	±4.1	±3.6	±3.2	±2.9
	20	±25.3	±17.9	±14.6	±12.6	±11.3	±10.3	±9.6	±8.9	±8.4	±8.0	±5.7	±4.6	±4.0	±3.6	±3.3
	30	±29.0	±20.5	±16.7	±14.5	±13.0	±11.8	±11.0	±10.2	±9.7	±9.2	±6.5	±5.3	±4.6	±4.1	±3.7

II 調査結果

1 差別に対する考え方

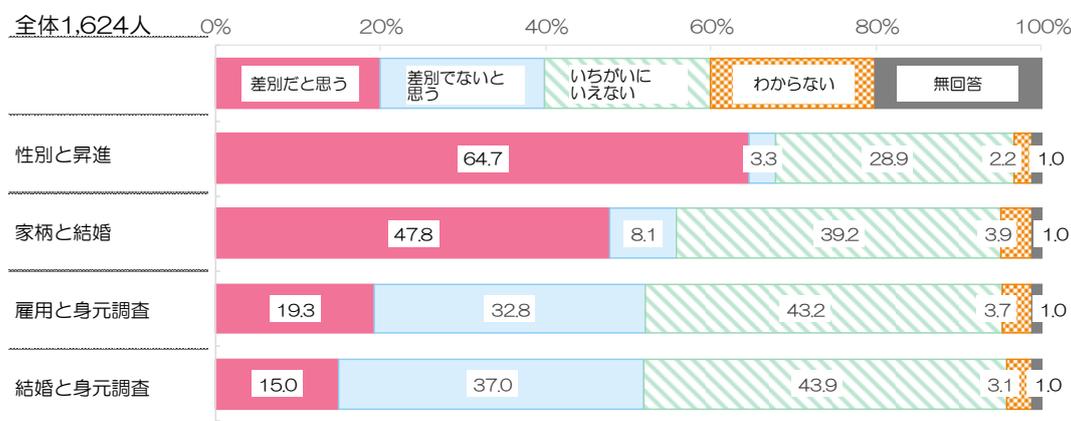
【質問 1】

日本国憲法の第 14 条には、「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と定められています。あなたは、「差別」ということについてどうお考えですか。(SA)

- I 同じように仕事ができるのに、性別だけで昇進に差をつけることは
- II 家柄が違うということで、結婚に反対することは
- III 人を雇うときに身元調査（聞きあわせ）をすることは
- IV 結婚のとき相手の身元調査（聞きあわせ）をすることは
(当てはまる番号 1 つに○)

- 1 差別だと思う
- 2 差別でないと思う
- 3 いちがいにいえない
- 4 わからない

単純集計



「差別だと思う」と答えた人の割合は、「性別で昇進に差をつける」は 64.7%、「家柄で結婚に反対する」は 47.8%と高くなっている。

一方、「雇用時に身元調査をする」「結婚時に身元調査をする」では、いずれも「差別でないと思う」と答えた人の割合（各 32.8%、37.0%）は「差別だと思う」と答えた人の割合（各 19.3%、15.0%）を大きく上回っている。

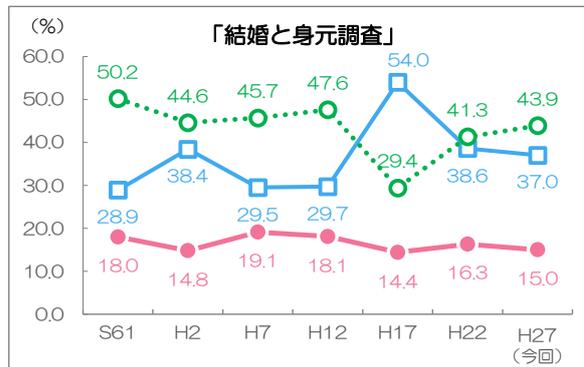
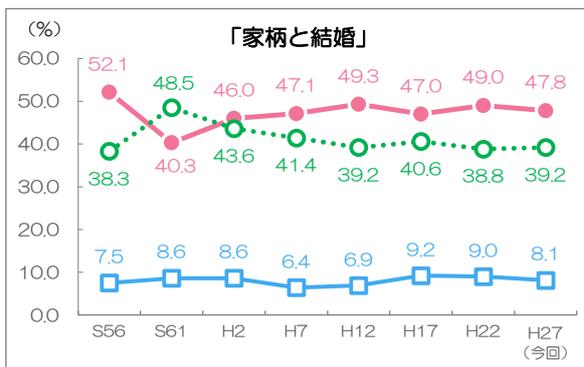
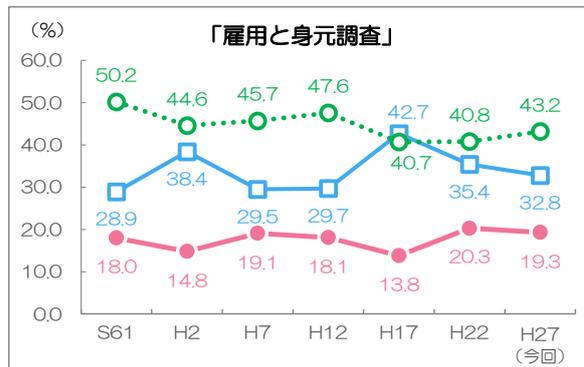
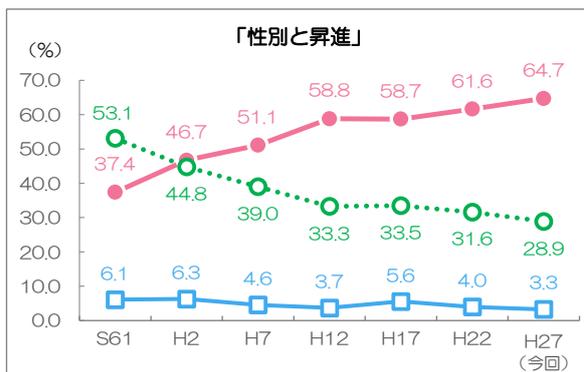


「性別で昇進に差をつける」「家柄で結婚に反対する」を「差別だと思う」と答えた人の割合は高く、「雇用時に身元調査をする」「結婚時に身元調査をする」を「差別だと思う」と答えた人の割合は低い



時系列比較

●—● 差別だと思う □—□ 差別でないと思う ○—○ いちがいにいけない



※注：H12 までは「雇用・結婚と身元調査」という項目で調査した。

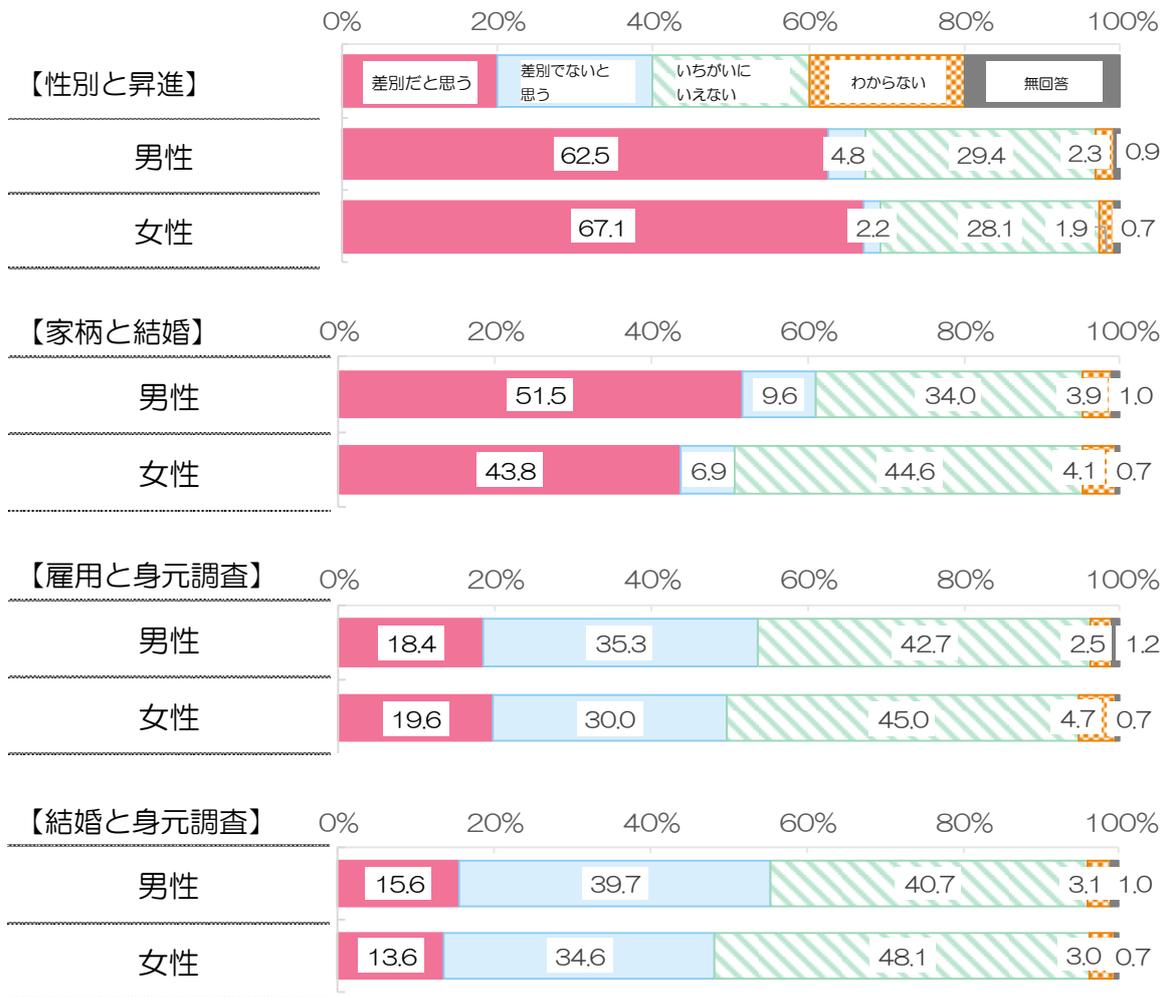


「性別で昇進に差をつける」を「差別だと思う」と答えた人の割合は増えている



属性別集計

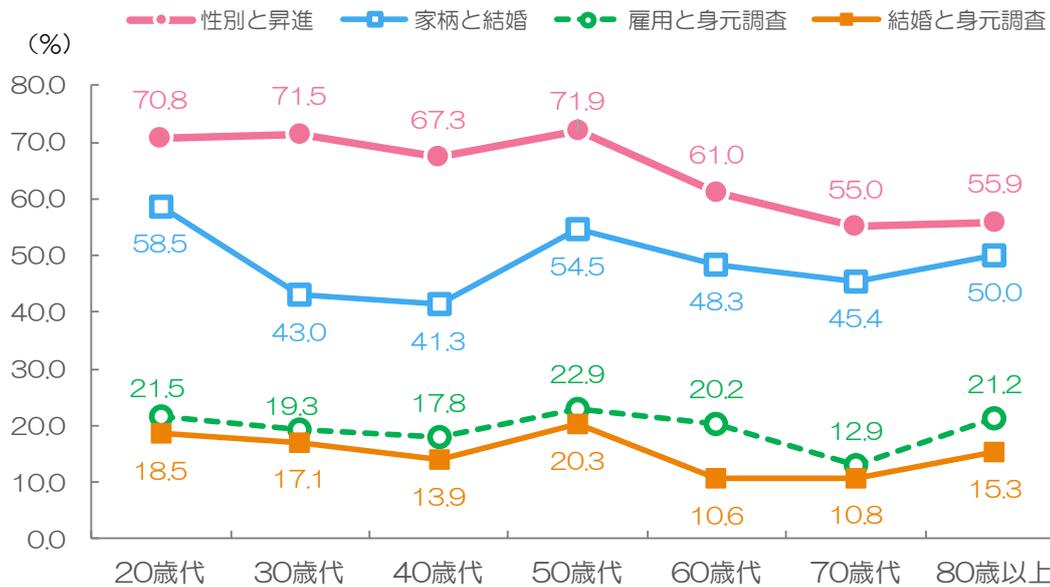
● 性別比較



「性別で昇進に差をつける」を「差別だと思う」と答えた人の割合は、男性 62.5%、女性 67.1%、「家柄で結婚に反対する」を「差別だと思う」と答えた人の割合は、男性 51.5%、女性 43.8%となっている。

● 年代別比較

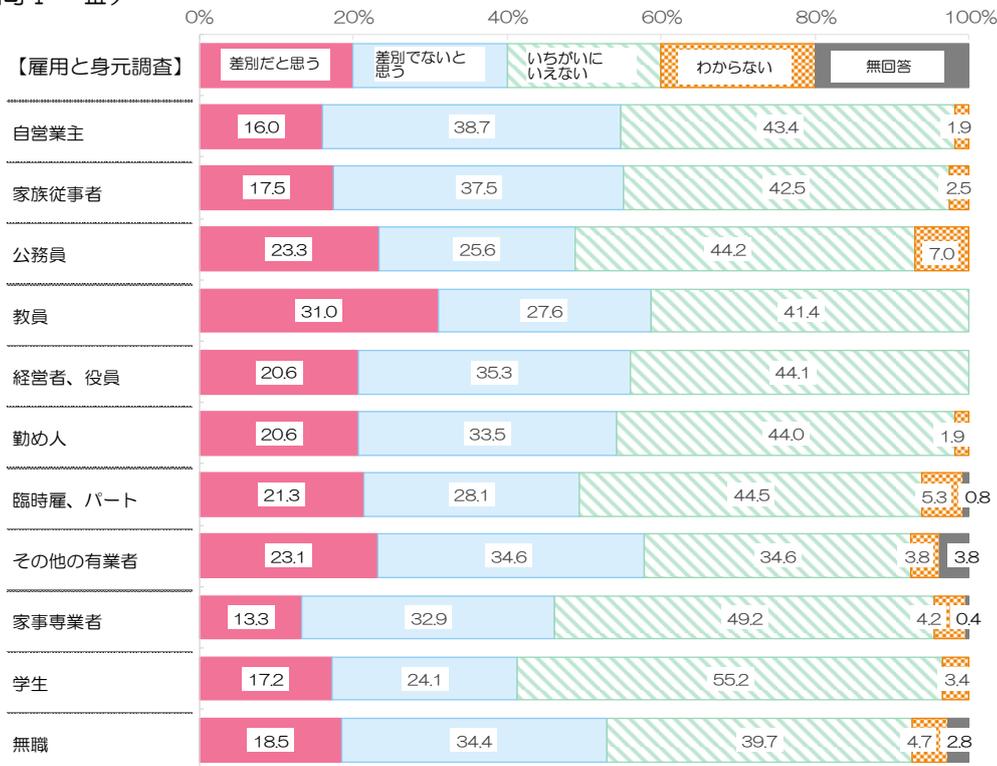
質問1（Ⅰ～Ⅳ）について「差別だと思う」と答えた人の割合を、年代別比較



いずれの年代も、「性別で昇進に差をつける」「家柄で結婚に反対する」を「差別だと思う」の割合は高く、「雇用時に身元調査をする」「結婚時に身元調査をする」を「差別だと思う」の割合は低い

● 職業別比較

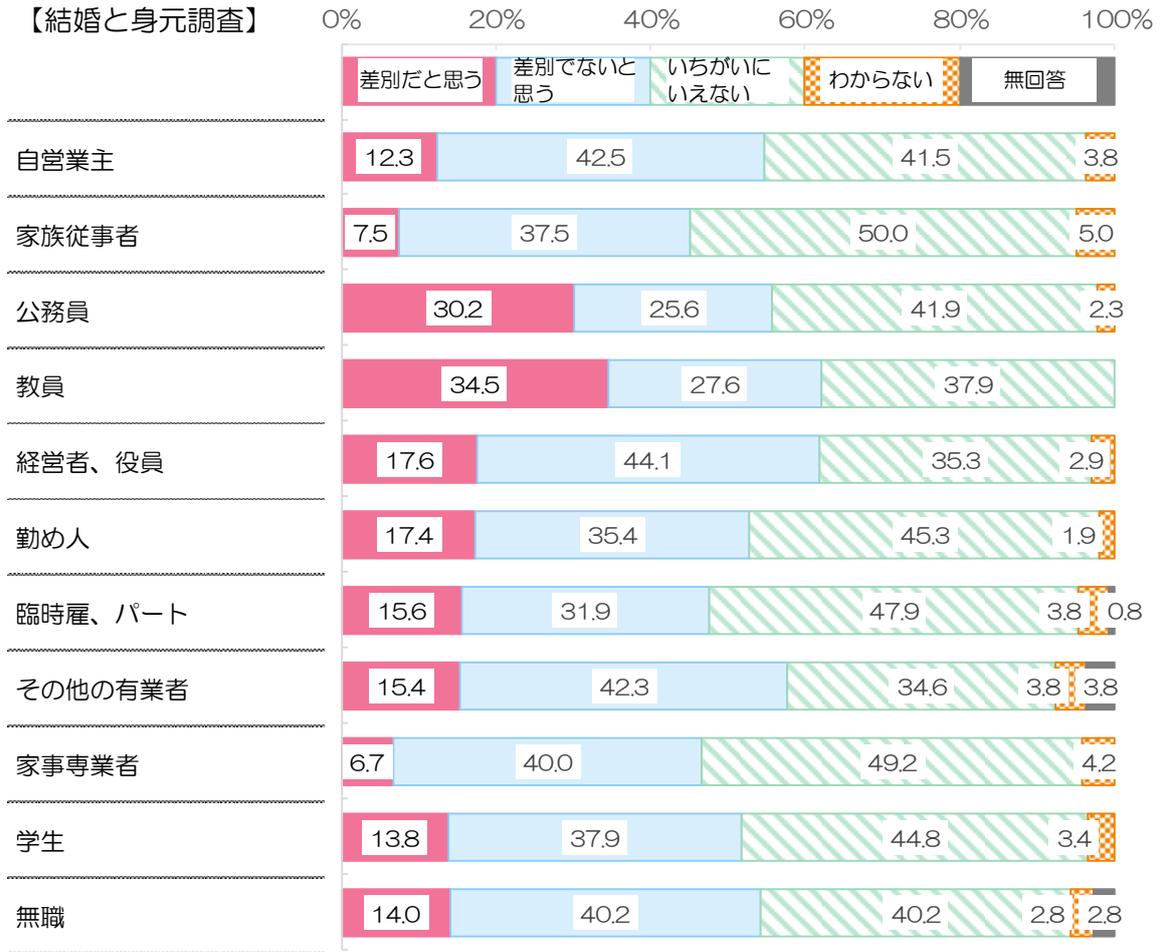
(質問Ⅰ～Ⅲ)



「差別でないと思う」と答えた人の割合は、「自営業主」38.7%、次いで「家族従事者」37.5%、「経営者・役員」35.3%の順となっている。

(質問Ⅰ－Ⅳ)

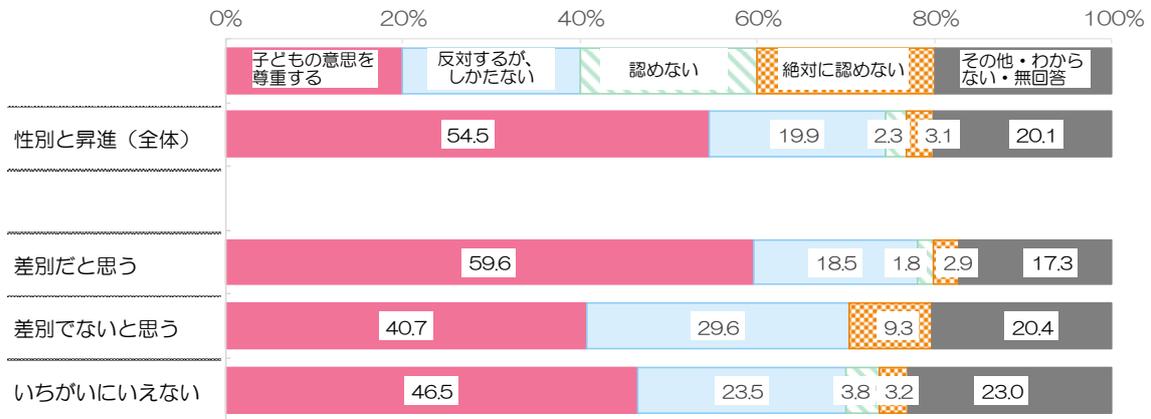
【結婚と身元調査】



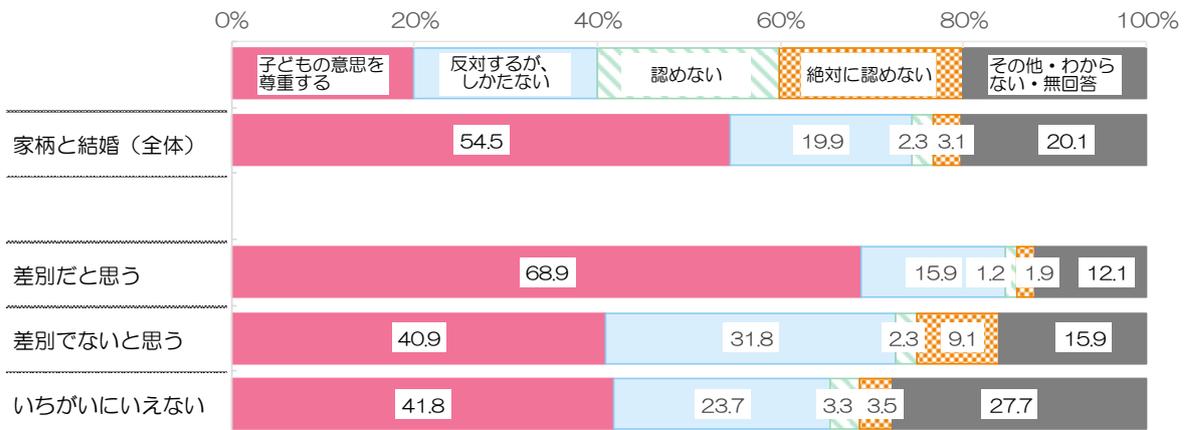
「差別だと思う」と答えた人の割合は、「教員」が最も高く 34.5%、次いで「公務員」30.2%の順となっている。

設問間クロス集計

質問 1-I 「差別に対する考え方（性別と昇進）」と質問 9 「子どもの結婚相手が同和地区出身者とわかった場合どうするか」との関連分析

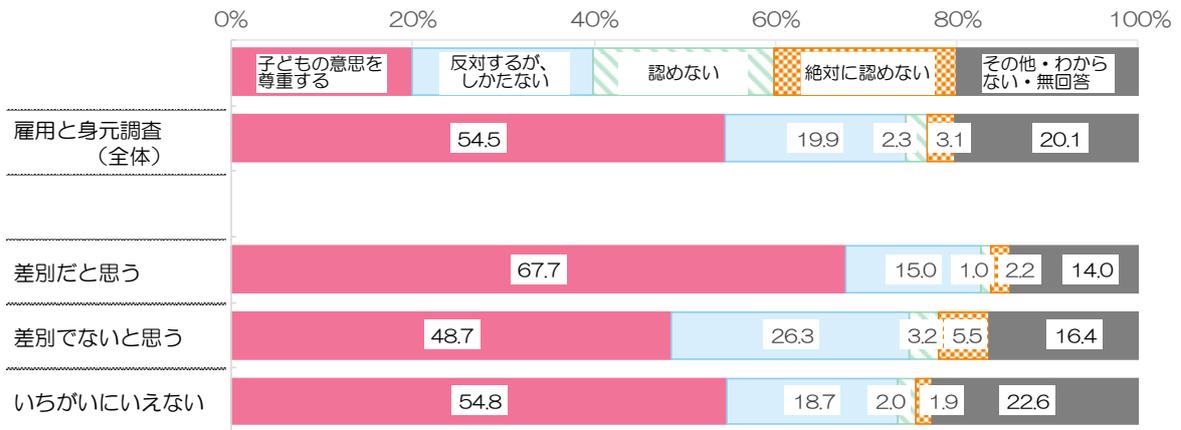


質問 1-II 「差別に対する考え方（家柄と結婚）」と質問 9 「子どもの結婚相手が同和地区出身者とわかった場合どうするか」との関連分析



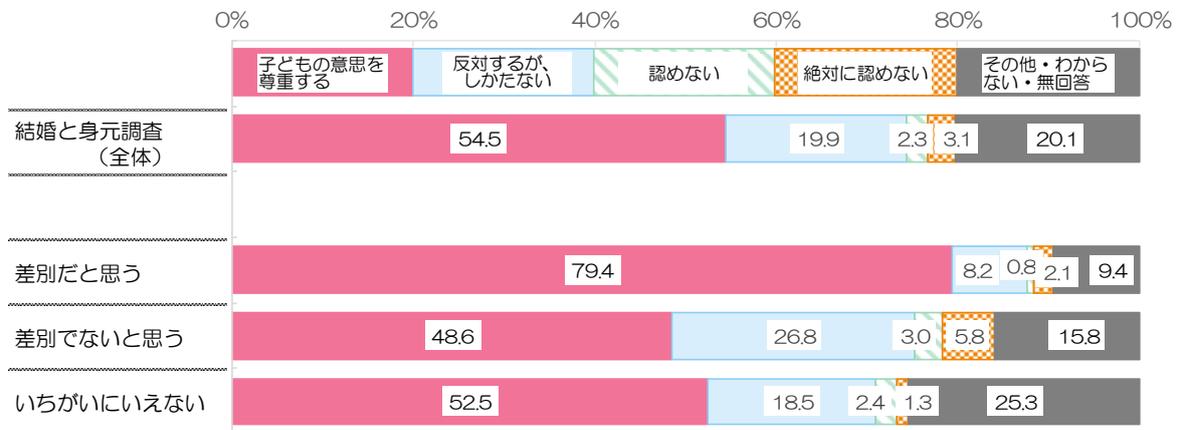
「家柄で結婚に反対する」を「差別だと思う」と答えた人は、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

質問 1—Ⅲ「差別に対する考え方（雇用と身元調査）」と質問 9「子どもの結婚相手が同和地区出身者とわかった場合どうするか」との関連分析



「雇用時の身元調査」を「差別だと思う」と答えた人は、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

質問 1—Ⅳ「差別に対する考え方（結婚と身元調査）」と質問 9「子どもの結婚相手が同和地区出身者とわかった場合どうするか」との関連分析



「結婚時の身元調査」を「差別だと思う」と答えた人は、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

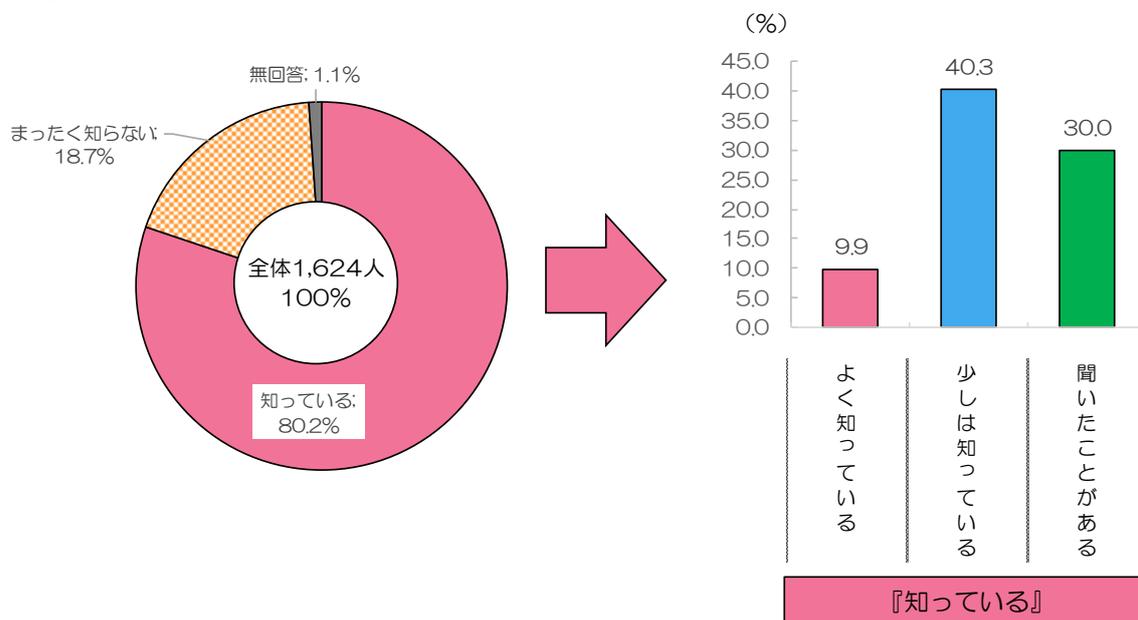
2 同和問題の認知状況

【質問2】

あなたは同和問題を知っていますか。(SA)
(当てはまる番号1つに○)

- 1 よく知っている
- 2 少しは知っている
- 3 聞いたことがある
- 4 まったく知らない

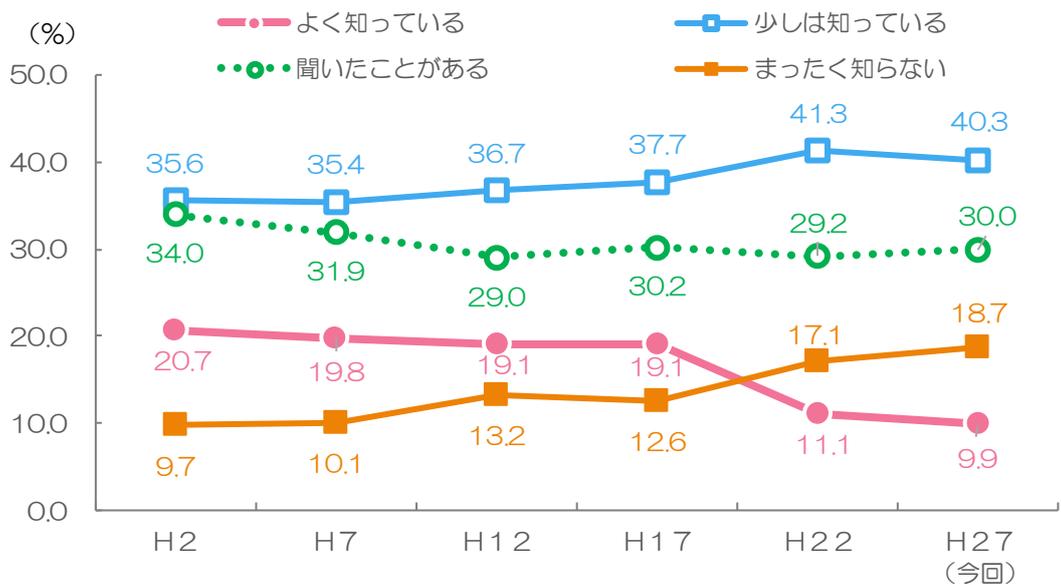
単純集計



「よく知っている」は 9.9%、「少しは知っている」は 40.3%、「聞いたことがある」は 30.0%となり、合わせて、何らかの形で同和問題を『知っている』と答えた人の割合は 80.2%を占める。

 80.2%の人が同和問題を『知っている』

時系列比較



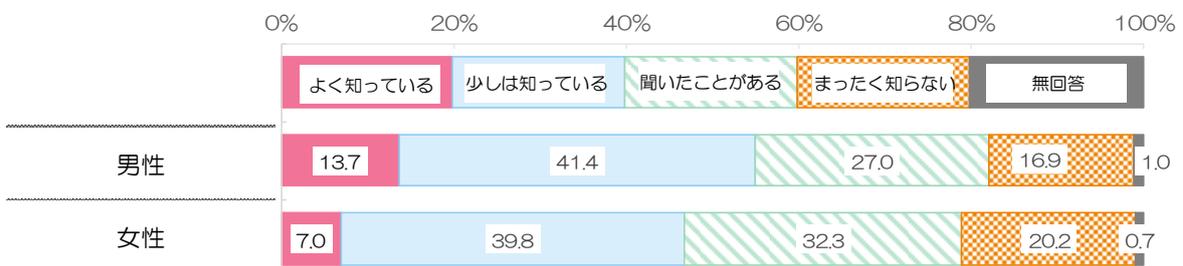
前回と比較して、「まったく知らない」という人の割合は増えている。一方、「よく知っている」と答えた人の割合は減っている。

同和問題を知らない人が増えている

属性別集計

● 性別比較

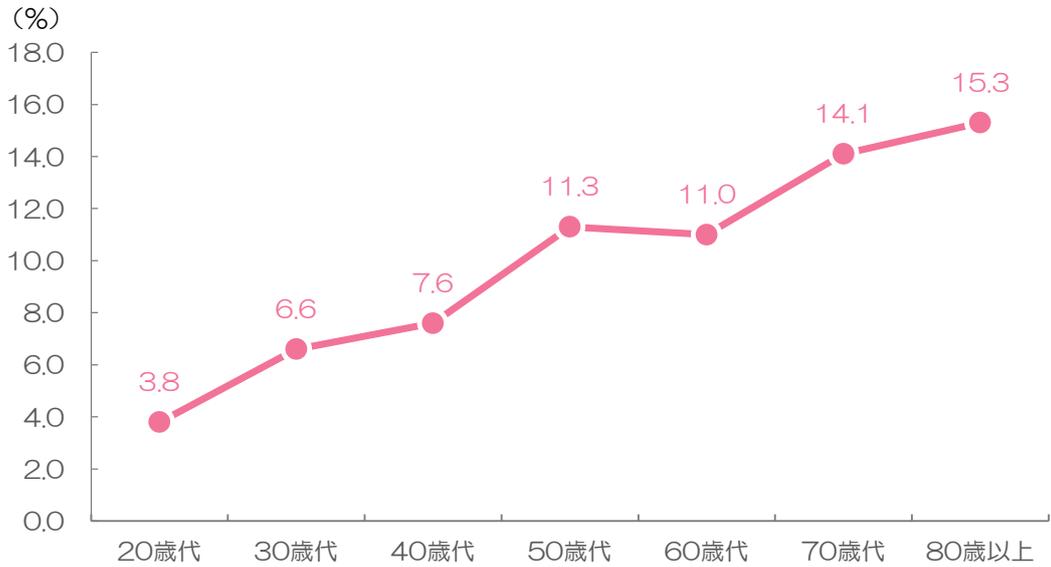
「よく知っている」と答えた人の割合を、性別比較



「よく知っている」と答えた人の割合は、13.7%で男性の方が高い。

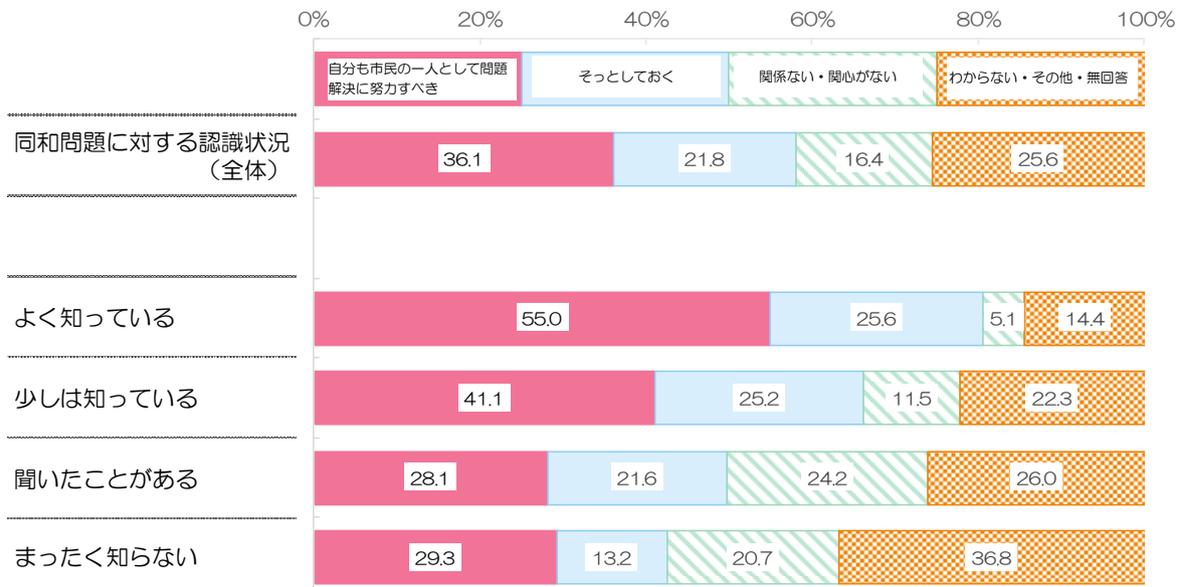
● 年代別比較

「よく知っている」と答えた人の割合を、年代別比較



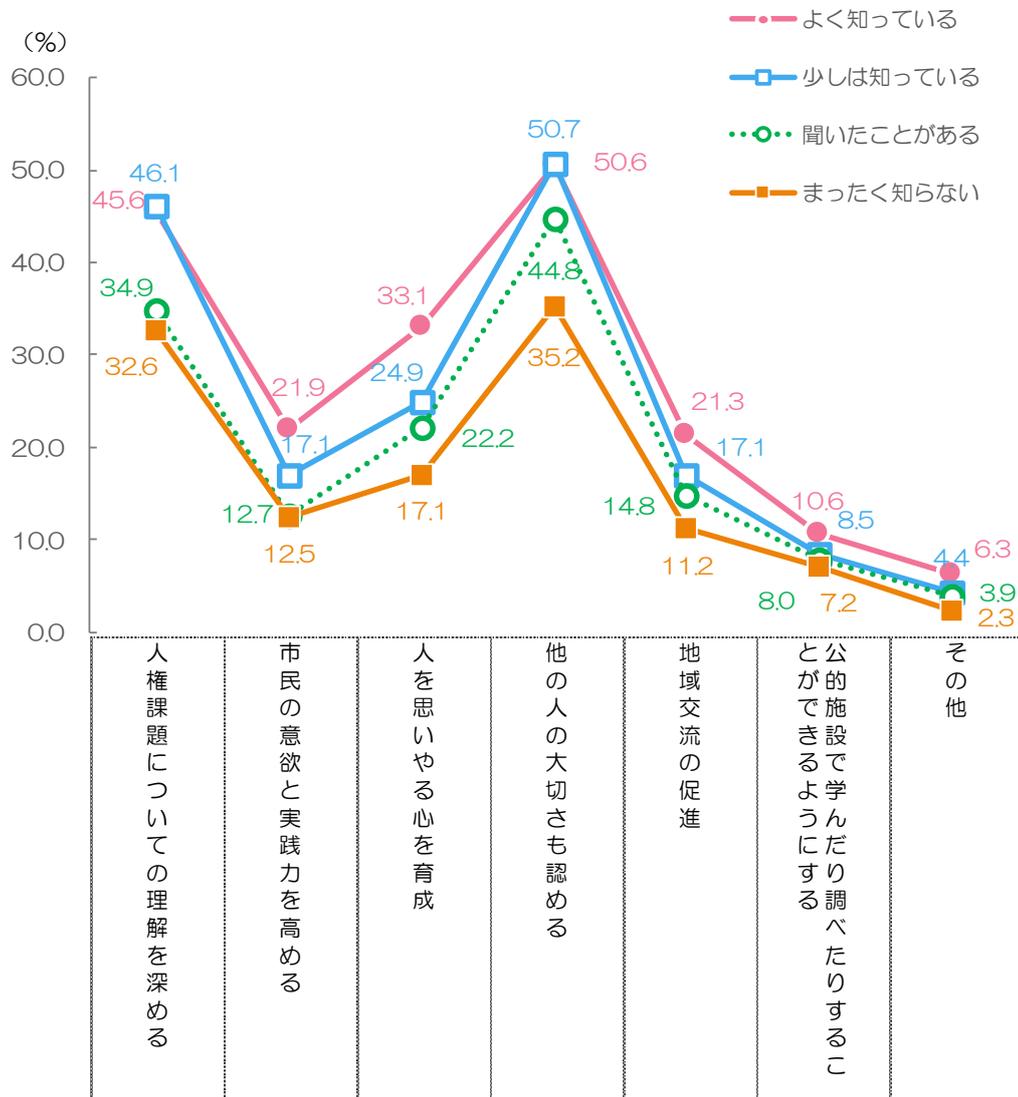
📊 設問間クロス集計

質問2「同和問題の認知状況」と質問6「同和問題に対する認識状況」との関連分析



👉 「よく知っている」と答えた人は、「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合が高い

質問 2 「同和問題の認知状況」と質問 15 「人権教育に期待するもの」との関連分析



「同和問題の認知状況」にかかわらず、「他の人の大切さも認める」「人権課題についての理解を深める」と答えた人の割合が高い

3 同和問題の認知経路

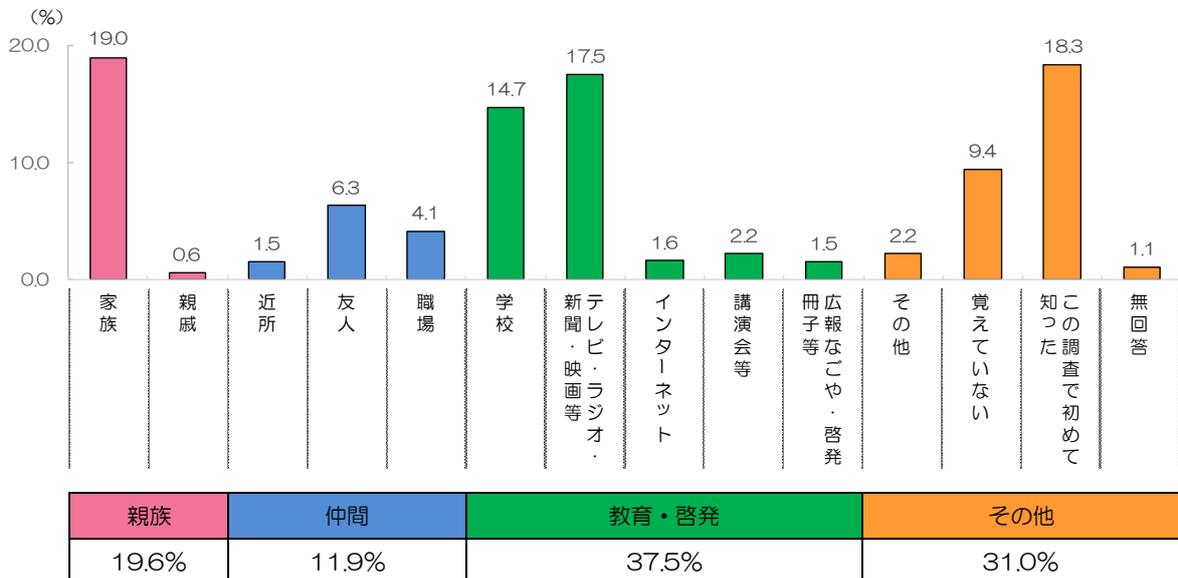
【質問3】

あなたが同和問題を初めて知ったり、聞いたりしたきっかけは、誰からまたは何からですか。(SA)

(当てはまる番号1つに○)

- 1 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)から聞いた
- 2 親戚の人から聞いた
- 3 近所の人から聞いた
- 4 友人から聞いた
- 5 職場の人から聞いた
- 6 学校の授業で教わった
- 7 テレビ・ラジオ・新聞・映画・本などで知った
- 8 インターネットで知った
- 9 講演会や研修会で知った
- 10 広報なごや・啓発冊子「同和問題と人権」などで知った
- 11 その他
- 12 覚えていない
- 13 このアンケート調査で初めて知った

単純集計

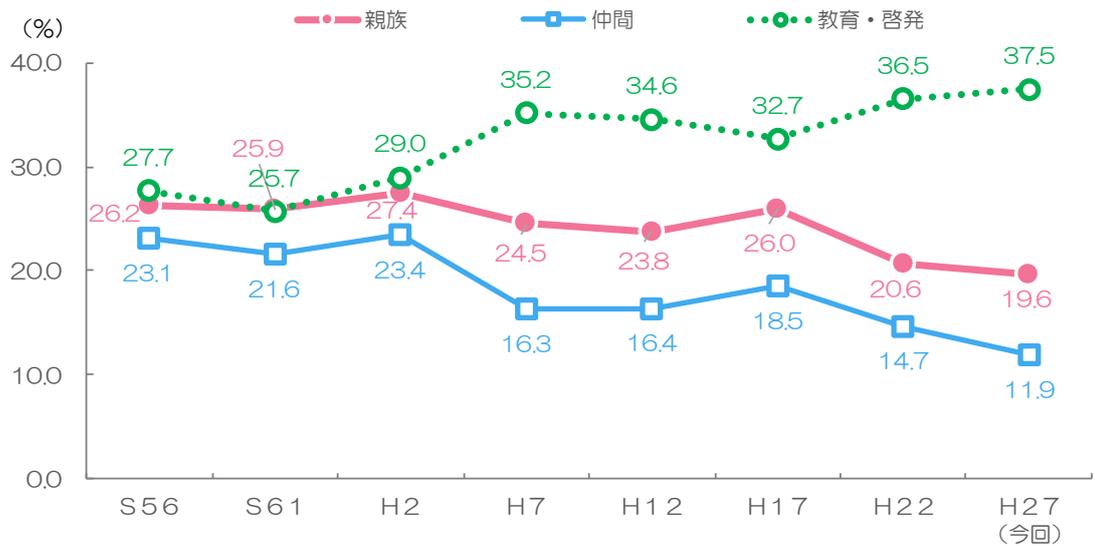


同和問題の認知経路を『親族』『仲間』『教育・啓発』のグループに分けてみると、『教育・啓発』が 37.5%と最も高く、次いで『親族』19.6%、『仲間』11.9%となっている。

個別に見ると、「家族」19.0%、「この調査で初めて知った」18.3%、「テレビ・新聞など」17.5%、「学校」14.7%の順となっている。

『教育・啓発』で知った人は、37.5%

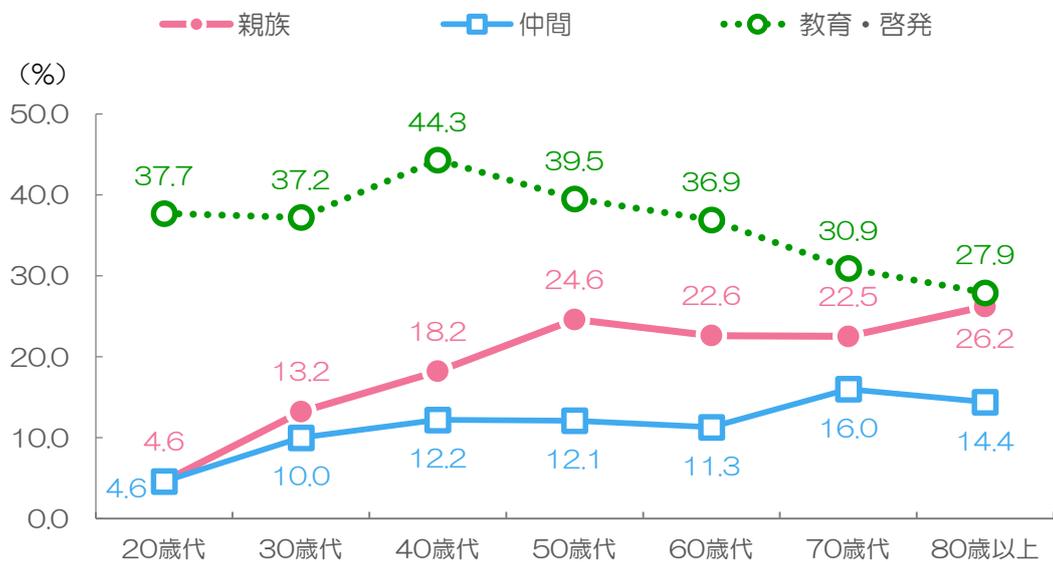
時系列比較



『親族』『仲間』と答えた人の割合は減り、『教育・啓発』と答えた人の割合は増えている

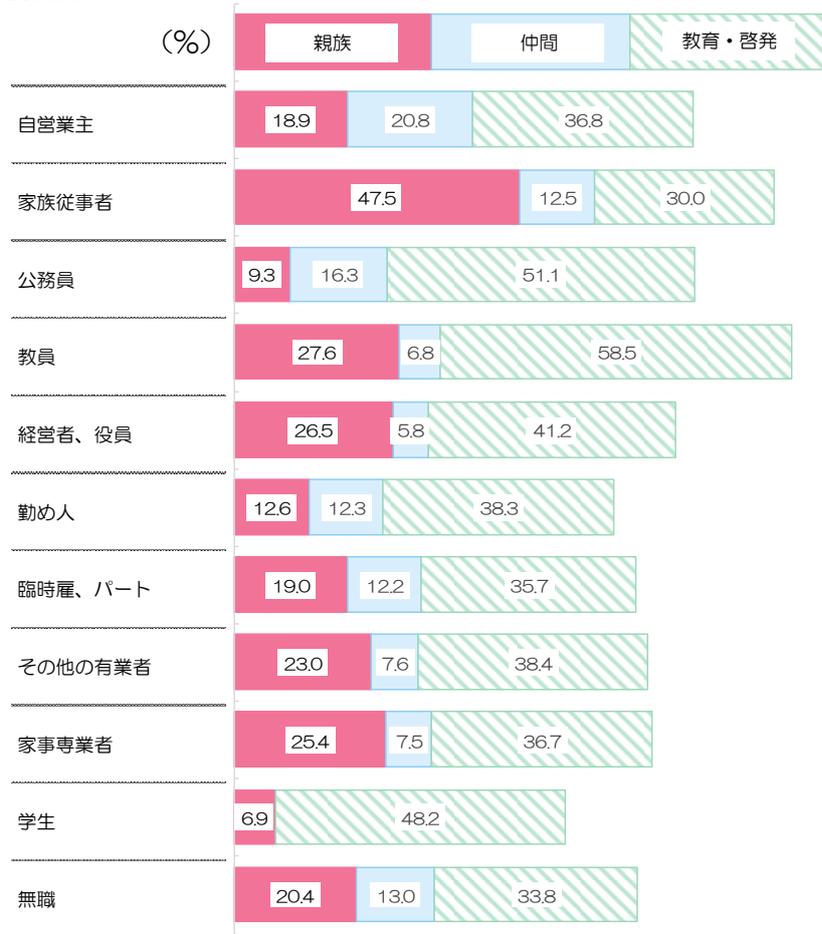
属性別集計

年代別比較



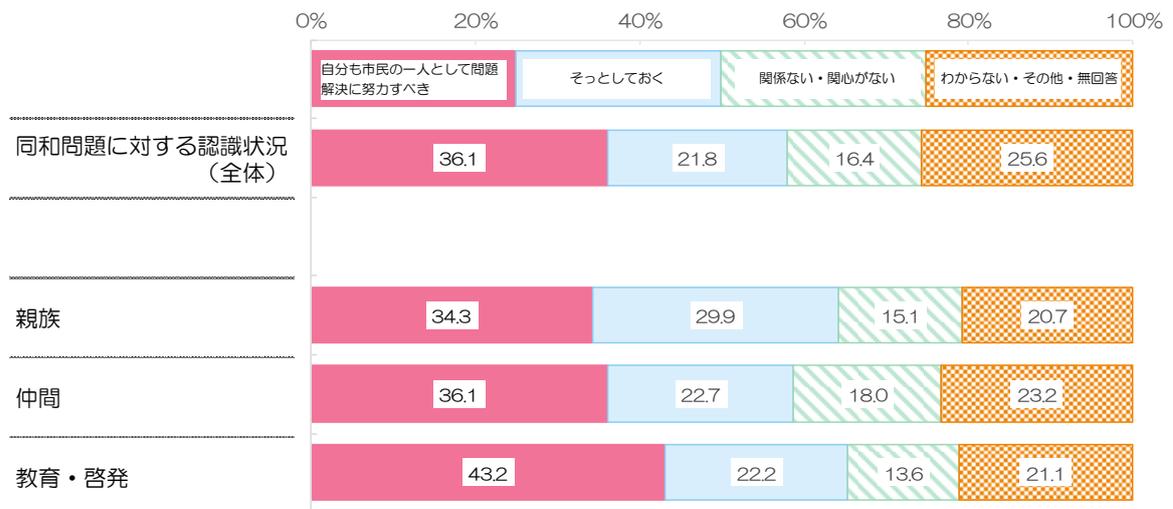
いずれの年代も、『教育・啓発』と答えた人の割合が高い

● 職業別比較



📊 設問間クロス集計

質問3「同和問題の認知経路」と質問6「同和問題に対する認識状況」との関連分析

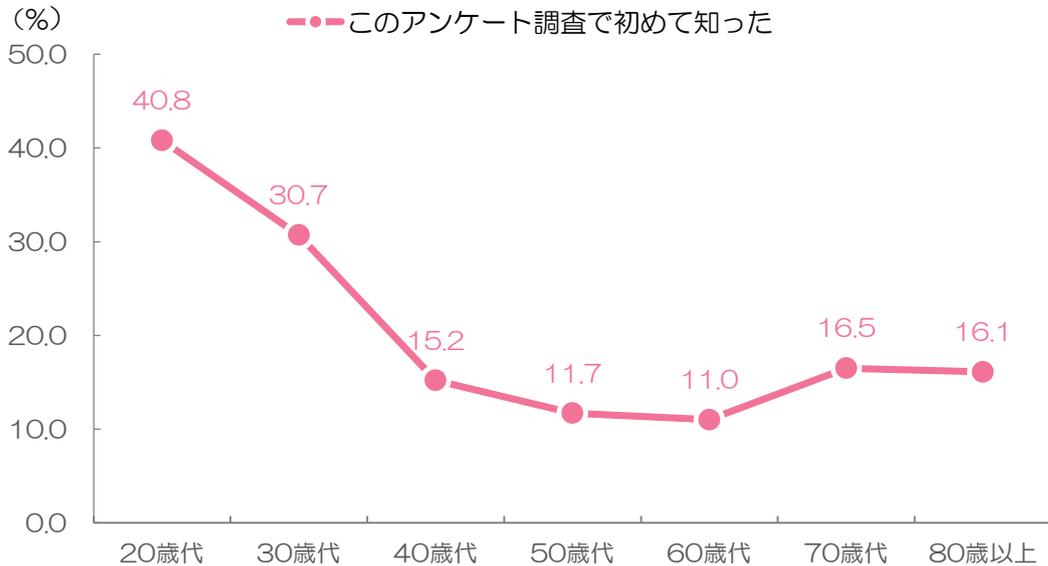


👉 『教育・啓発』と答えた人は、「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合が高い

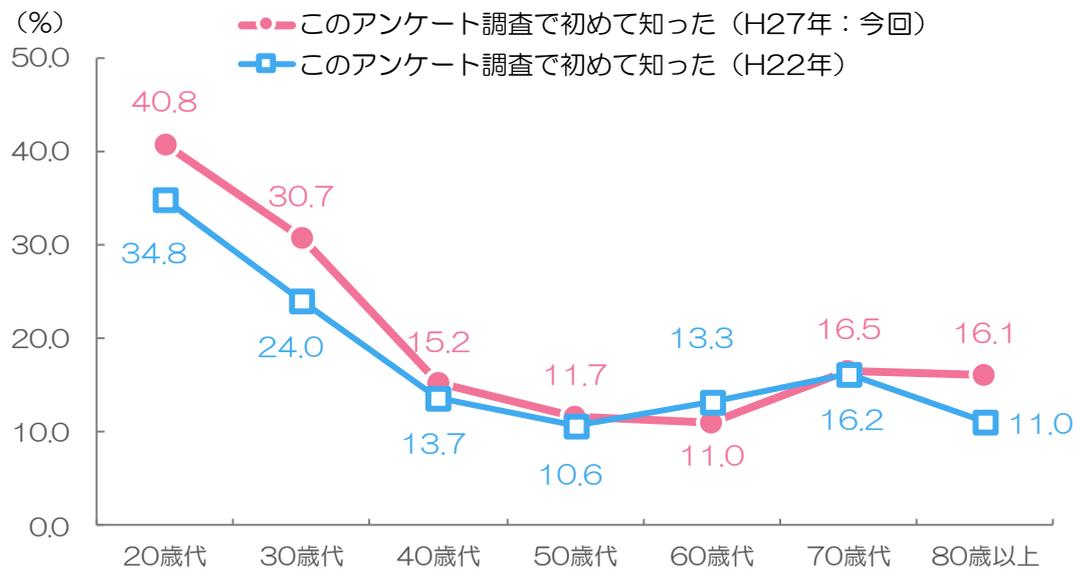
■ 「質問 3(選択肢 13) このアンケート調査で初めて知った」の分析

属性別集計

● 年代別比較



● 年代別時系列比較



「このアンケート調査で初めて知った」と答えた人の割合は、前回と比較して「20歳代」、「30歳代」で増えている

4 同和問題の認知時期

【質問4】

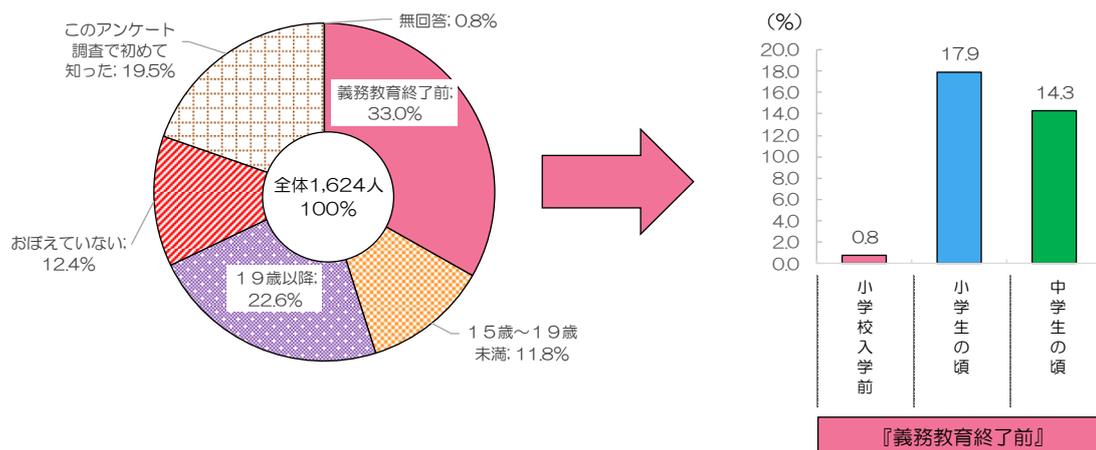
あなたが同和問題について初めて知ったり、聞いたりしたのは、いつ頃のことですか。

(SA)

(当てはまる番号1つに○)

- 1 6歳未満（小学校に入学する前）
- 2 6歳～12歳未満（小学生の頃）
- 3 12歳～15歳未満（中学生の頃）
- 4 15歳～19歳未満
- 5 19歳以降
- 6 おぼえていない
- 7 このアンケート調査で初めて知った

単純集計



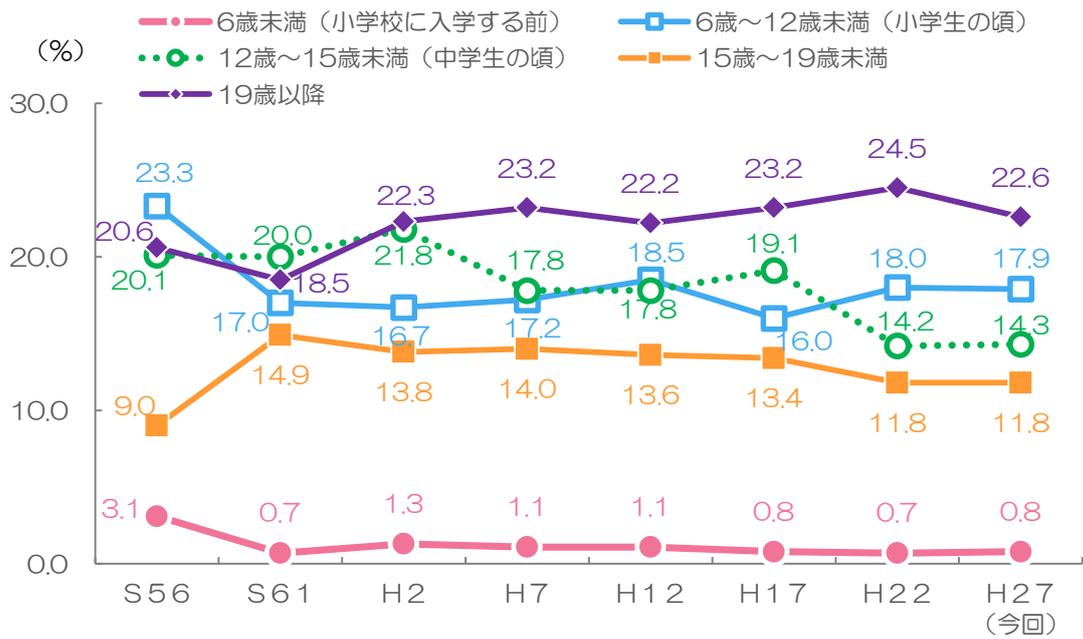
※注：『義務教育終了前』は15歳未満

認知時期は『義務教育終了前』と答えた人の割合が33.0%で最も高く、次いで「19歳以降」22.6%、「このアンケート調査で初めて知った」19.5%の順になっている。

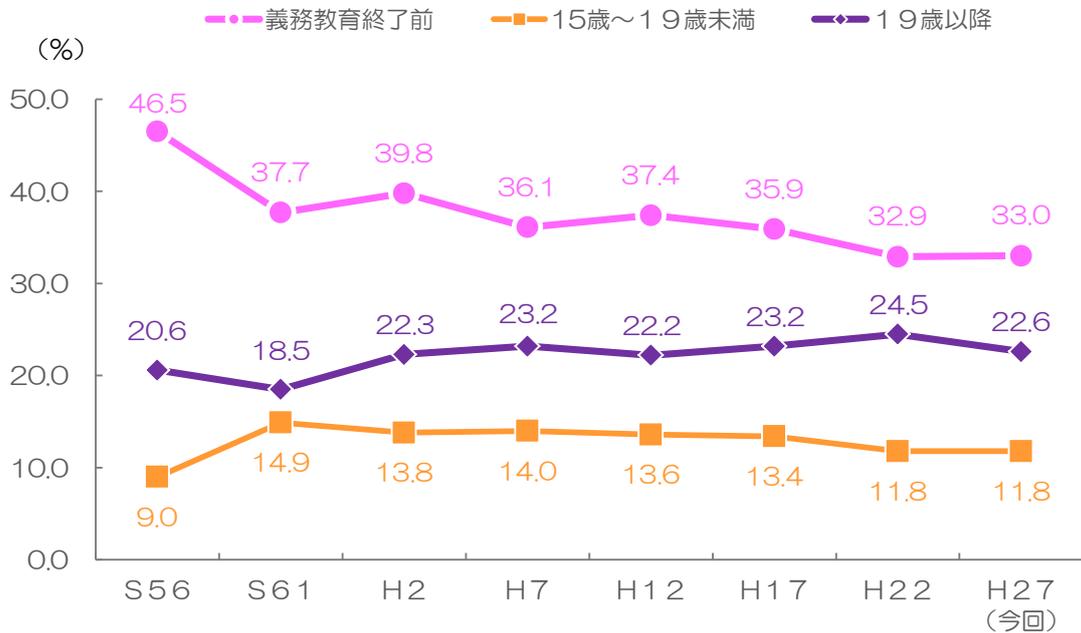
👉 『義務教育終了前』に知ったと答えた人の割合は、33.0%



時系列比較

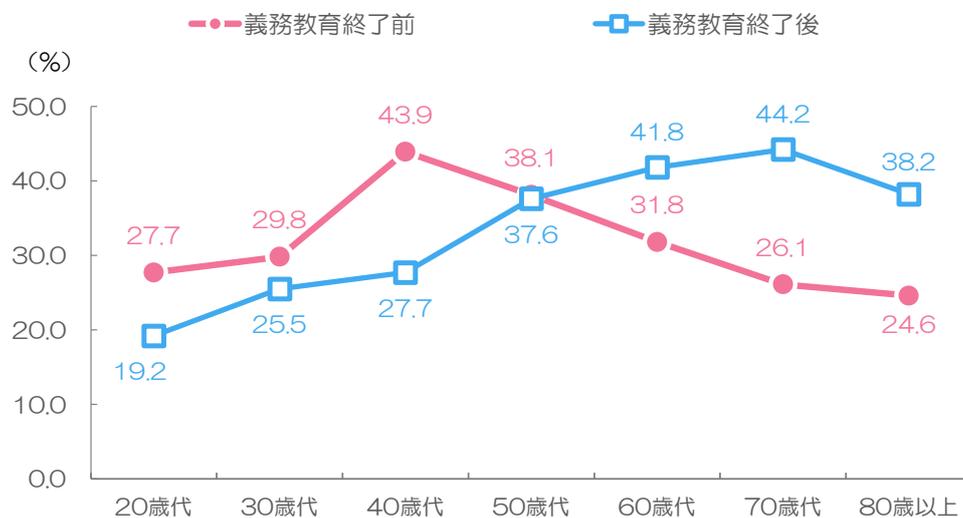


「6歳未満 (小学校に入学する前)」「6歳~12歳未満 (小学生の頃)」「12歳~15歳未満 (中学生の頃)」を『義務教育終了前』にまとめ、時系列比較



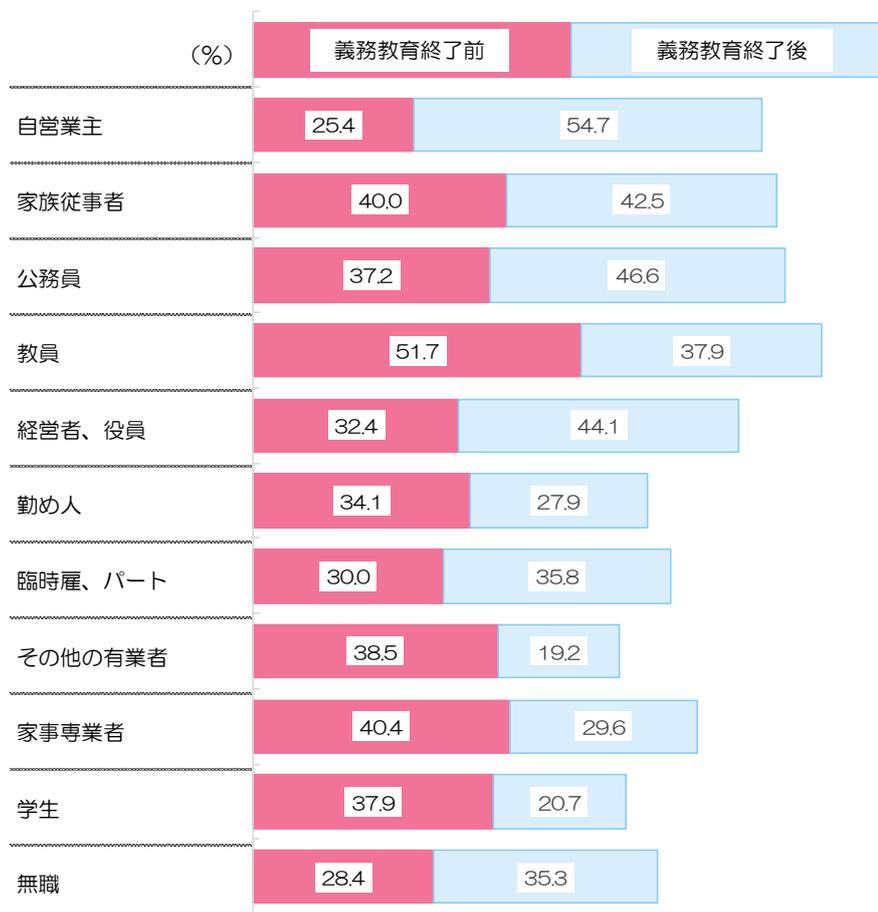
● 年代別比較

『義務教育終了前』と『義務教育終了後』との、年代別比較

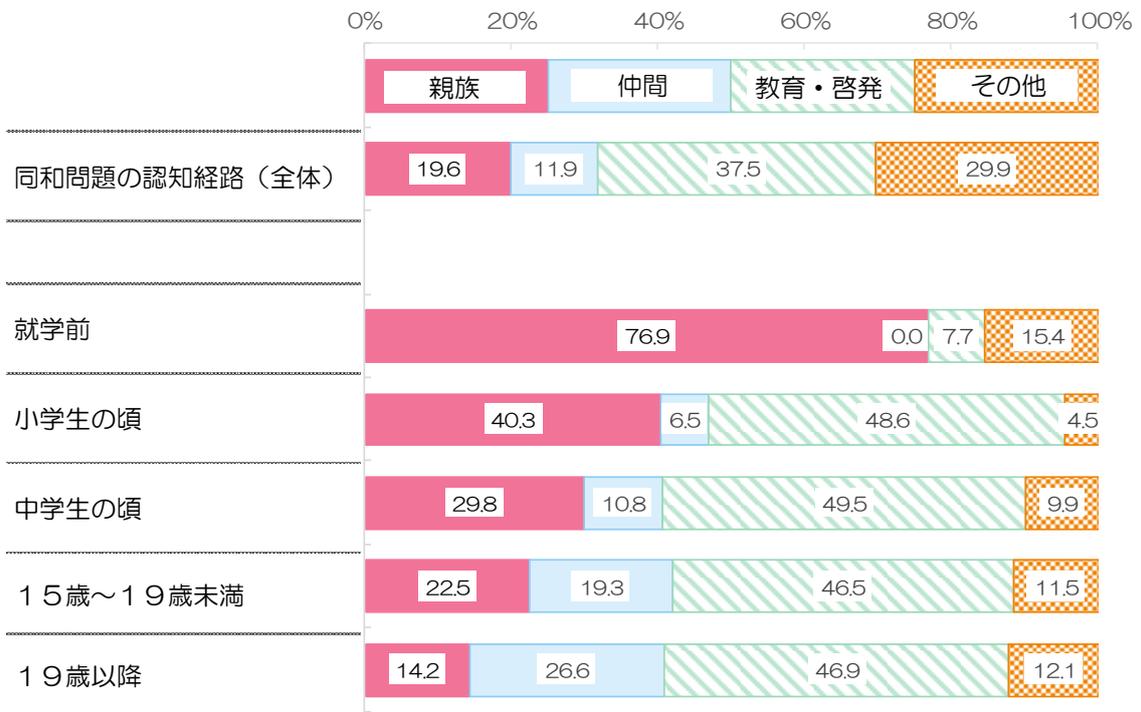


● 職業別比較

『義務教育終了前』と『義務教育終了後』との、職業別比較



質問4「同和問題の認知時期」と質問3「同和問題の認知経路」との関連分析



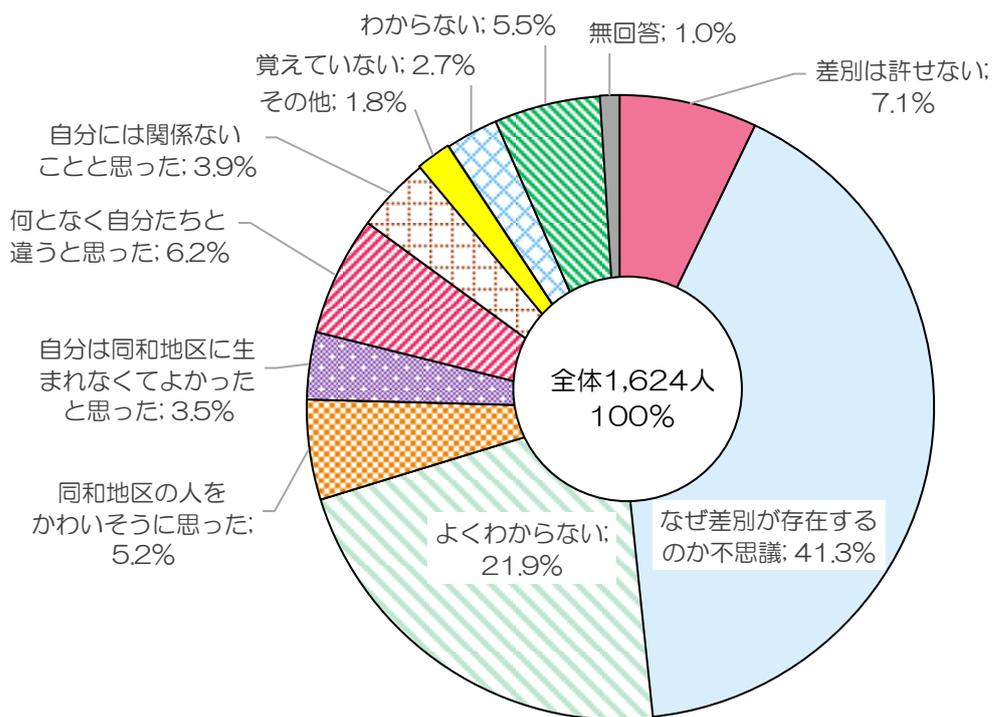
5 同和問題を知ったときの印象

【質問5】

あなたが同和問題を初めて知ったり、聞いたりしたとき、どう思いましたか。(SA)
(当てはまる番号1つに○)

- 1 差別があることを許せないと思った
- 2 なぜ差別が存在するのか不思議に思った
- 3 どういうことなのかよくわからなかった
- 4 同和地区の人をかわいそうに思った
- 5 自分は同和地区に生まれなくてよかったと思った
- 6 何となく自分たちと違うと思った
- 7 自分には関係ないことと思った
- 8 その他
- 9 覚えていない
- 10 わからない

単純集計



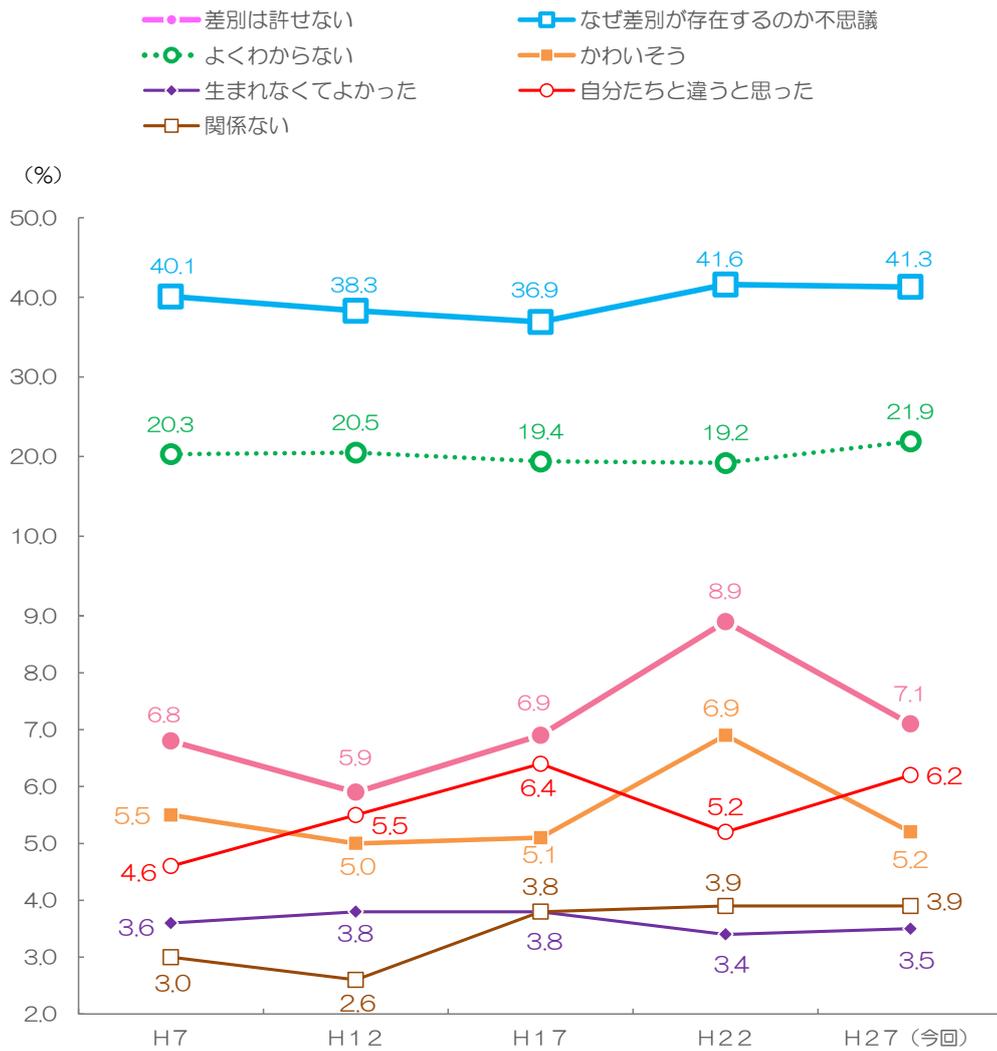
「なぜ差別が存在するのか不思議」と答えた人の割合は、41.3%と最も高くなっている。次いで、「よくわからない」21.9%、「差別は許せない」7.1%の順となっている。



「なぜ差別が存在するのか不思議」と答えた人の割合は、41.3%

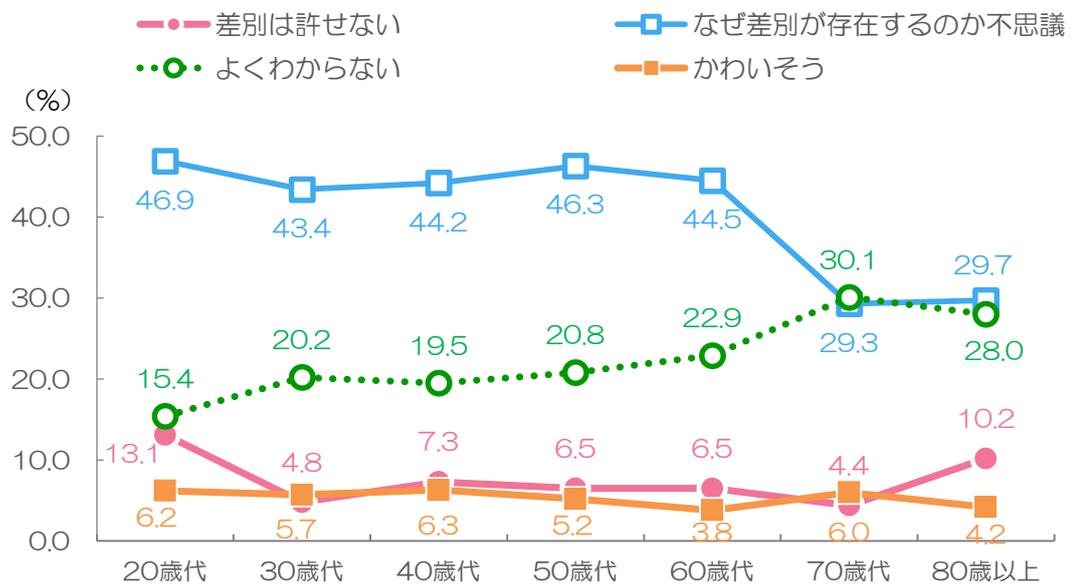


時系列比較

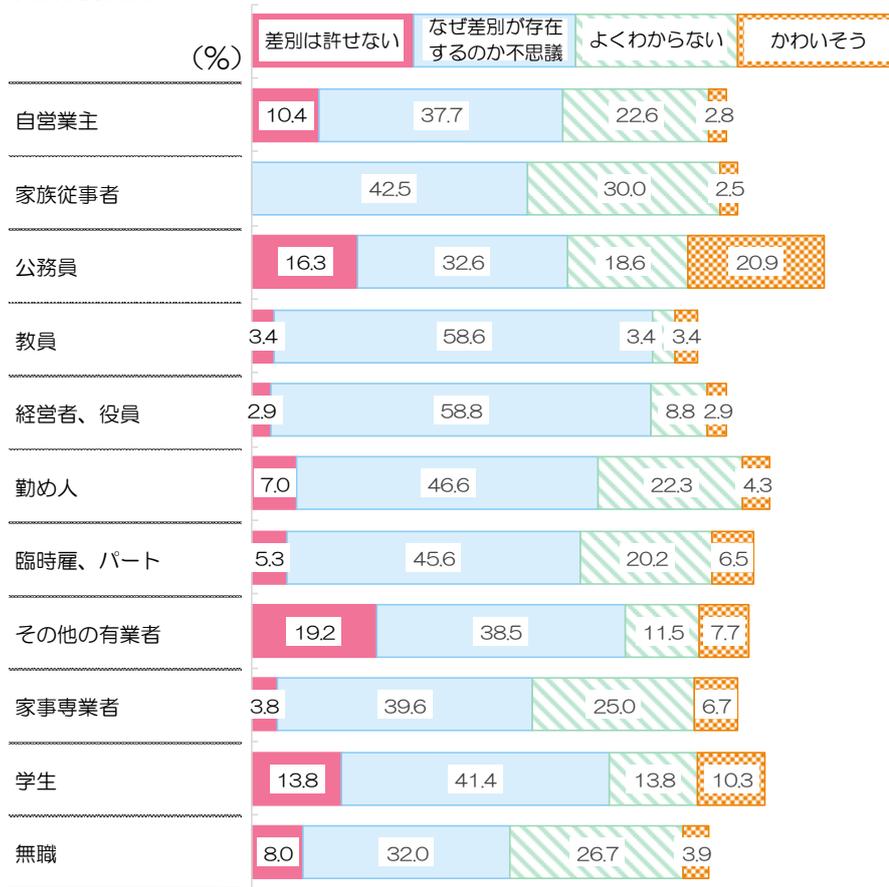


属性別集計

● 年代別比較

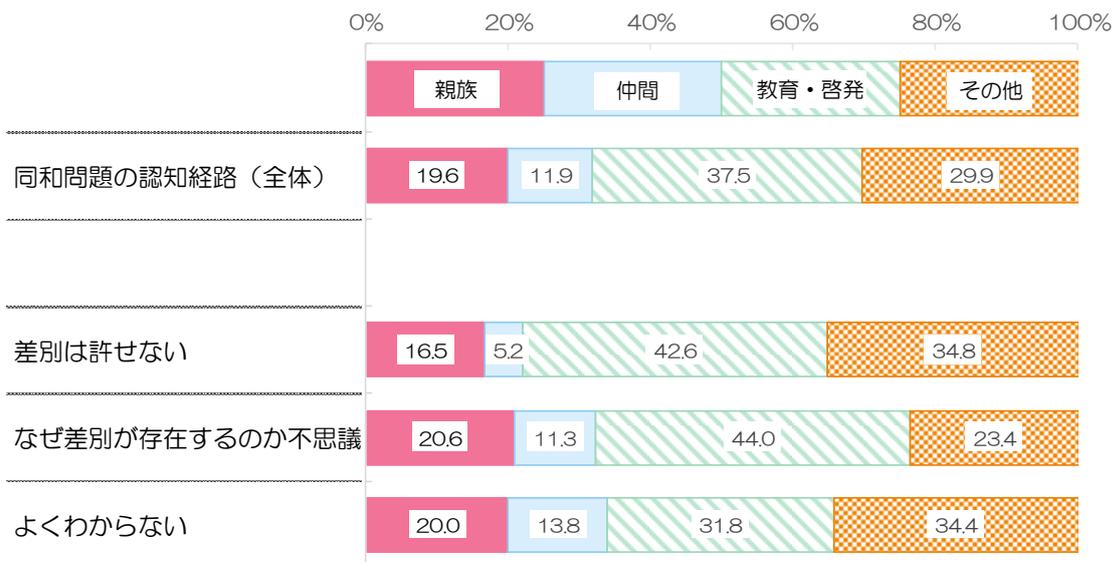


● 職業別比較



📊 設問間クロス集計

質問5「同和問題を知った時の印象」と質問3「同和問題の認知経路」との関連分析



👉 「なぜ差別が存在するのか不思議」と答えた人は、『教育・啓発』と答えた人の割合が44.0%

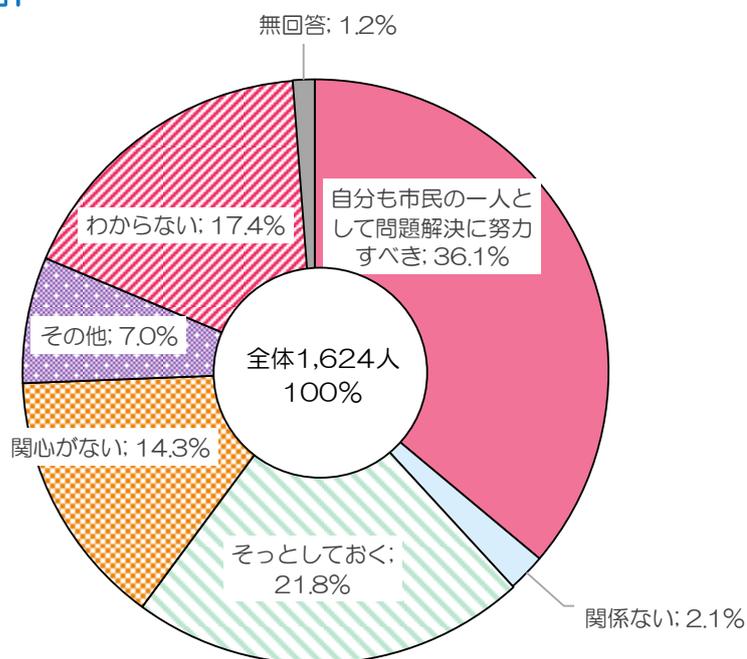
6 同和問題に対する認識状況

【質問6】

同和問題について、現在あなたはどのようにお考えですか。(SA)
(当てはまる番号1つに○)

- 1 人間の自由や平等に関わる問題なので、自分も市民の一人としてこの問題の解決に努力すべきだと思う
- 2 同和地区の人々の問題であるから、自分には関係ないと思う
- 3 あまり騒がずにそっとしておくのがよいと思う
- 4 特に関心がない
- 5 その他
- 6 わからない

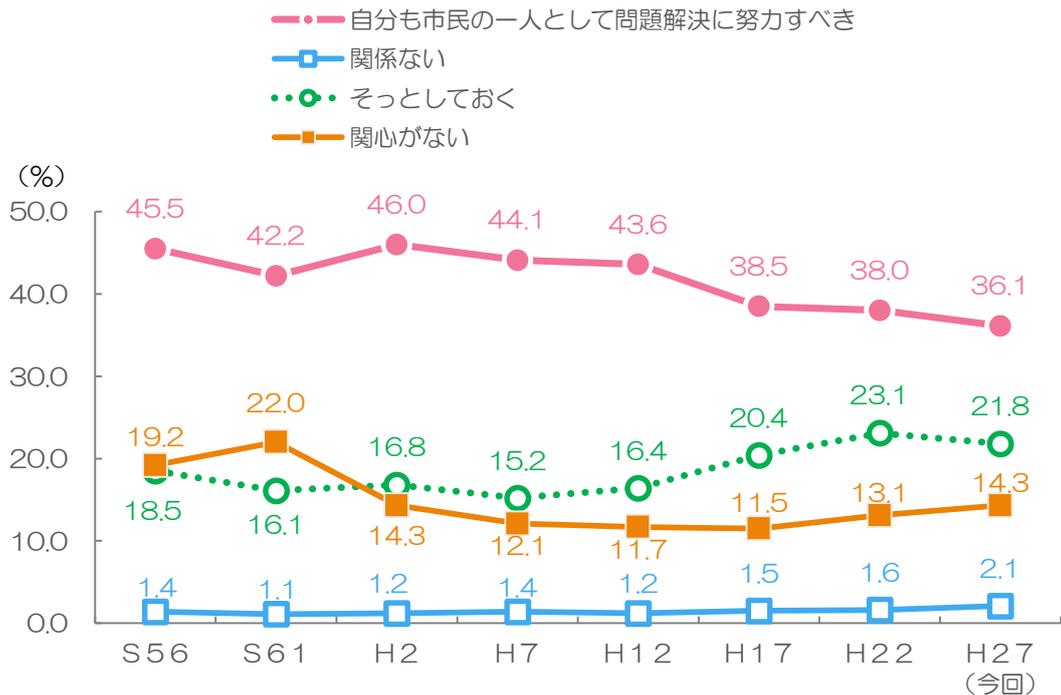
単純集計



「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合は、36.1%と最も高く、次いで「そっとしておく」21.8%、「わからない」17.4%、「関心がない」14.3%の順となっている。

「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合は、36.1%

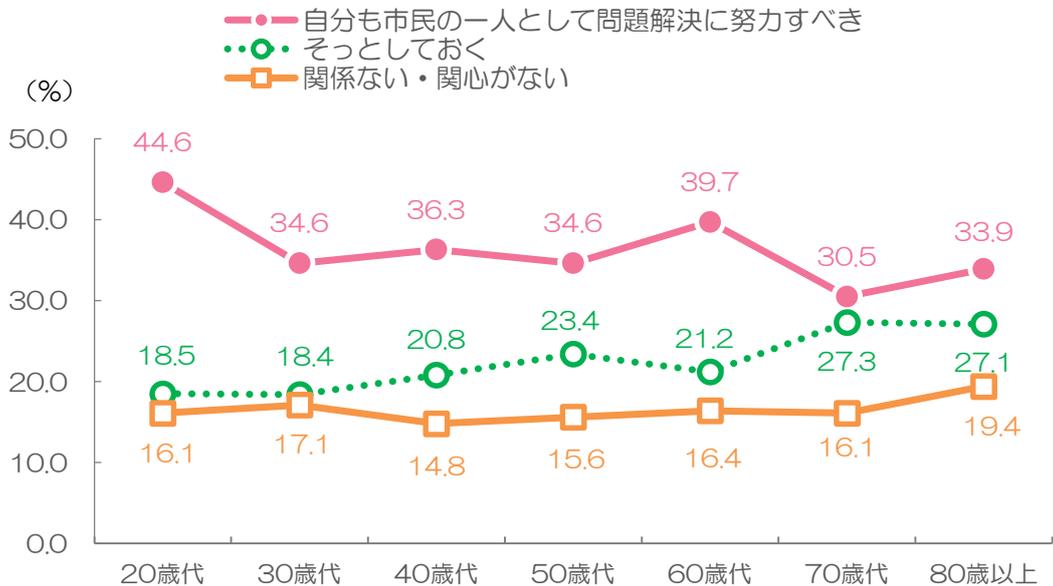
時系列比較



※注：H12 までは 1 の回答項目は「人間の自由や平等に関わる問題なので、国民（市民）全体で考えるべきである」という項目で調査した。

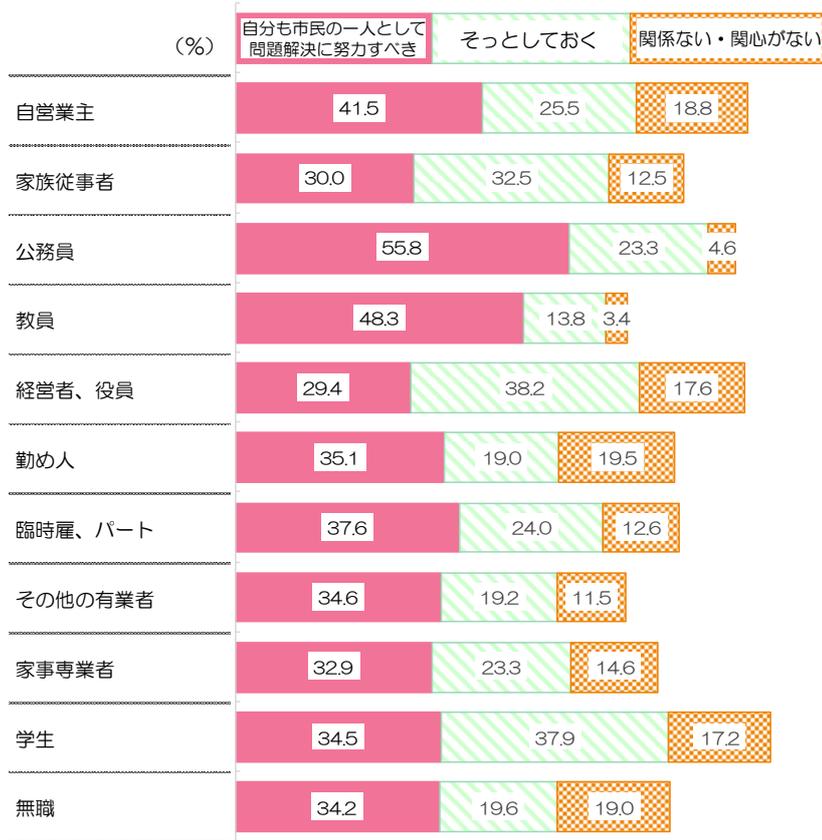
属性別集計

年代別比較



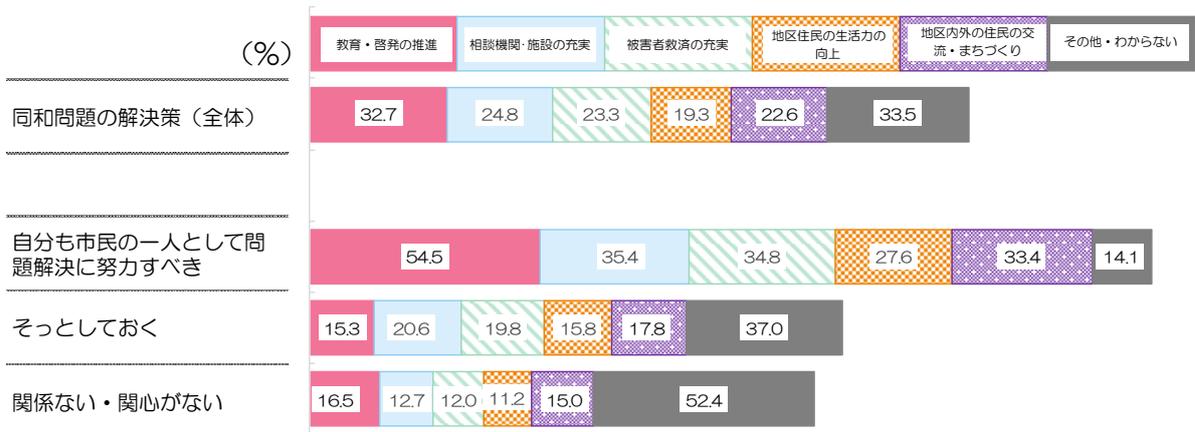
いずれの年代も、「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合が高い

● 職業別比較



設問間クロス集計

質問6「同和問題に対する認識状況」と質問 17「同和問題の解決策」との関連分析



「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人は、「教育・啓発の推進」と答えた人の割合が高い

7 交際における差別意識

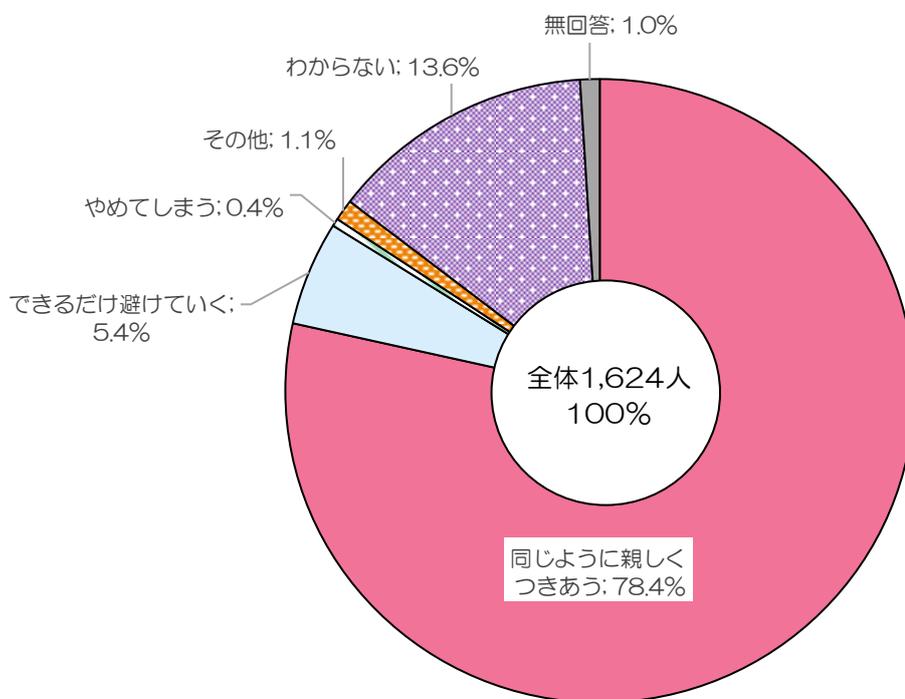
【質問 7】

かりに、日ごろ親しくつきあっている職場の人や近所の人が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。(SA)

(当てはまる番号1つに○)

- 1 これまでと同じように親しくつきあう
- 2 表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく
- 3 つきあいはやめてしまう
- 4 その他
- 5 わからない

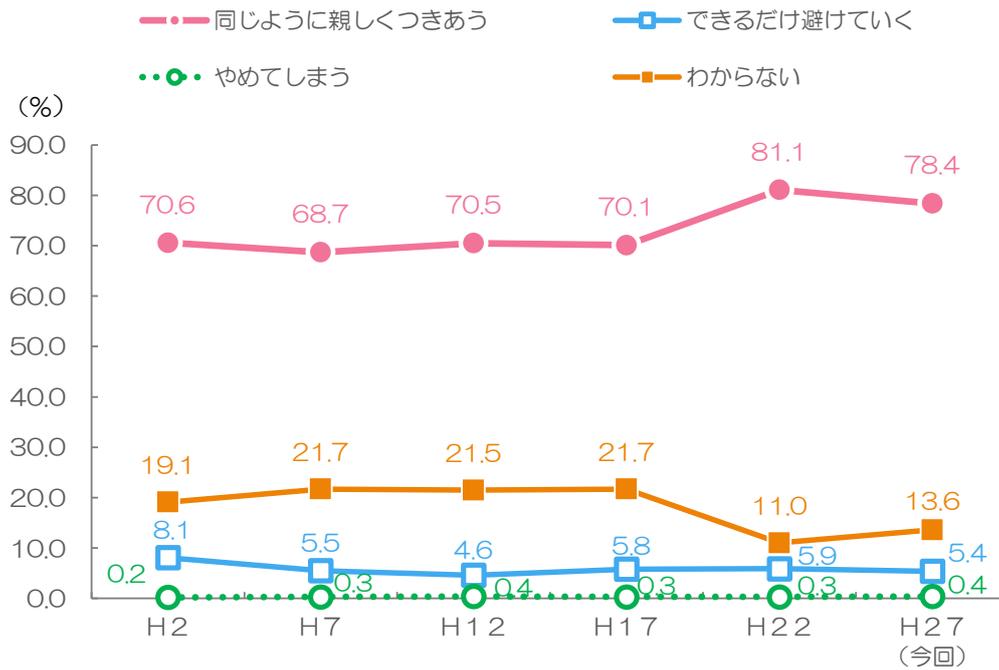
単純集計



「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は、78.4%となっている。一方、「できるだけ避けていく」(5.4%)と答えた人、「やめてしまう」(0.4%)と答えた人の割合は、合わせて5.8%となっている。

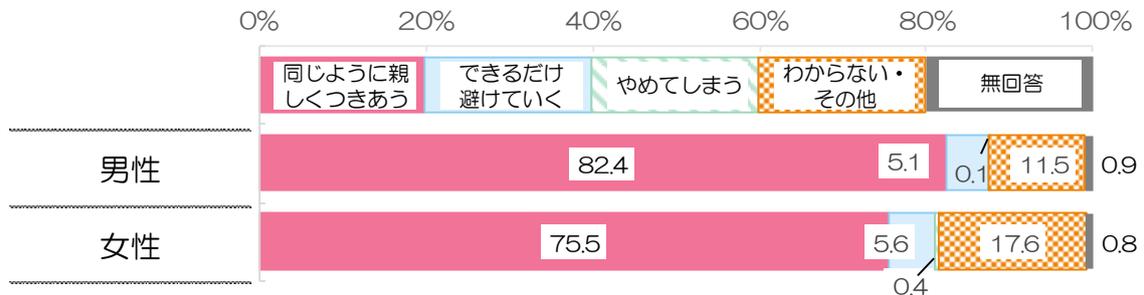
「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は、78.4%

時系列比較



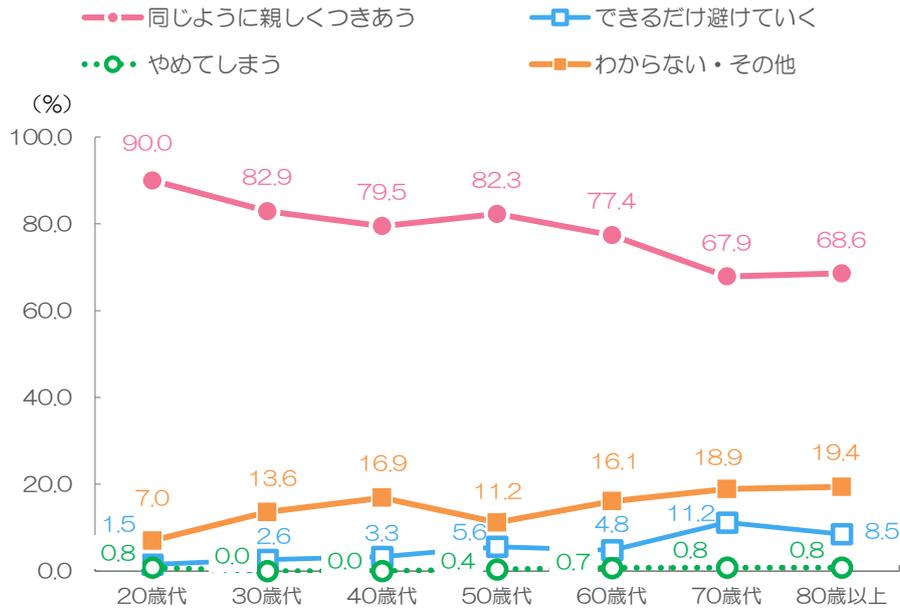
属性別集計

● 性別比較



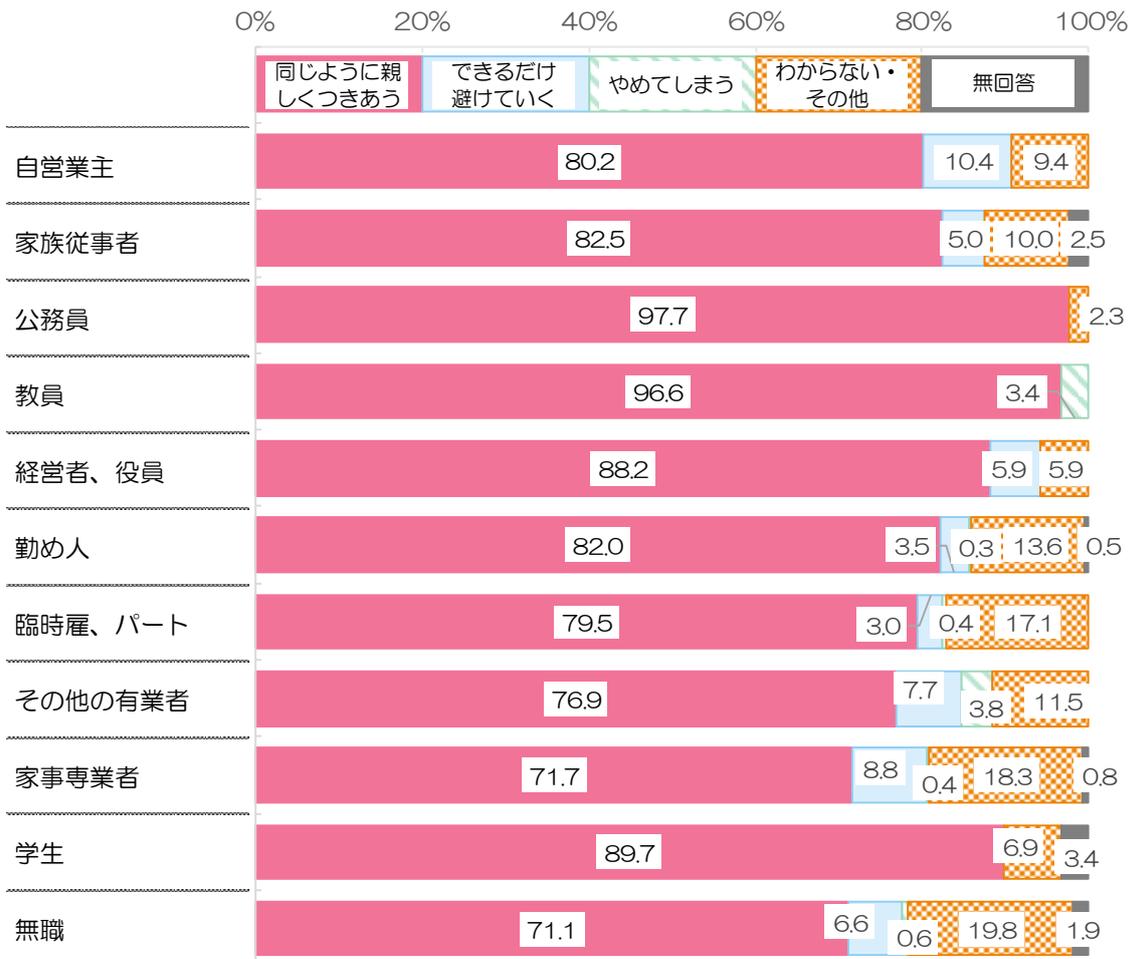
👉 「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合は、男性の方が高い

● 年代別比較



いずれの年代も、「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合が高い

● 職業別比較



いずれの職業も、「同じように親しくつきあう」と答えた人の割合が高い

8 結婚における差別意識 1（親類や親しい人の結婚）

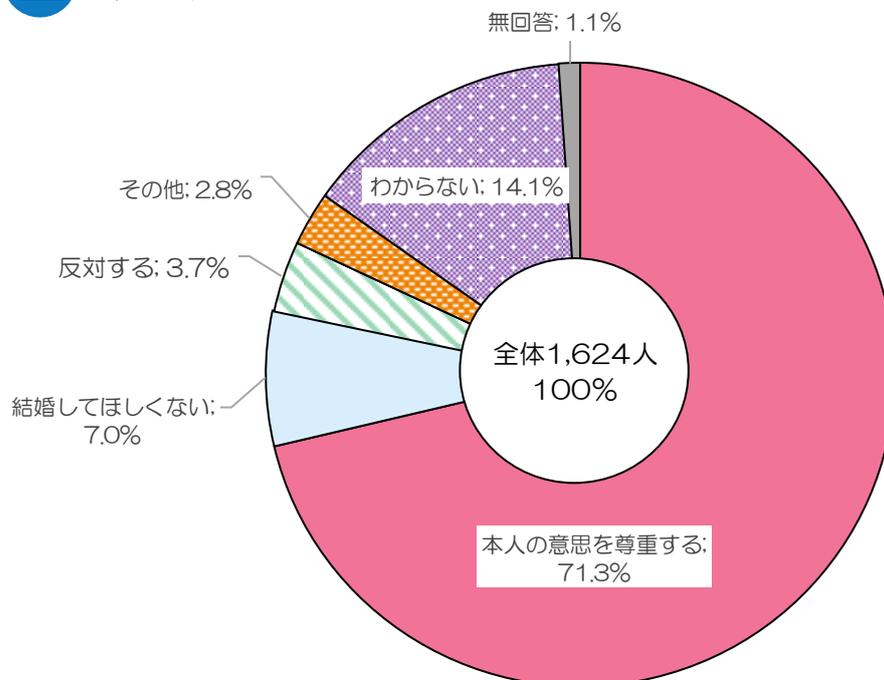
【質問 8】

かりに、あなたの親類や親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。（SA）

（当てはまる番号1つに○）

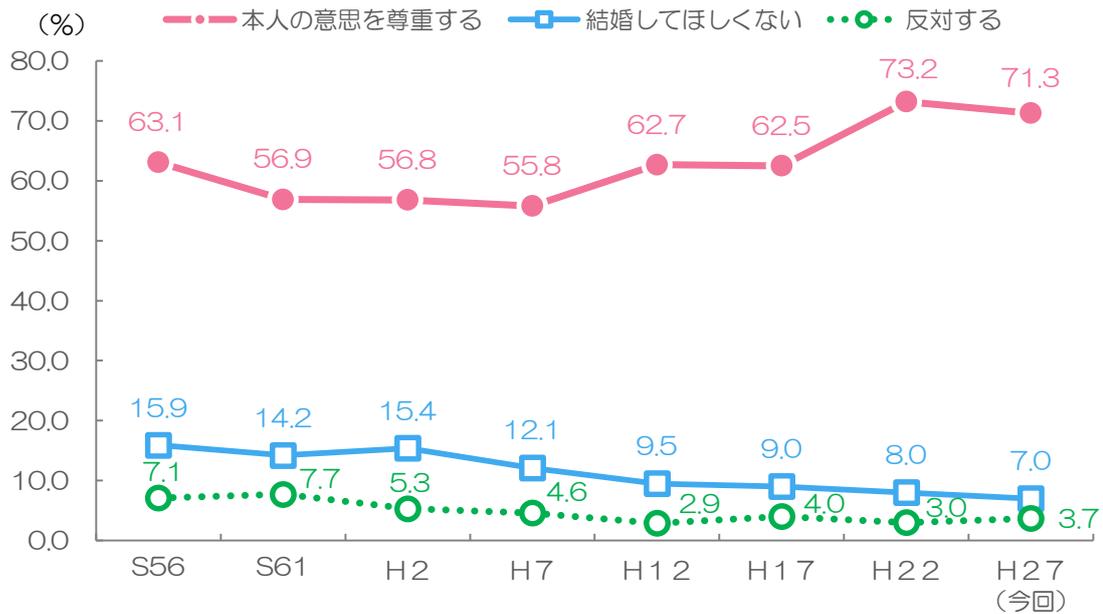
- 1 本人の意思を尊重する
- 2 自分がかまわないが、世間へのでまえがあるから、できれば結婚してほしくない
- 3 結婚することには反対する
- 4 その他
- 5 わからない

単純集計



「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合は、71.3%

時系列比較

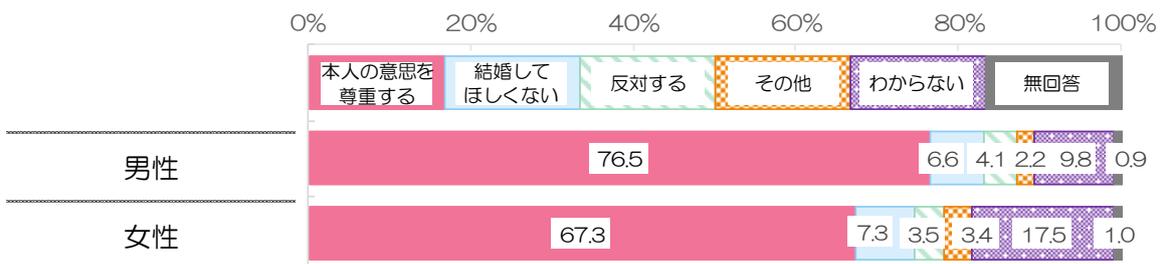


「結婚してほしくない」「反対する」は合わせて 10.7%となっており、昭和56年の調査以降、最も低くなっている。

「結婚してほしくない」「反対する」と答えた人の割合は減っている

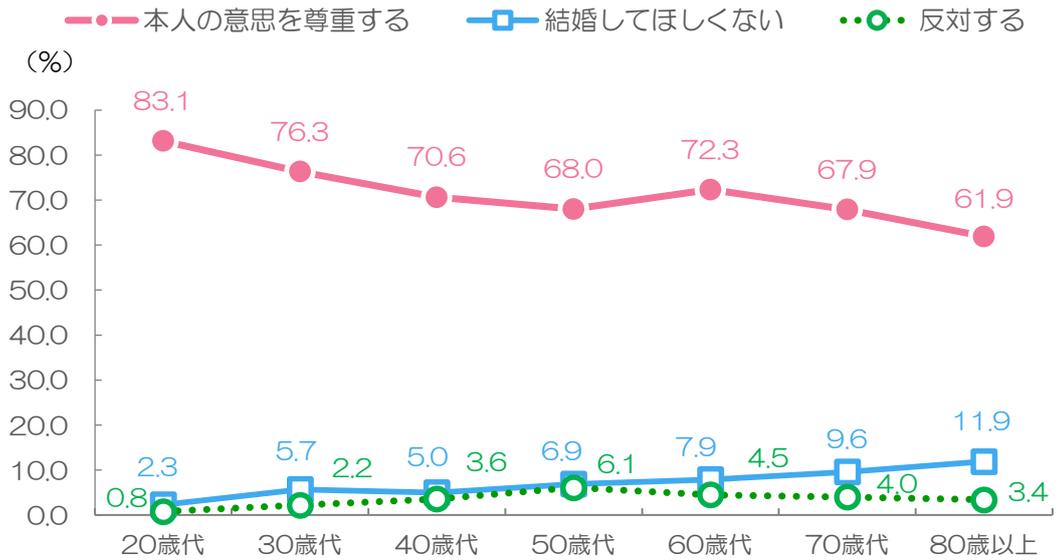
属性別集計

性別比較



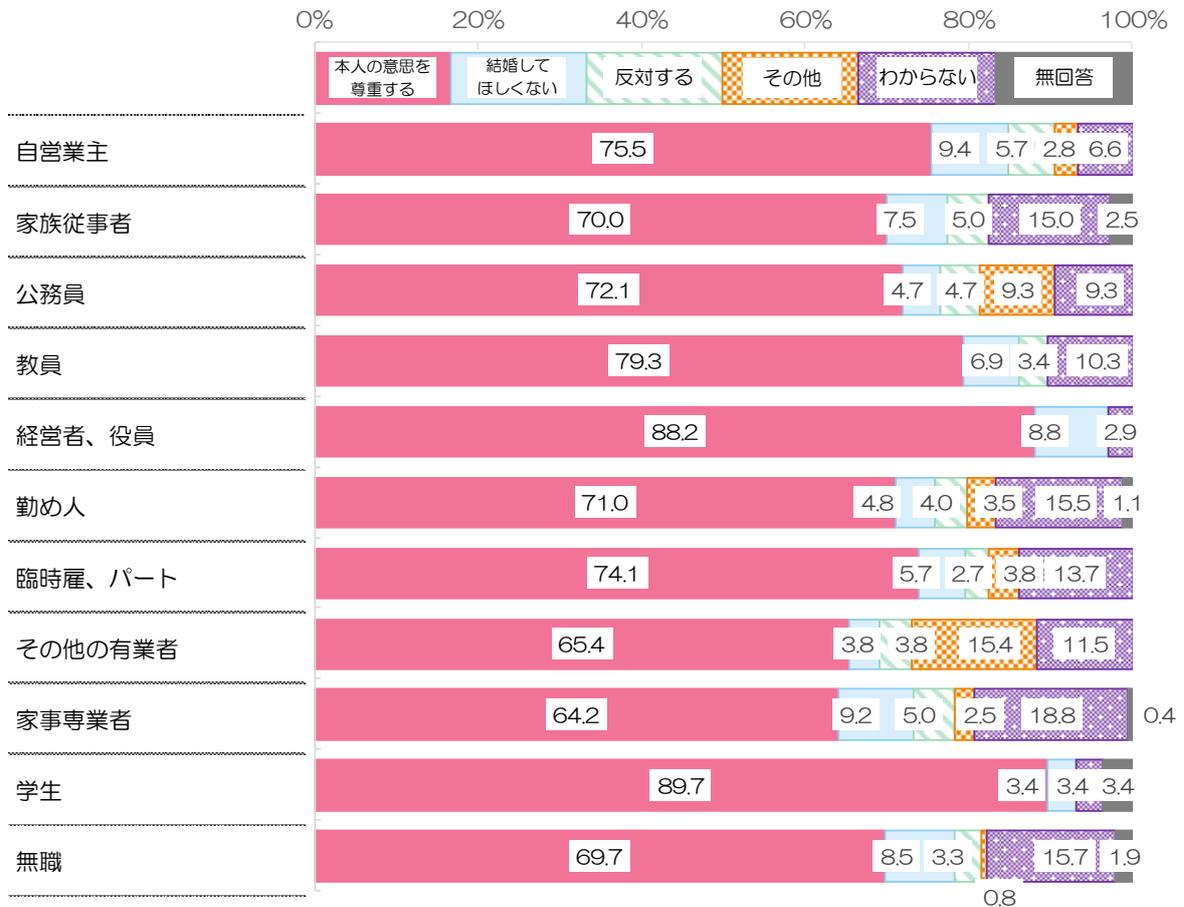
「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合は、男性の方が高い

● 年代別比較



いずれの年代も、「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

● 職業別比較



いずれの職業も、「本人の意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

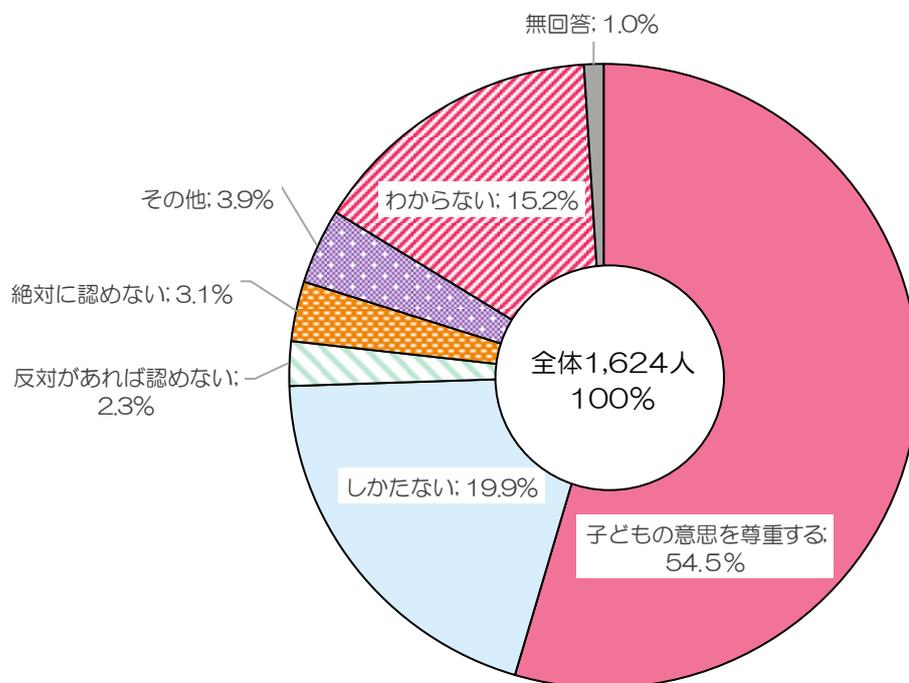
9 結婚における差別意識2（子どもの結婚）

【質問9】

かりに、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどのようにされますか。(SA)
(当てはまる番号1つに○)

- 1 子どもの意思を尊重する
- 2 親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない
- 3 家族や親類の反対があれば、結婚を認めない
- 4 絶対に結婚を認めない
- 5 その他
- 6 わからない

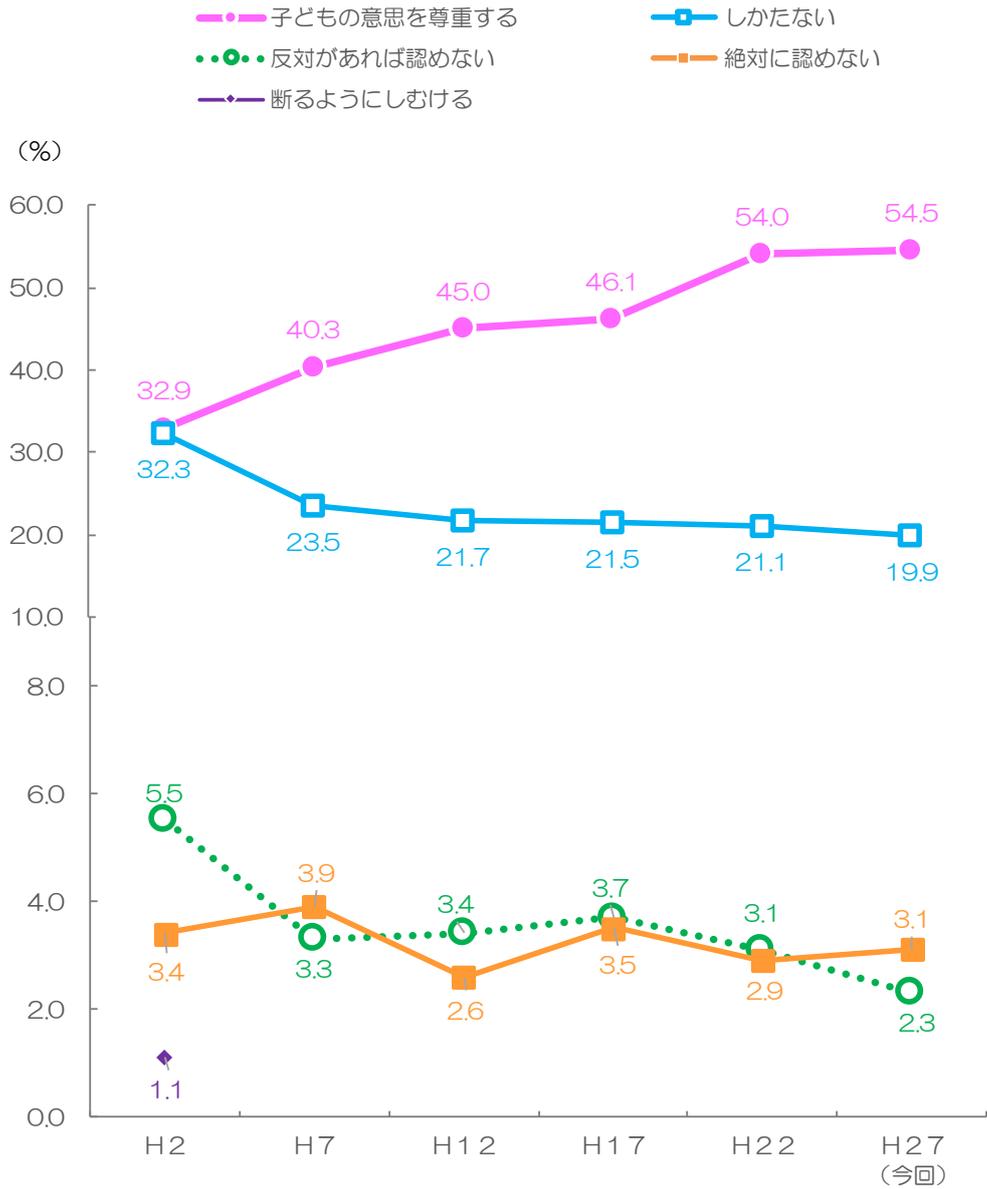
単純集計



「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合は、54.5%



時系列比較



※注：H2は「断るようしむける」という項目も調査した。

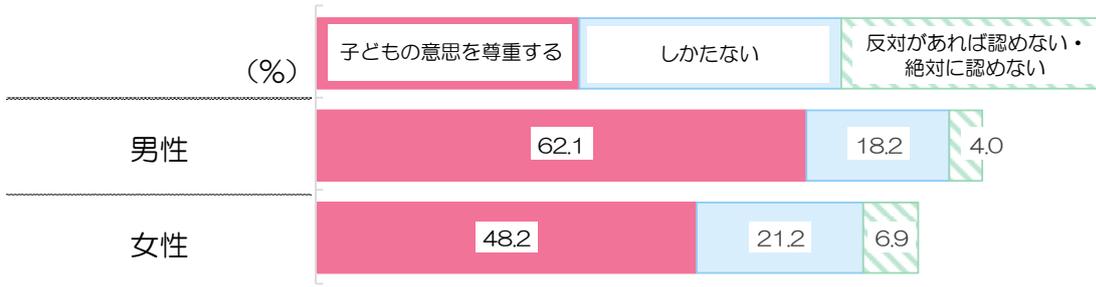


「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合は増えている



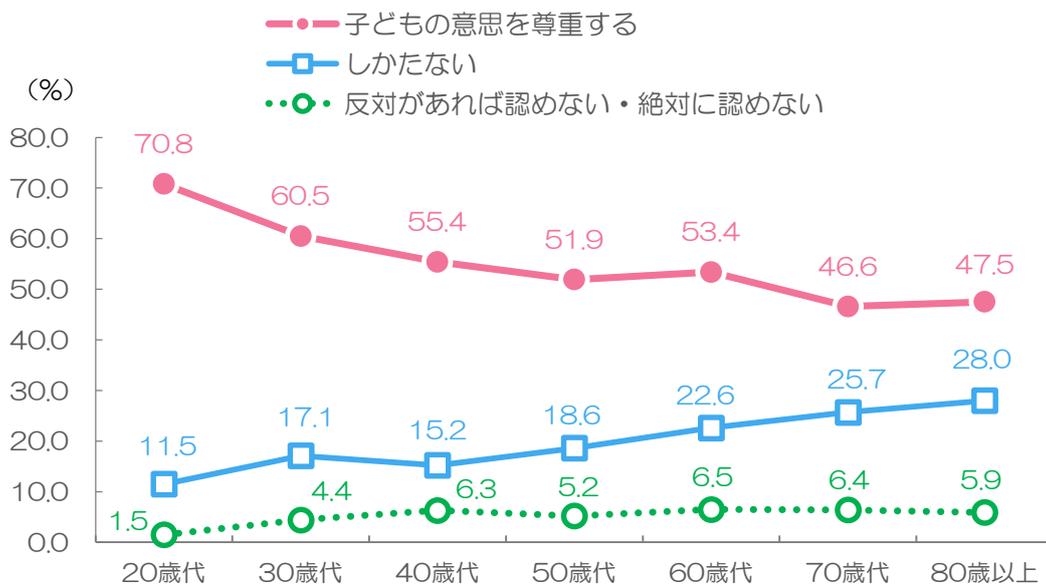
属性別集計

● 性別比較



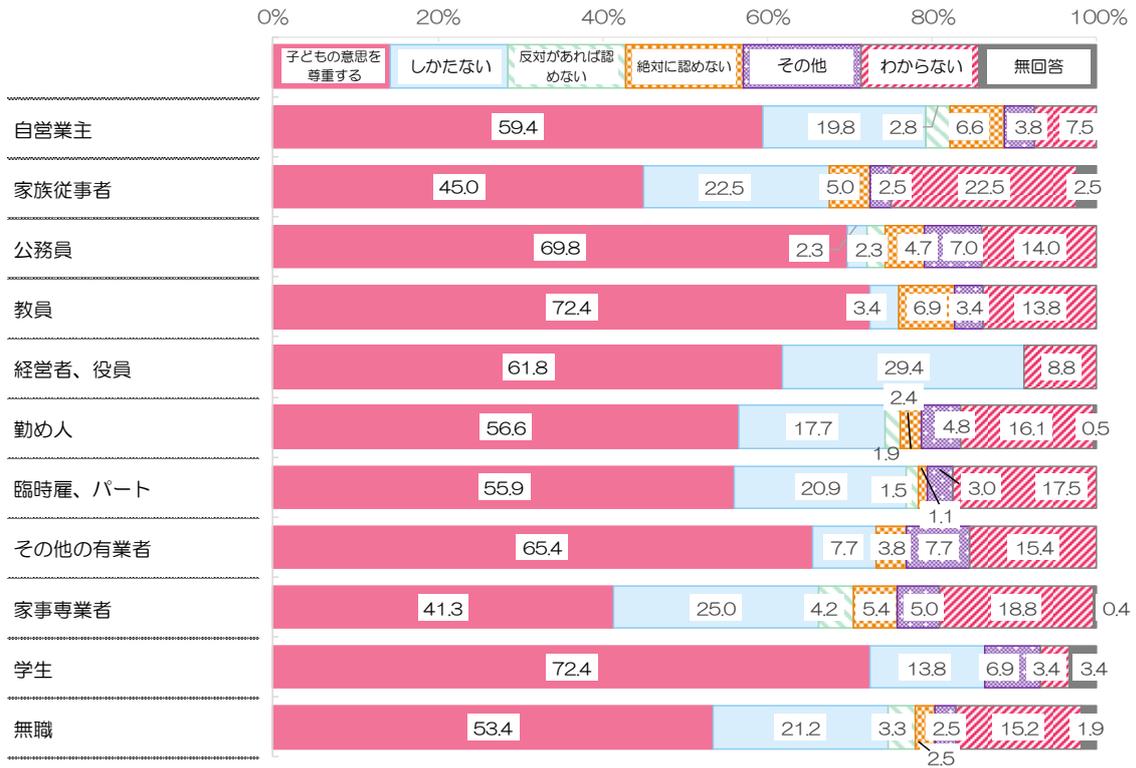
「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合は、男性の方が高い

● 年代別比較



いずれの年代も、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

● 職業別比較



いずれの職業も、「子どもの意思を尊重する」と答えた人の割合が高い

10 結婚における差別意識3（本人の結婚）

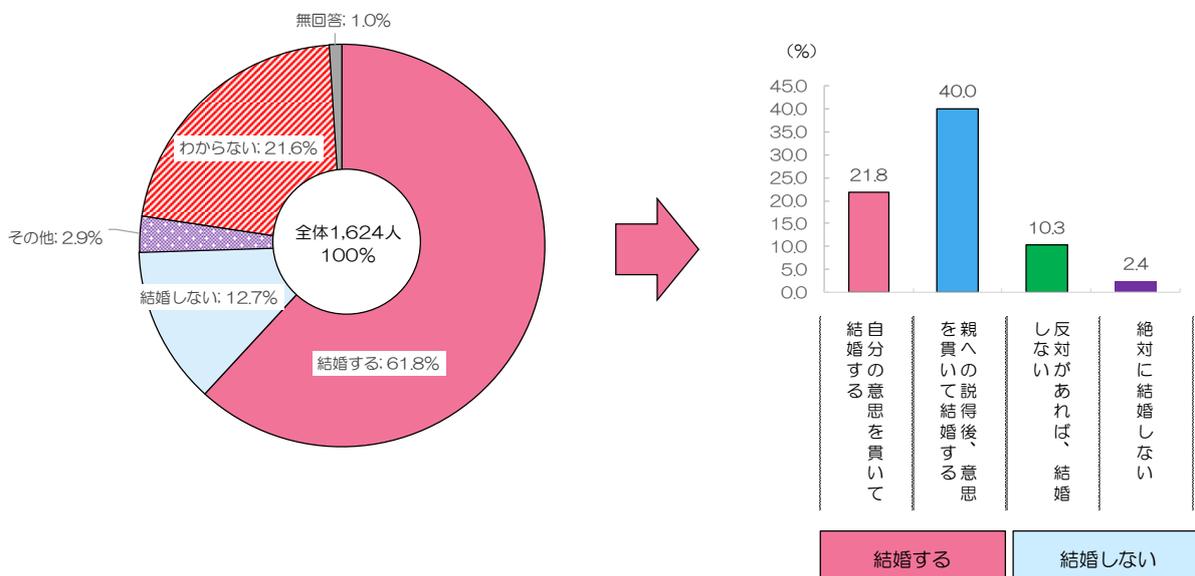
【質問10】

かりに、あなたが同和地区出身の人と恋愛をし、結婚しようとしたとき、家族や親類の人から強い反対を受けたら、あなたはどうされますか。(SA)

(当てはまる番号1つに○)

- 1 自分の意思を貫いて結婚する
- 2 親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する
- 3 家族や親類の反対があれば、結婚しない
- 4 絶対に結婚しない
- 5 その他
- 6 わからない

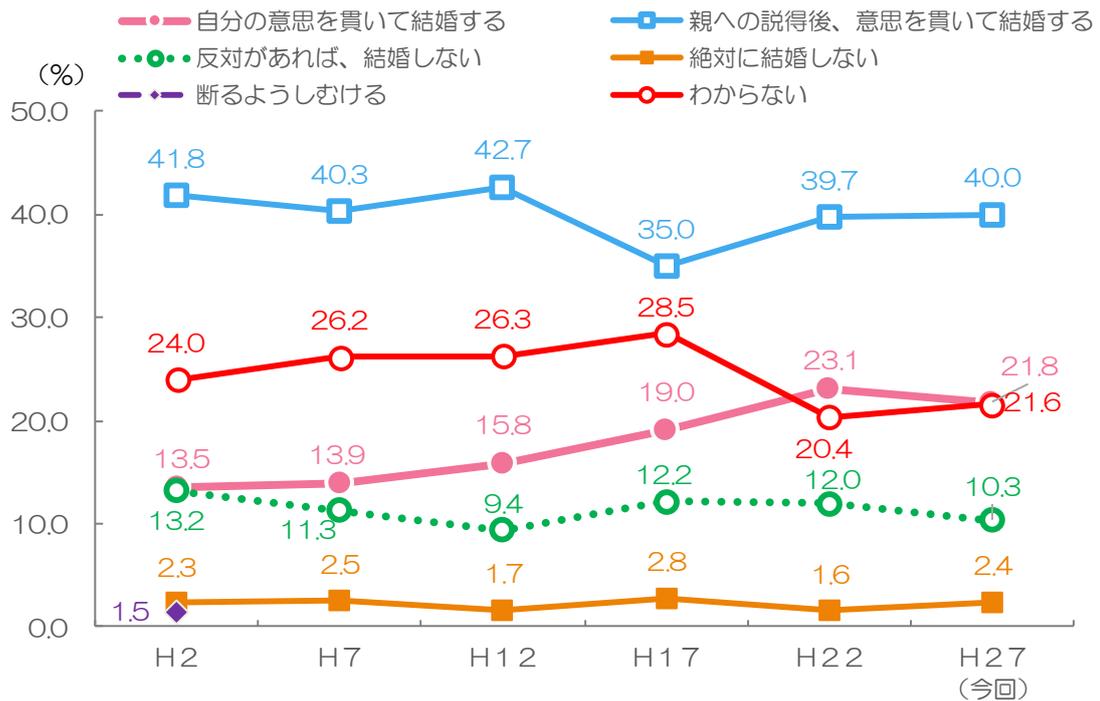
単純集計



「自分の意思を貫いて結婚する」(21.8%)と「親への説得後、自分の意思を貫いて結婚する」(40.0%)を合わせて、61.8%の人が『結婚する』と答えている。

『結婚する』と答えた人の割合は、61.8%

時系列比較

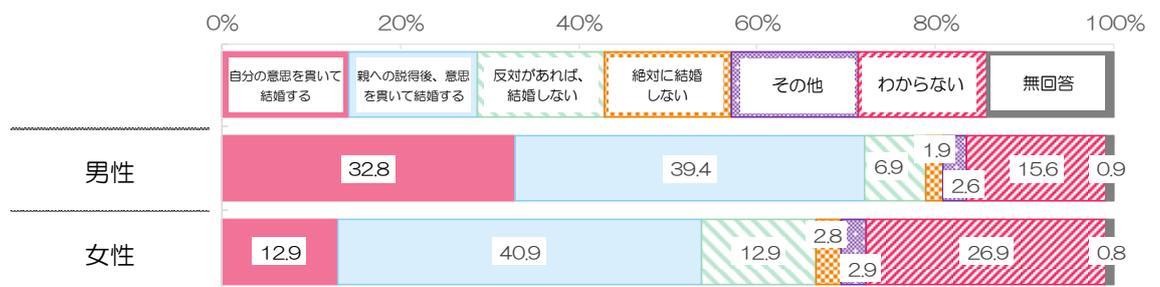


※注1：H2は「断るようしむける」という項目も調査した。

2：H17までは「わからない」に「知らない」を含む。

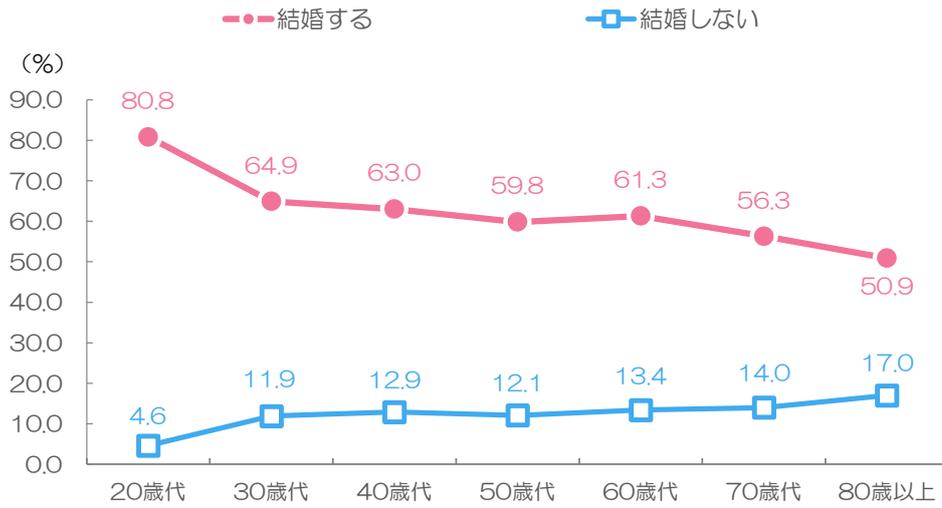
属性別集計

● 性別比較



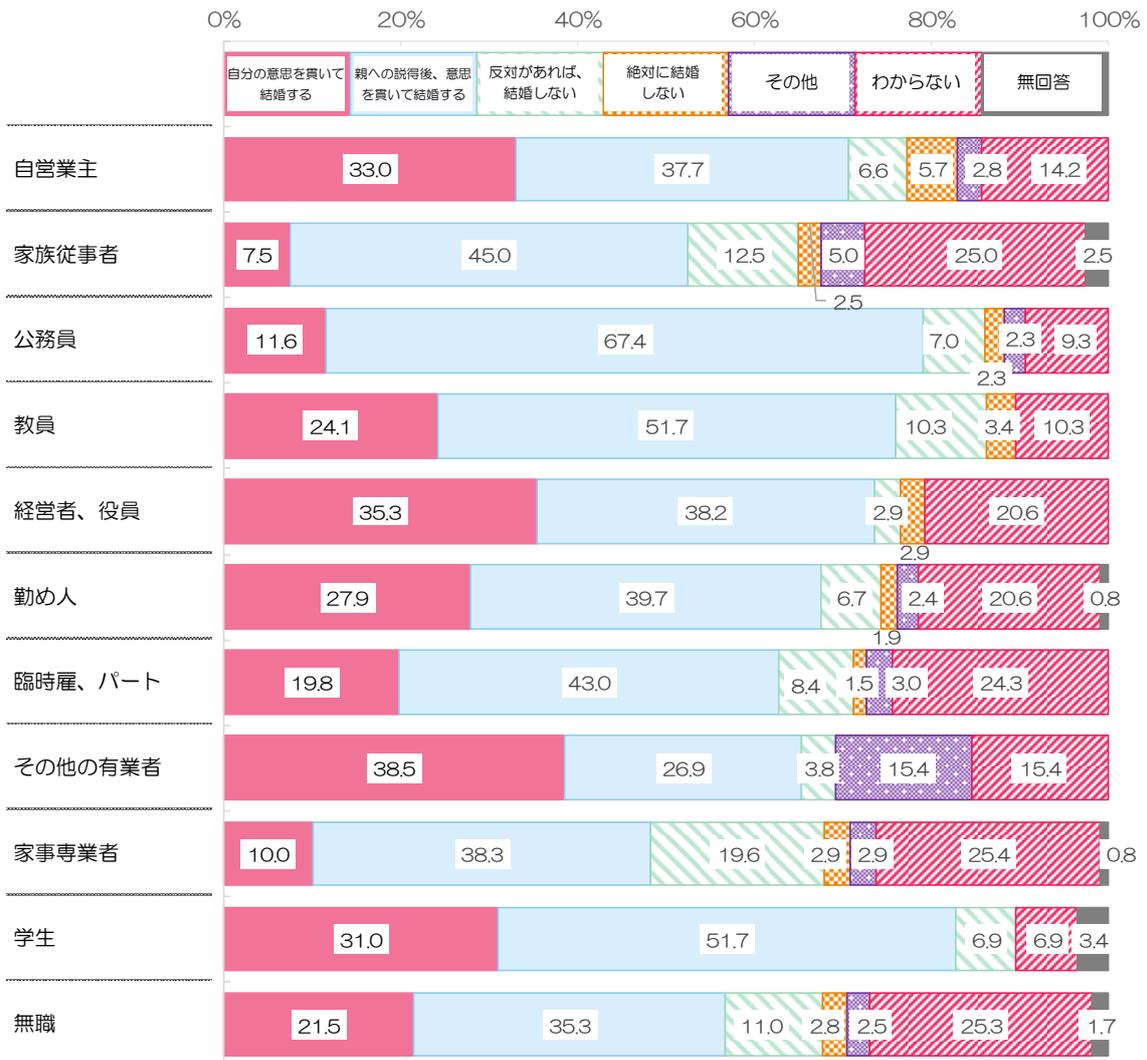
👍 『結婚する』と答えた人の割合は、男性の方が高い

● 年代別比較



いずれの年代も、『結婚する』と答えた人の割合が高い

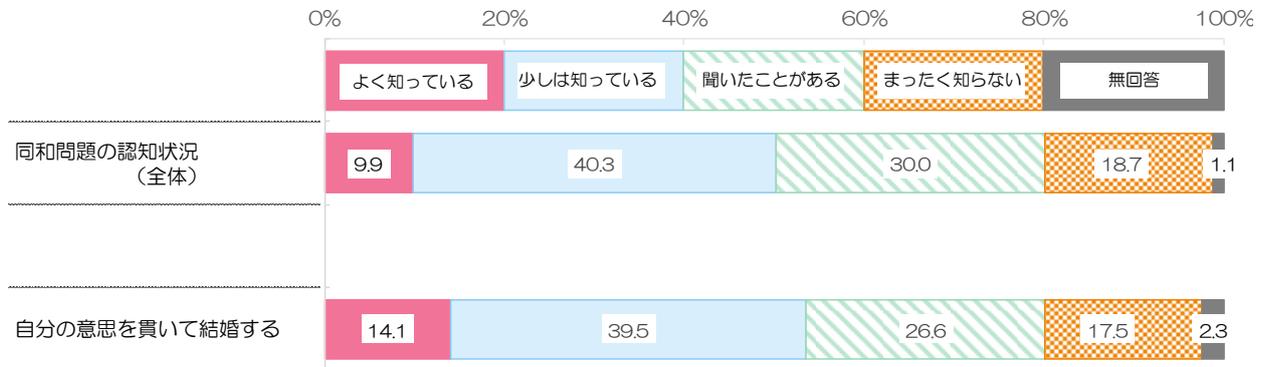
● 職業別比較



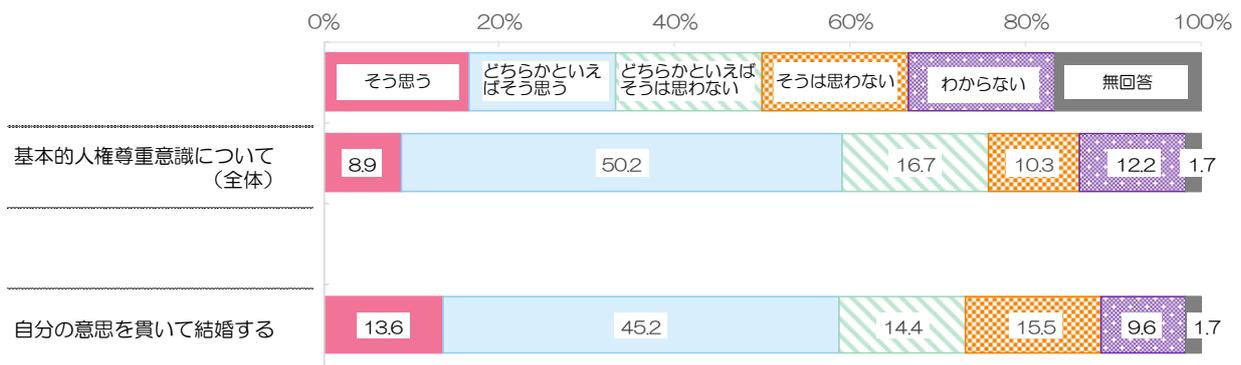
いずれの職業も、『結婚する』と答えた人の割合が高い

設問間クロス集計

質問 10「結婚における差別意識（本人の結婚）」と質問 2「同和問題の認知状況」との関連分析



質問 10「結婚における差別意識（本人の結婚）」と質問 18「基本的人権尊重の意識」との関連分析



1.1 インターネットへの書き込みについての認知状況

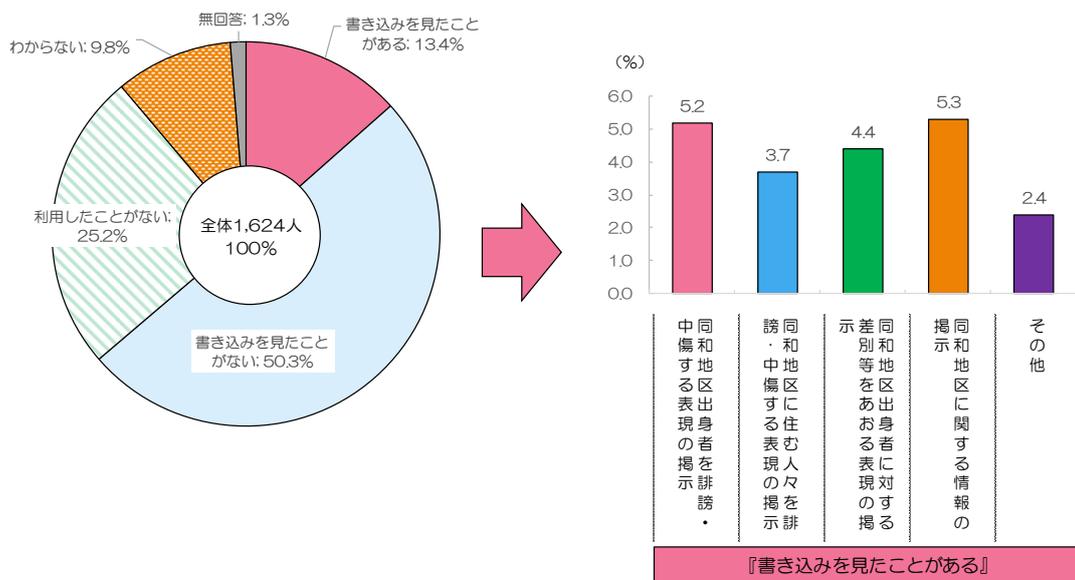
【質問 11】

あなたは、同和問題に関して、インターネットの掲示板で差別を助長する書き込みを見たことがありますか。それはどのようなものですか。(MA)

(あてはまるものすべてに○)

- 1 同和地区出身者を誹謗・中傷する表現の掲示
- 2 同和地区を特定し、そこに住む人々を誹謗・中傷する表現の掲示
- 3 同和地区出身者に対する差別等をあおる表現の掲示
- 4 同和地区に関する情報の掲示
- 5 その他
- 6 差別を助長する書き込みを見たことがない
- 7 インターネットを利用したことがない
- 8 わからない

単純集計

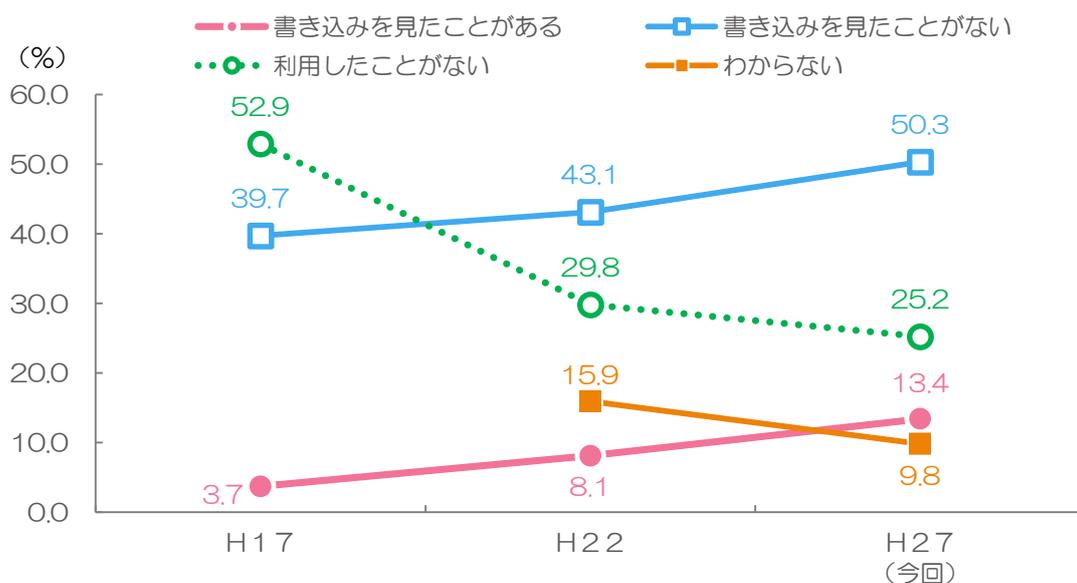


『書き込みを見たことがある』と答えた人の書き込みの内容の割合は「同和地区に関する情報の掲示」5.3%、「同和地区出身者を誹謗・中傷する表現の掲示」5.2%、「同和地区出身者に対する差別等をあおる表現の掲示」4.4%、「同和地区に住む人々を誹謗・中傷する表現の掲示」3.7%となっている。

『書き込みを見たことがある』と答えた人の割合は、13.4%

※注：『書き込みを見たことがある』と答えた人の割合は、全体（100%）から「書き込みを見たことがない」（50.3%）、「利用したことがない」（25.2%）、「わからない」（9.8%）、「無回答」（1.3%）を引いたもの。

時系列比較



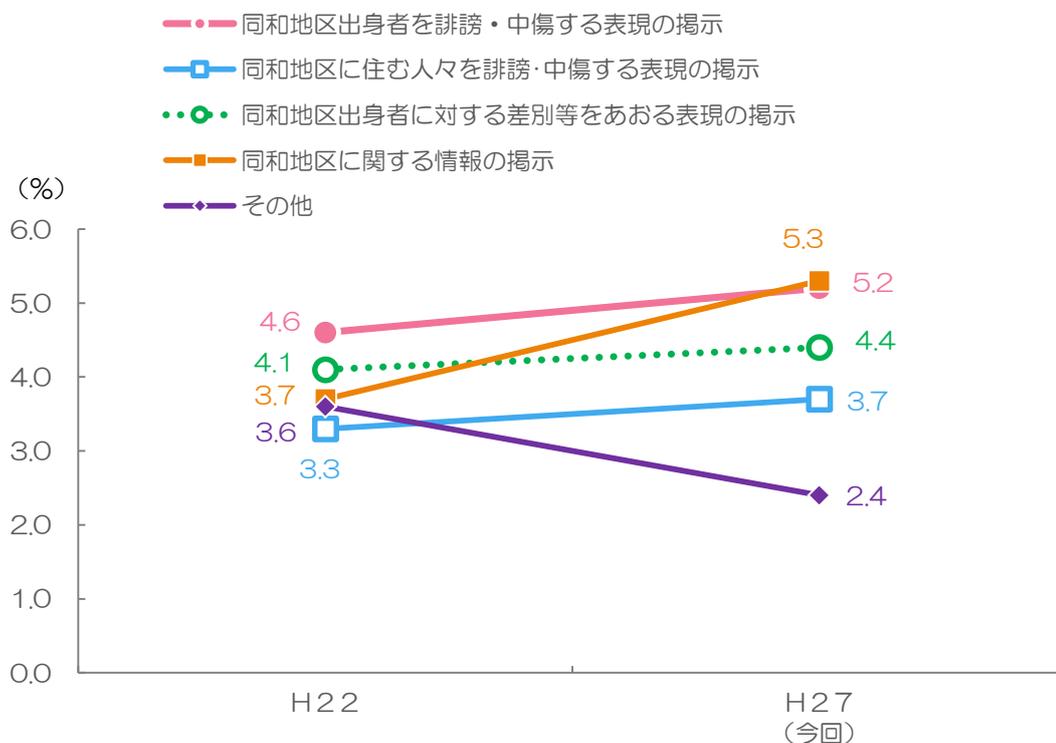
※注：H17は「わからない」という項目はなかった。

インターネットへの『書き込みを見たことがある』と答えた人は、13.4%で前回から5.3%増えている。

一方、「書き込みを見たことがない」と答えた人の割合は7.2%増えている。



『書き込みを見たことがある』と答えた人の割合は増えている

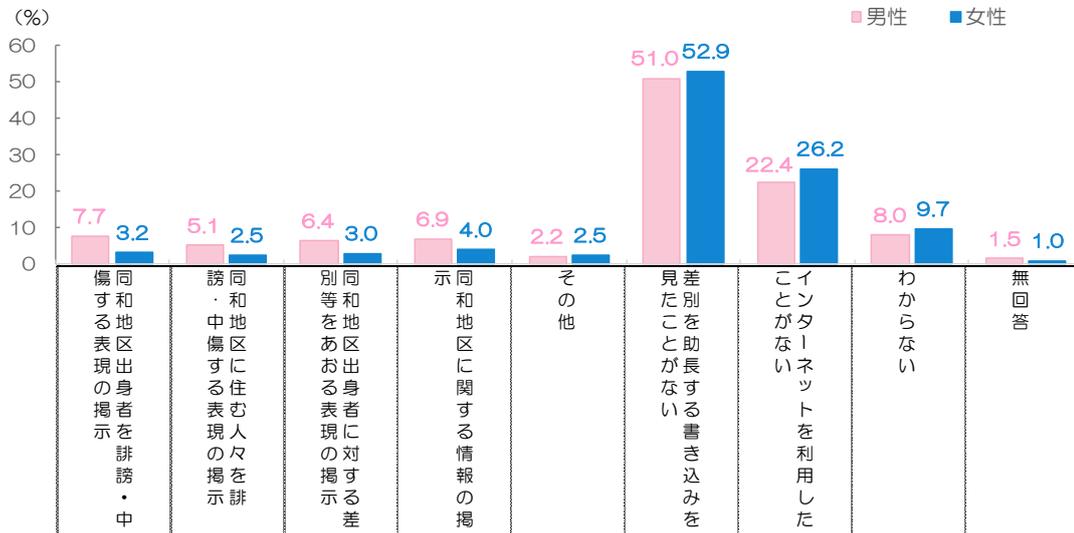




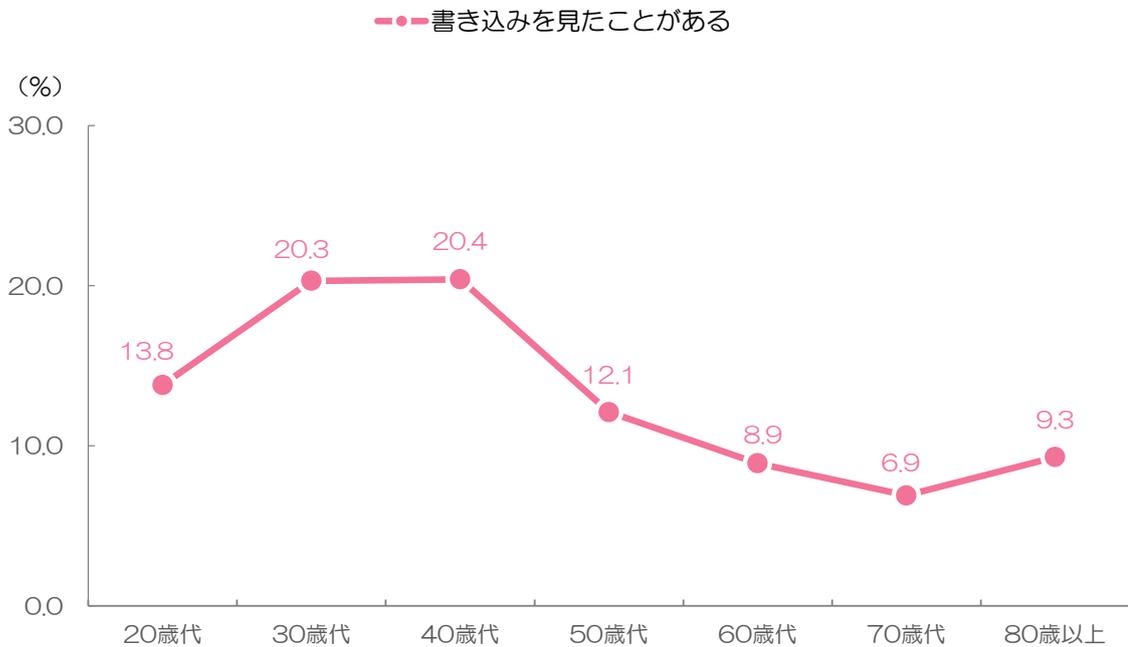
属性別集計

『書き込みを見たことがある』と答えた人を、性別、年代別比較

● 性別比較



● 年代別比較



1.2 起きていると思う人権問題

【質問 12】

あなたは、同和問題に関して、現在どのような人権問題が起きていると思いますか。(MA)
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|----------|
| 1 結婚問題で周囲が反対すること | 10 その他 |
| 2 就職・職場で不利な扱いを受けること | 11 特にない |
| 3 差別的な発言を受けること | 12 わからない |
| 4 差別的な落書きがあること | |
| 5 結婚に際して身元調査（聞き合わせ）が行われること | |
| 6 就職に際して身元調査（聞き合わせ）が行われること | |
| 7 同和地区やそこで生活する住民との交流や交際を避けたりすること | |
| 8 住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区を含む小学校区にある物件を避けること | |
| 9 インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること | |

単純集計



※注：「住宅を選ぶ際、同和地区物件を避ける」は、今回から追加した項目。

「結婚問題で周囲が反対」が37.7%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受ける」28.3%、「差別的な発言を受ける」26.4%の順になっている。

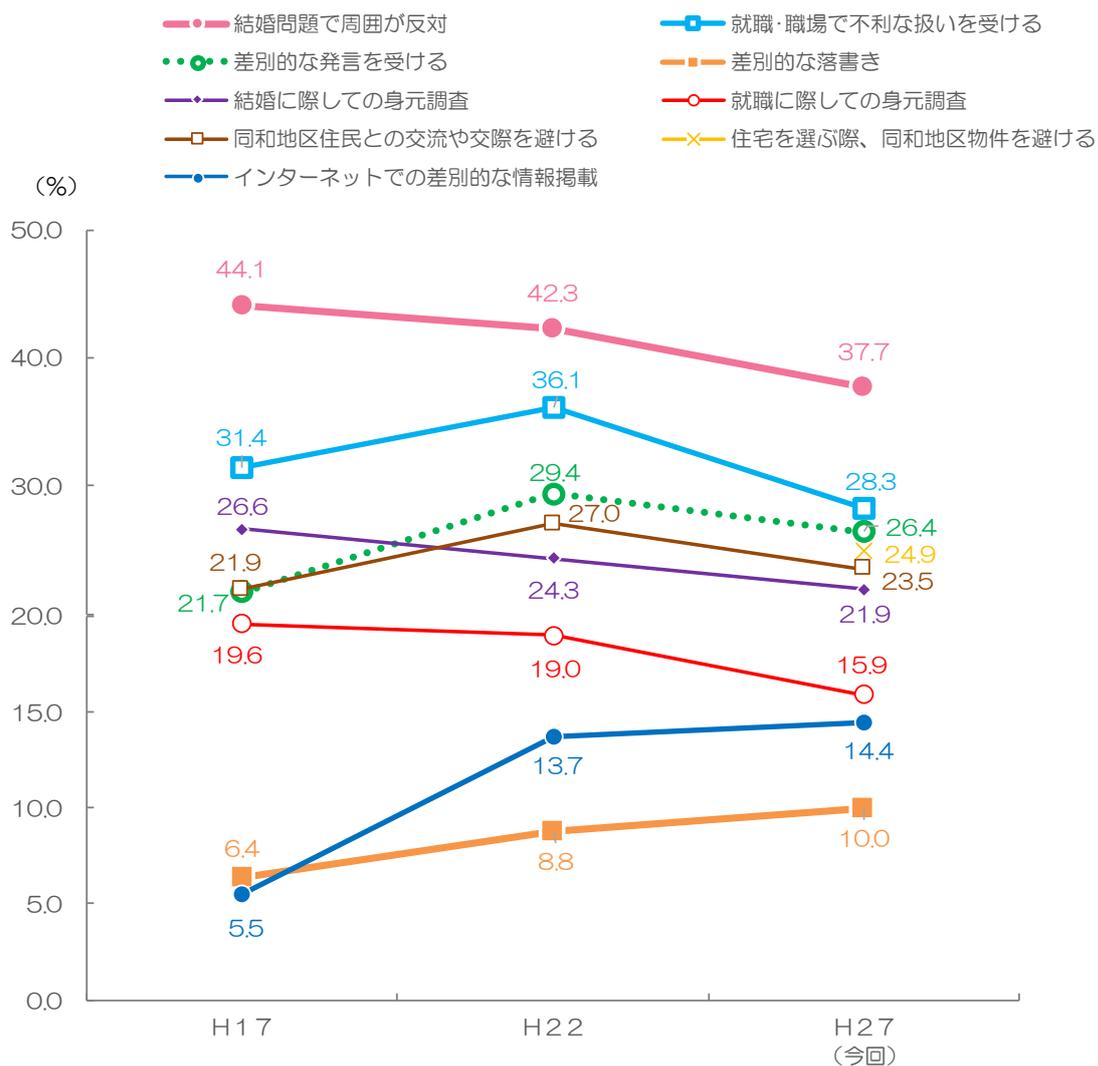
今回の調査で新たに設けた項目「住宅を選ぶ際、同和地区物件を避ける」は24.9%となっている。



現在、起きている人権問題として、「結婚問題で周囲が反対」と答えた人の割合が高い



時系列比較

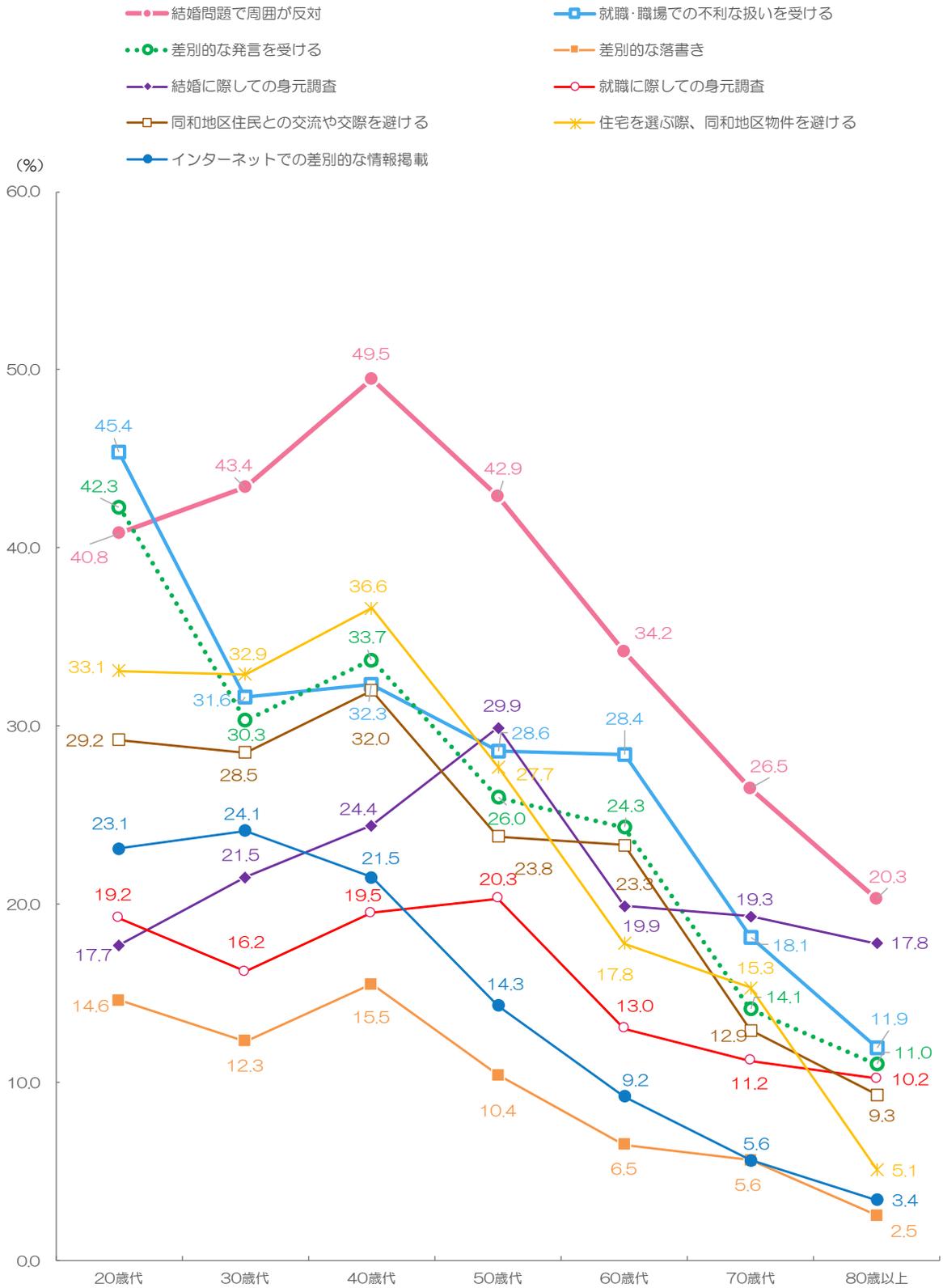


「インターネットでの差別的な情報掲載」「差別的な落書き」と答えた人の割合が増えている



属性別集計

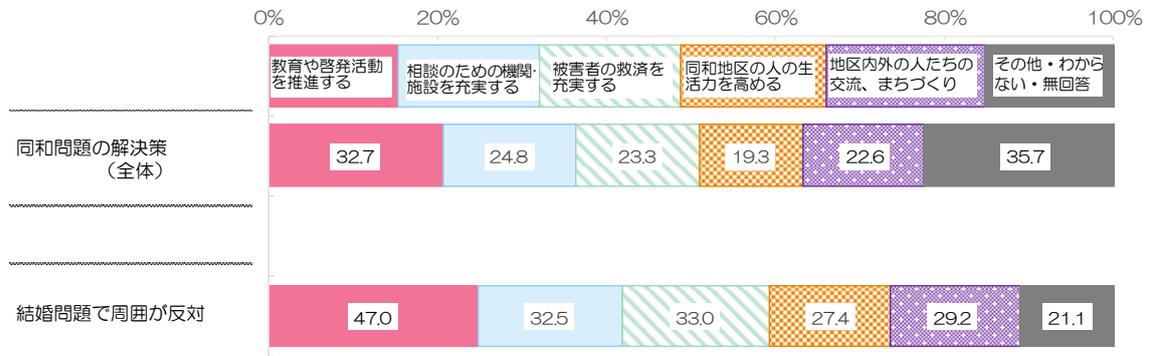
● 年代別比較





設問間クロス集計

質問 12「起きていると思う人権問題」と質問 17「同和問題の解決策」の関連分析



「結婚問題で周囲が反対」と答えた人は、「教育や啓発活動を推進する」と答えた人の割合が高い。

1.3 啓発活動への参加・関わりの状況

【質問13】

あなたは、同和問題に関連する講演会や研修会に参加したり、新聞やテレビ・ラジオなどで同和問題に関連したことを見たり、聞いたり、読んだりしたことが何回ありますか。

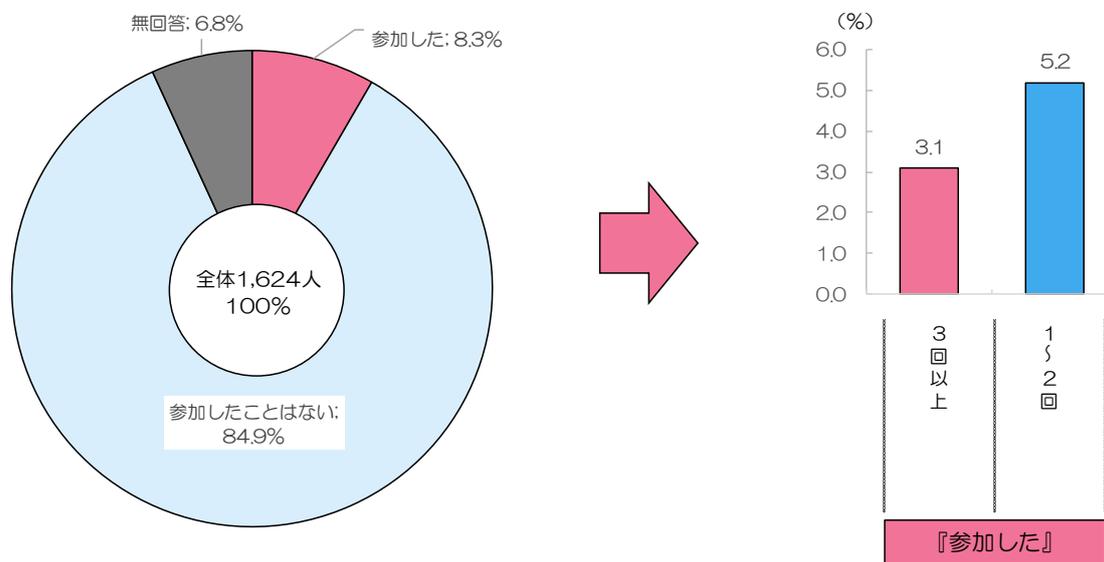
(各 SA)

(A,B,C それぞれについて当てはまるもの1つに○)

事 項	3回以上	1~2回	ない
1.講演会・講座・研修会への参加	A	B	C
2.なごや人権啓発センターの展示	A	B	C
3.広報なごや	A	B	C
4.テレビ・ラジオ	A	B	C
5.映画・DVD・ビデオ	A	B	C
6.インターネット	A	B	C
7.冊子・パンフレット	A	B	C
8.新聞	A	B	C
9.雑誌	A	B	C
10.ポスター	A	B	C
11.たれ幕・立看板	A	B	C

単純集計

「講演会・講座・研修会」への参加状況



講演会・講座・研修会へ参加した回数が「3回以上」(3.1%)、「1~2回」(5.2%)と答えた人の割合を合わせた『参加した』は8.3%となっている。

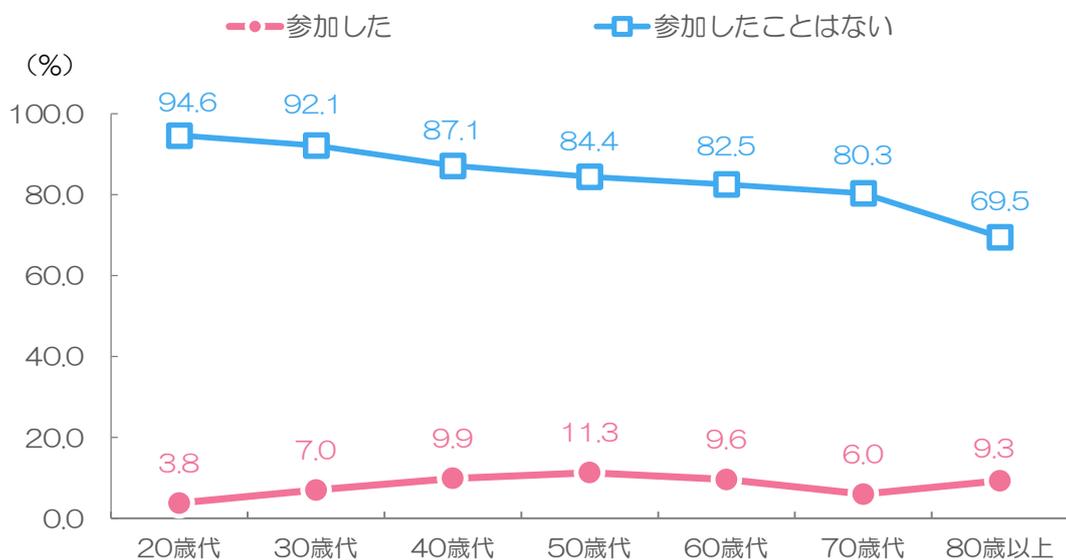
「講演会・講座・研修会」に『参加した』と答えた人は、8.3%



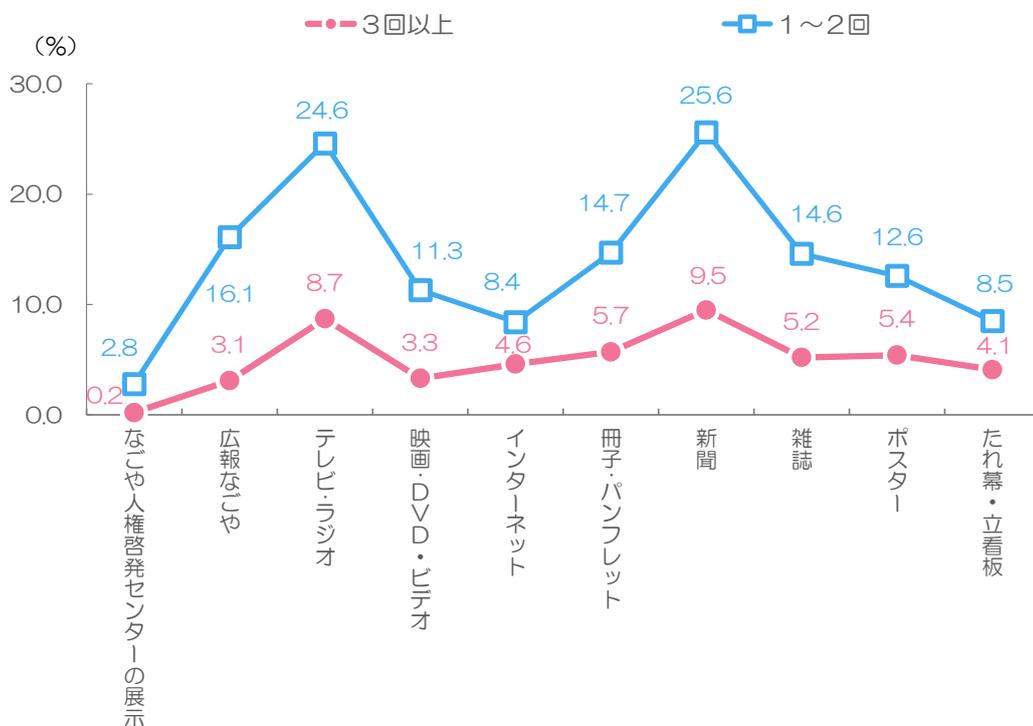
属性別集計

● 年代別比較

「講演会・講座・研修会」への参加状況を、年代別比較

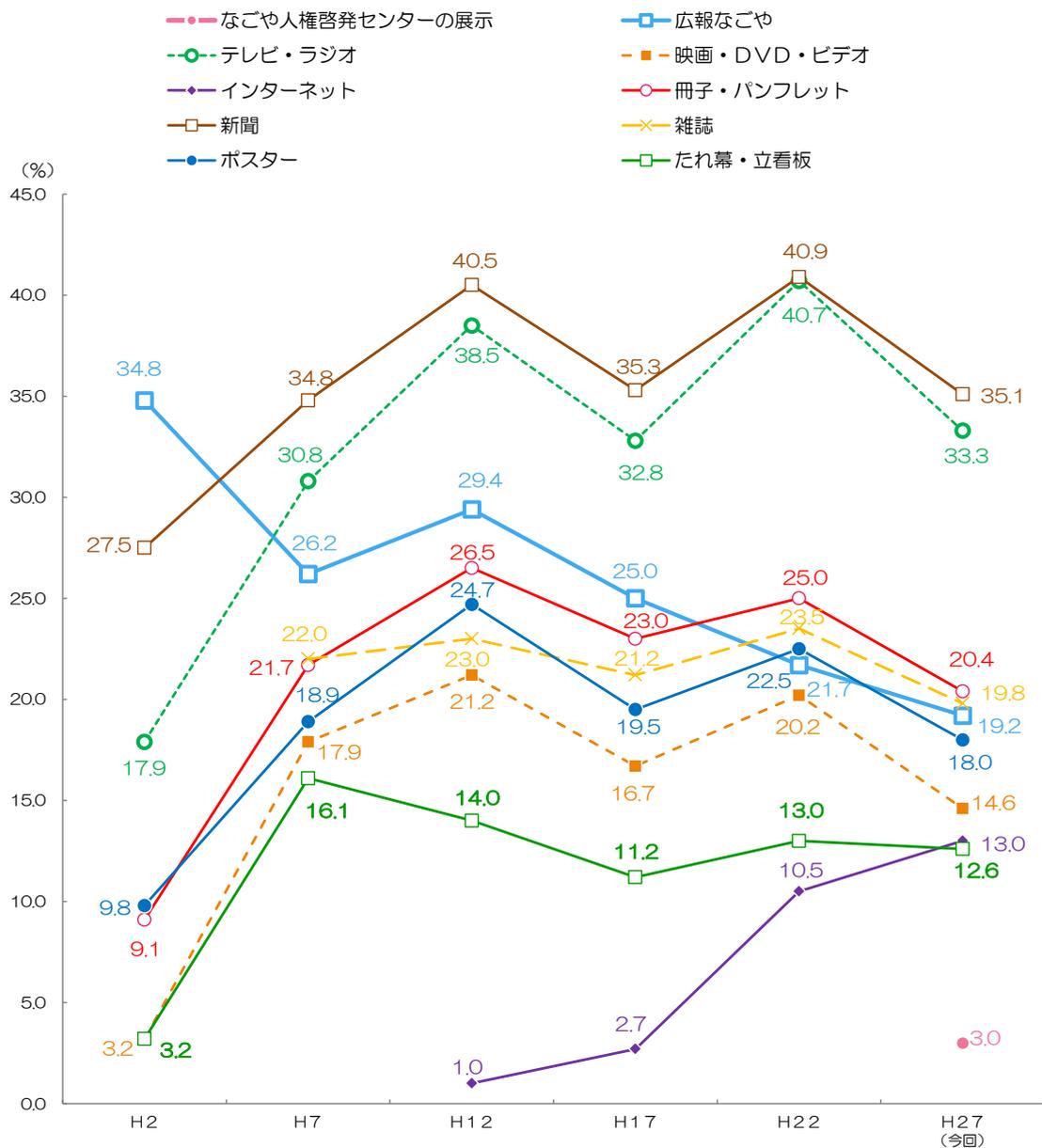


「講演会・講座・研修会」以外の啓発媒体に接した回数



同和問題について接したのは、「新聞」「テレビ・ラジオ」と答えた人の割合が高い。

「講演会・講座・研修会」以外の啓発媒体との関わり状況



※注 1：H2 は各啓発活動について見たり、聞いたり、読んだりしたものをすべて選んでもらう方法で調査した。

2：H2 は「テレビ・ラジオ・ビデオ」と「映画「小さな指輪」など」という項目で調査した。

3：「なごや人権啓発センターの展示」は、今回から追加した項目。

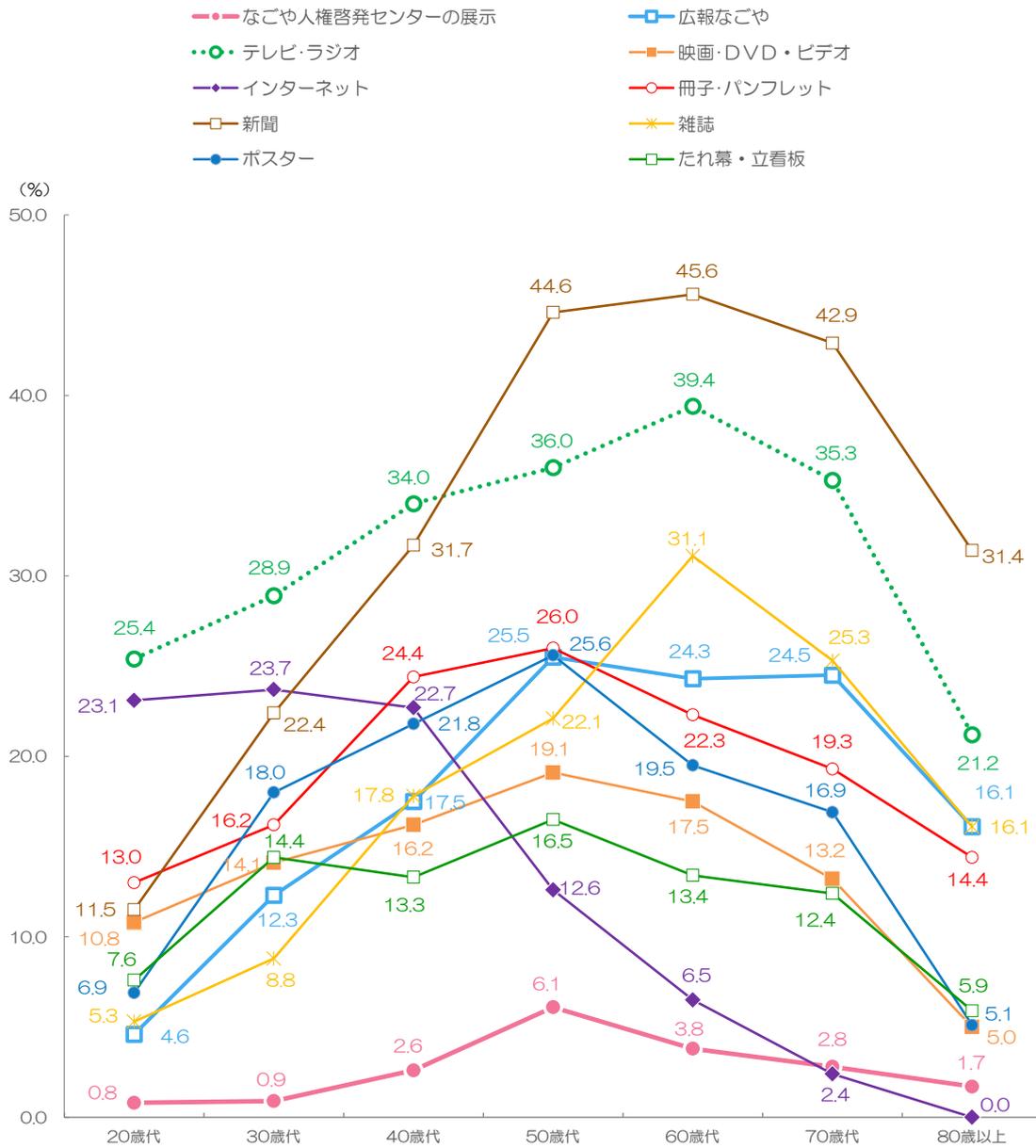
「インターネット」の割合が増えている。



属性別集計

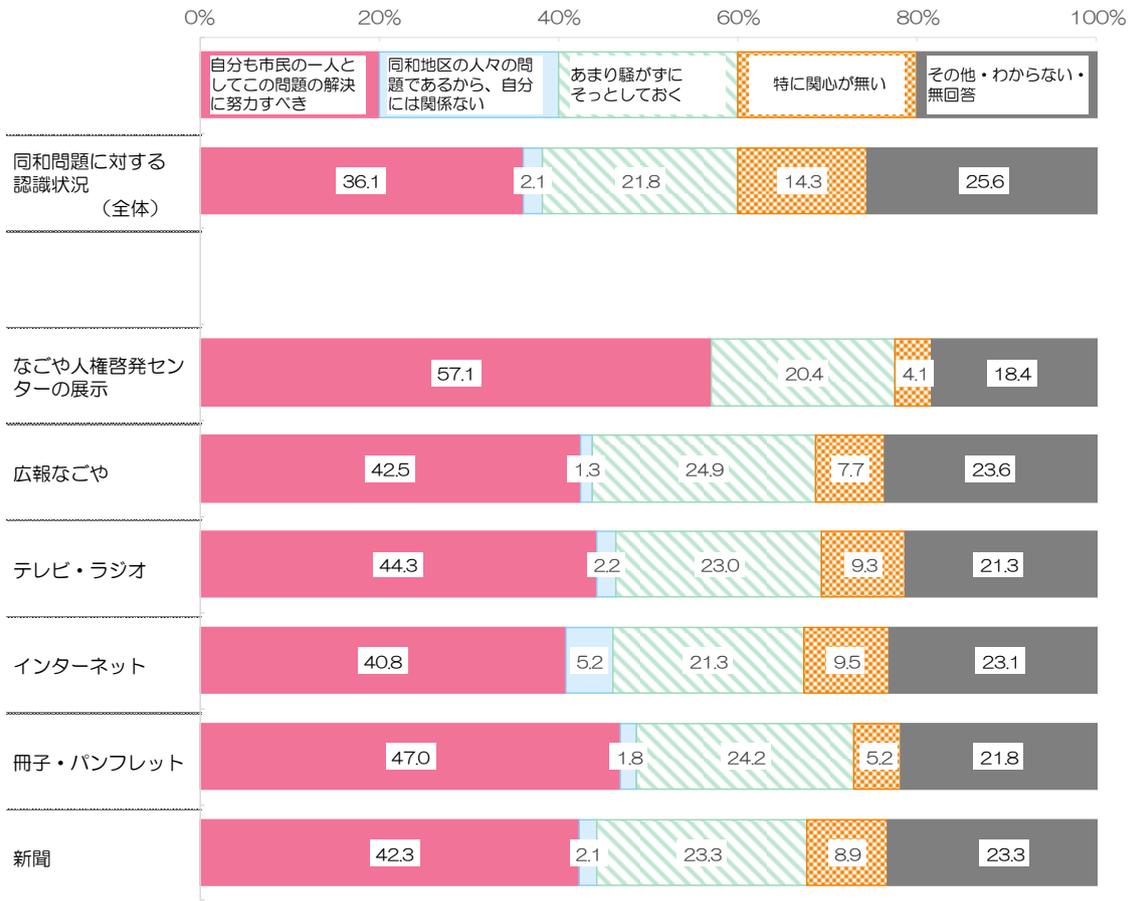
● 年代別比較

「講演会・講座・研修会」以外の啓発媒体との関わり状況



「20歳代」、「30歳代」は、「テレビ・ラジオ」が最も高く、次に「インターネット」の割合が高くなっている。

質問 13「啓発についての関わり方の状況」（「テレビ・ラジオ」「新聞」「なごや人権啓発センターの展示」「広報なごや」「インターネット」）と質問 6「同和問題に対する認識」の関連分析



今回の調査で新たに設けた項目「なごや人権啓発センターの展示」と答えた人は、「自分も市民の一人として問題解決に努力すべき」と答えた人の割合が高い。

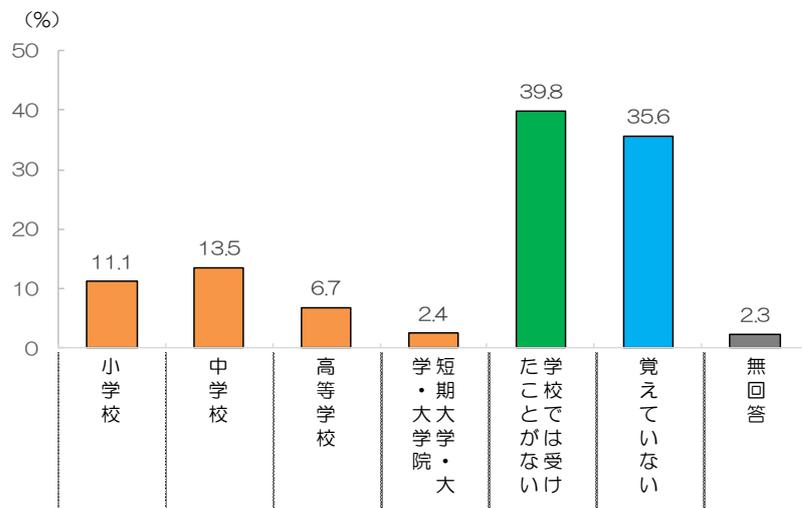
1.4 同和問題の学習

【質問 14】

あなたは、学校で同和問題(部落差別)についての授業を受けたことがありますか。(MA)
(あてはまるものすべてに○)

- 1 小学校
- 2 中学校
- 3 高等学校(旧制中学校なども含む)
- 4 短期大学・大学・大学院(高等専門学校、専門学校なども含む)
- 5 学校では受けたことがない
- 6 覚えていない

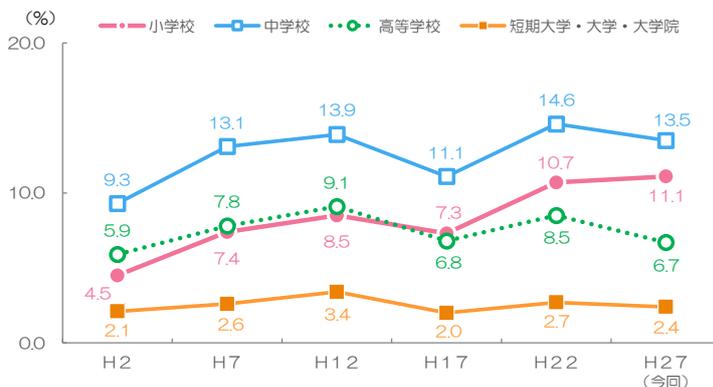
単純集計



「学校では受けたことがない」と答えた人の割合は、39.8%となっている。また、受けたことがある学校は、「中学校」が13.5%と最も高くなっている。

同和問題についての授業を受けたことがある学校は、「中学校」と答えた人の割合が高い

時系列比較



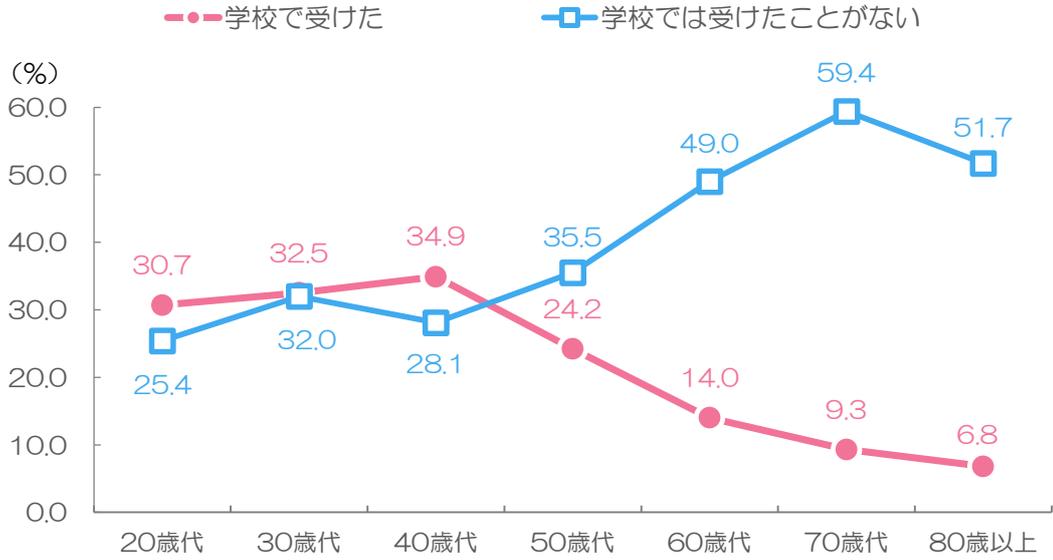
	『学校で受けた』(計)	学校では受けたことがない
今回(H27)	33.7	39.8
H22	36.5	40.9
H17	27.2	36.7
H12	34.9	33.3
H7	30.9	32.0
H2	21.8	40.4

※注：『学校で受けた』は、「小学校」「中学校」「高等学校(旧制中学校なども含む)」「大学・大学院・専門学校」を合わせたもの。



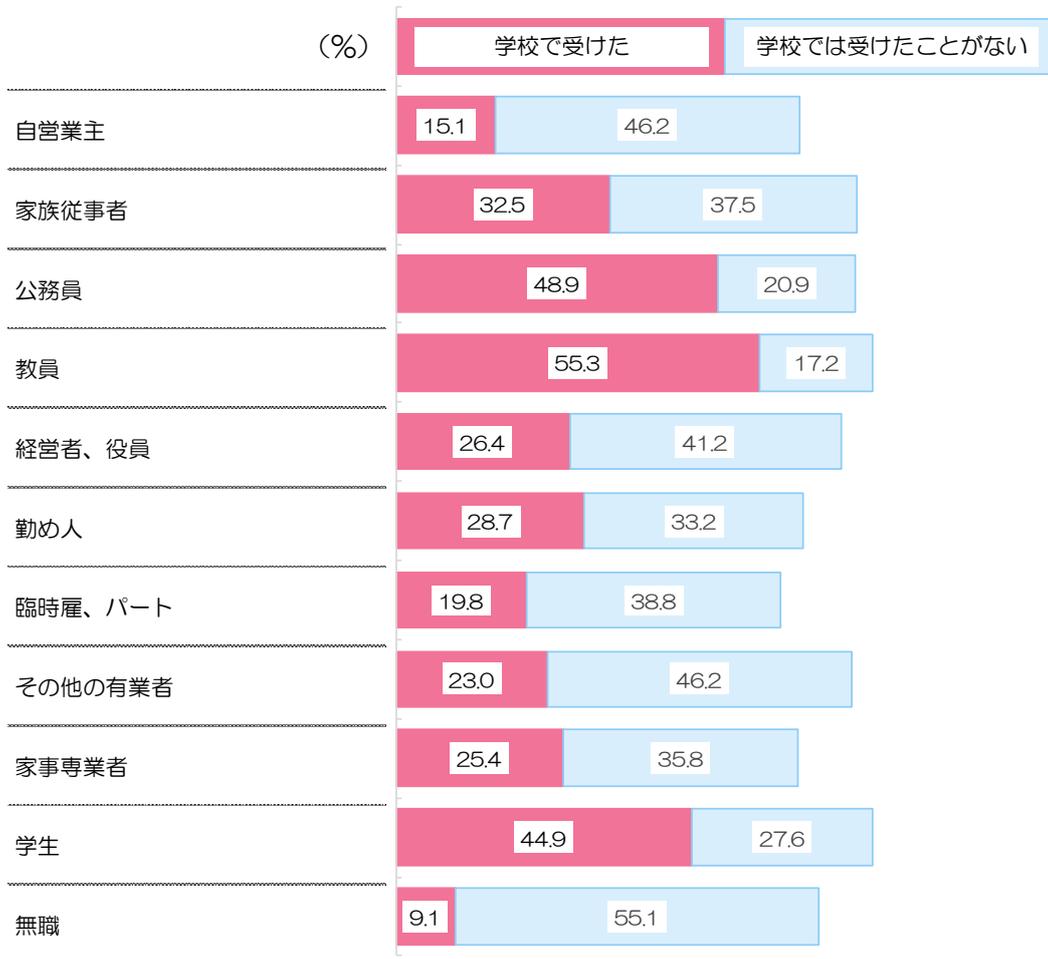
属性別集計

● 年代別比較



※注：『学校で受けた』は、「小学校」「中学校」「高等学校（旧制中学校なども含む）」「大学・大学院・専門学校」を合わせたもの。

● 職業別比較



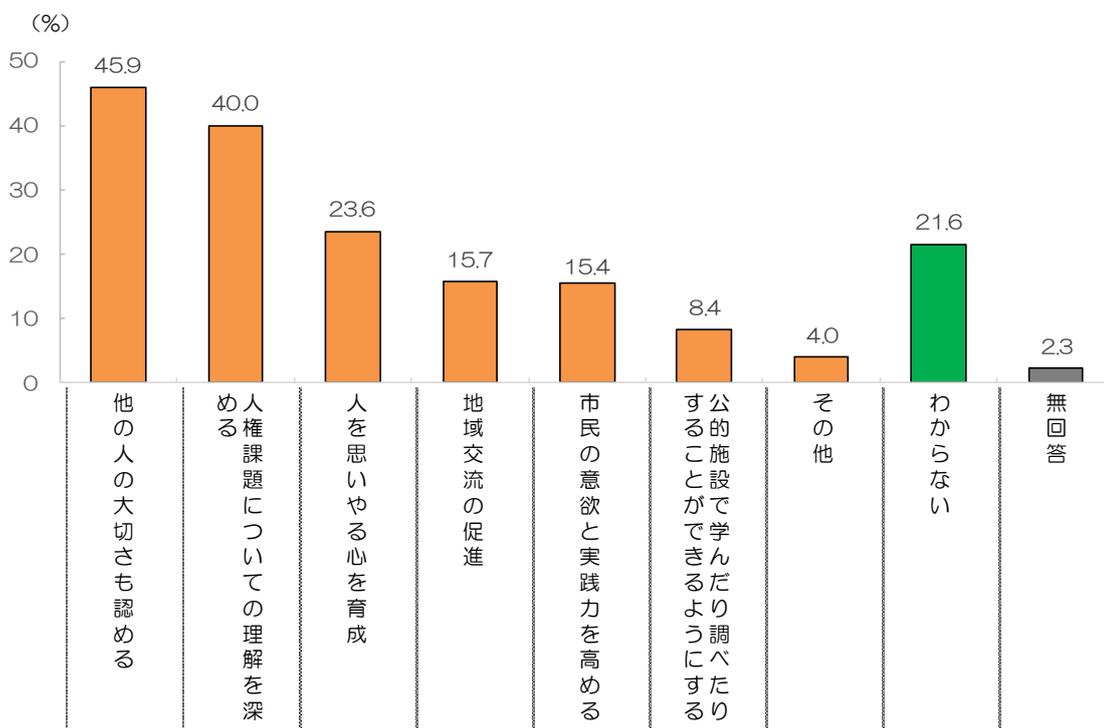
15 人権教育に期待するもの

【質問 15】

あなたは、同和問題などの人権課題について、学校や社会で行っている人権教育や人権啓発に何を期待しますか。(MA)
(あてはまるものすべてに○)

- 1 あらゆる偏見や差別をなくすため、同和問題などの人権課題についての理解を深めるようにする
- 2 同和問題などの人権課題解決への市民の意欲と実践力を高めるようにする
- 3 ボランティア活動や高齢者との交流などを通じて人を思いやる心を育成するようにする
- 4 自分の大切さに気づくことができるとともに、他の人の大切さも認めることができるようにする
- 5 地域の実情に応じた様々な学習機会を提供し、地域交流の促進をはかるようにする
- 6 同和問題などの人権課題をなごや人権啓発センターなどの公的施設で学んだり調べたりすることができるための資料や講座を充実させる
- 7 その他
- 8 わからない

単純集計



「他の人の大切さも認める」が45.9%と最も高く、次いで「人権課題についての理解を深める」が40.0%となっている。

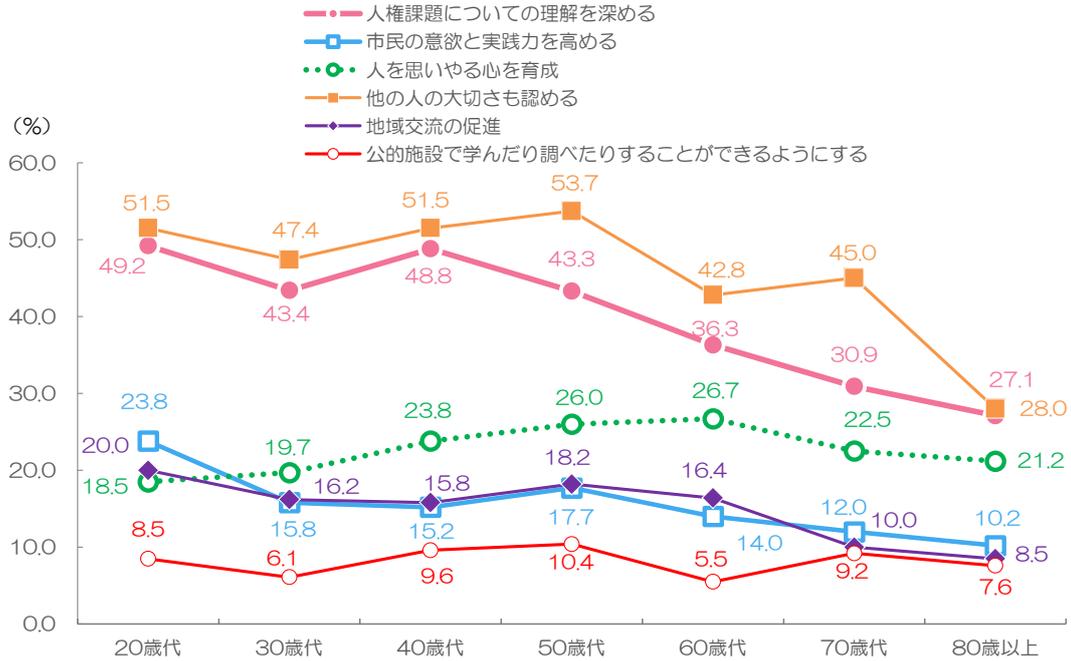


人権教育に期待するものとして、「他の人の大切さも認める」と「人権課題についての理解を深める」と答えた人の割合が高い



属性別集計

● 年代別比較

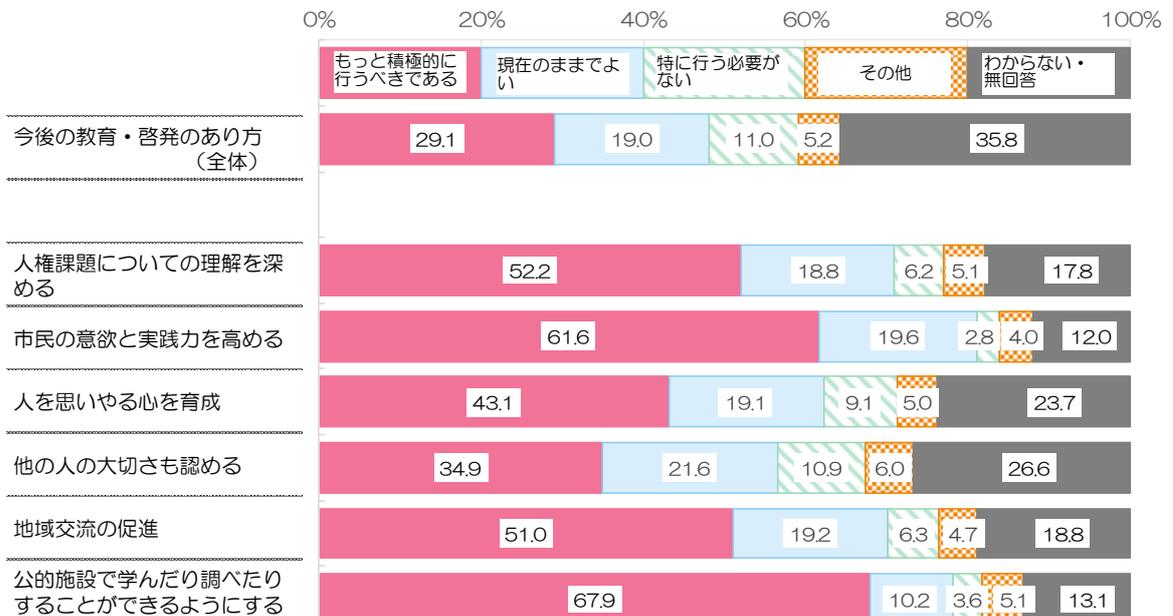


いずれの年代も、「他の人の大切さも認める」と「人権課題についての理解を深める」と答えた人の割合が高い



設問間クロス集計

質問 15「人権教育に期待するもの」と質問 16「今後の教育・啓発のあり方」との関連分析



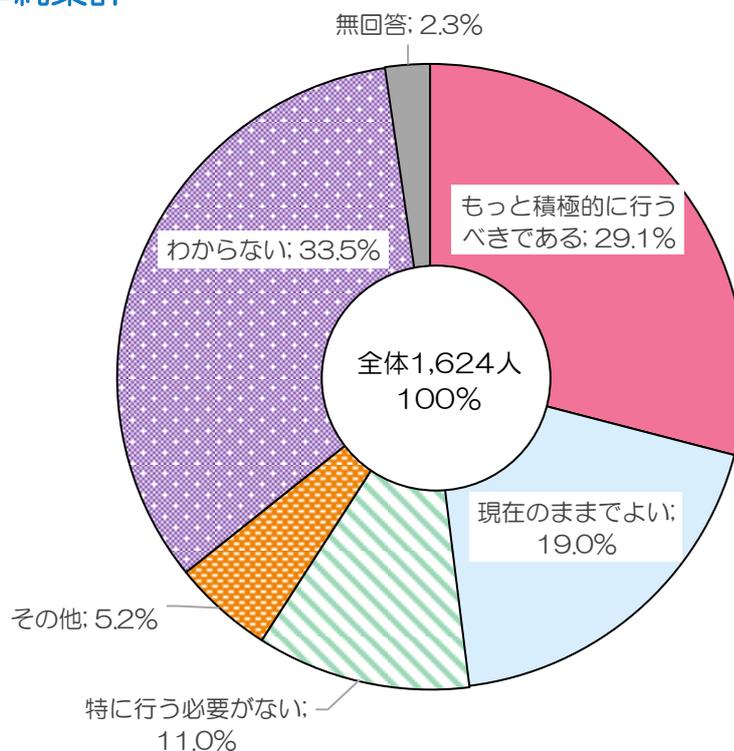
16 今後の教育・啓発のあり方

【質問 16】

あなたは、同和問題についての教育・啓発を今後どうすべきだと思いますか。(SA)
(当てはまるもの1つに○)

- 1 もっと積極的に行うべきである
- 2 現在のままでよい
- 3 特に行う必要がない
- 4 その他
- 5 わからない

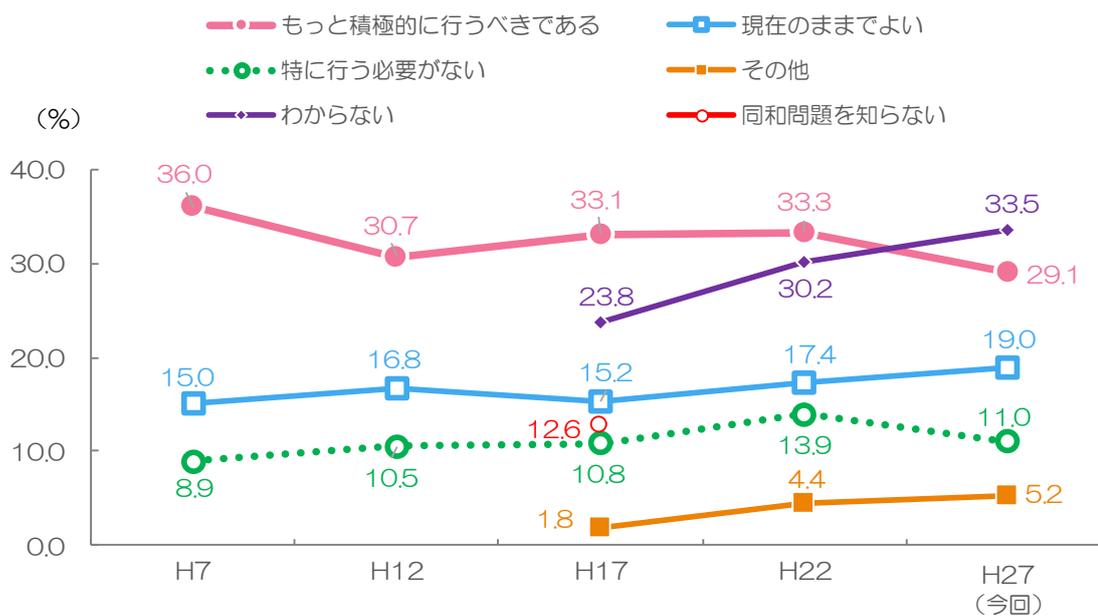
単純集計



今後の教育・啓発のあり方について、「もっと積極的に行うべきである」と答えた人の割合は、29.1%となっており、「現在のままでよい」(19.0%)、「特に行う必要がない」(11.0%)と答えた人の割合をそれぞれ上回っている。

👉 「もっと積極的に行うべきである」と答えた人の割合は、29.1%

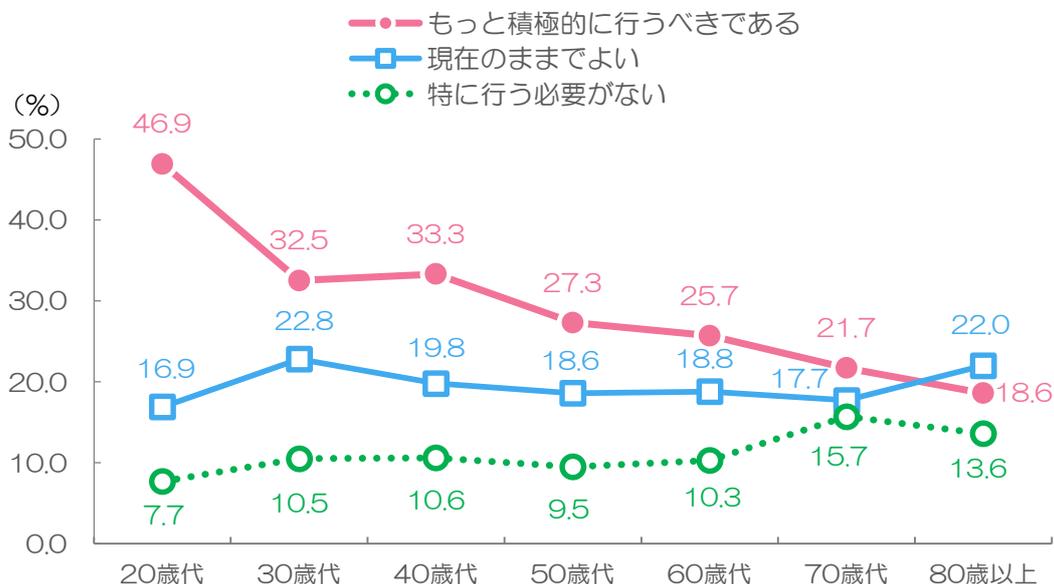
時系列比較



※注：H17は「同和問題を知らない」という項目も調査した。

属性別集計

年代別比較



「20歳代」は、「もっと積極的に行うべきである」と答えた人の割合が、46.9%と最も高い

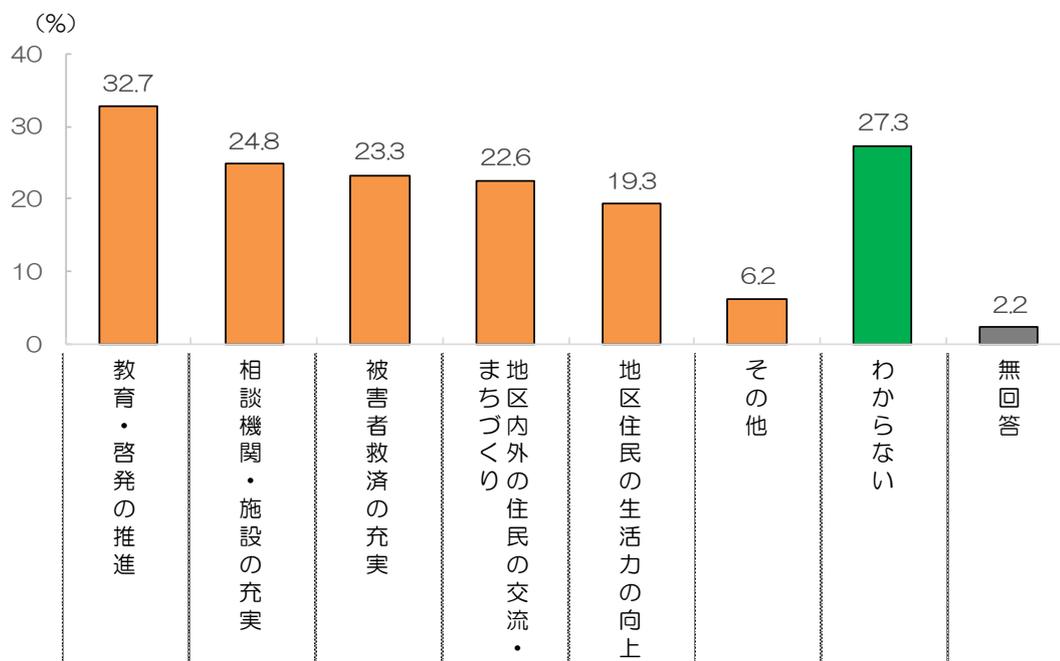
17 同和問題の解決策

【質問17】

あなたは、同和問題の解決のためどのようなことを行ったらよいと思いますか。(MA)
(あてはまるものすべてに○)

- 1 同和問題に関する教育や啓発活動を推進する
- 2 同和問題に関する相談のための機関・施設を充実する
- 3 同和問題に関して人権が侵害された被害者の救済を充実する
- 4 同和地区の人の収入の安定・向上をはかり生活力を高める
- 5 同和地区内外の人たちが交流を活発にし、まちづくりをすすめる
- 6 その他
- 7 わからない

単純集計



「教育・啓発の推進」と答えた人の割合は、32.7%と最も高くなっている。次いで「相談機関・施設の充実」24.8%、「被害者救済の充実」23.3%の順となっている。

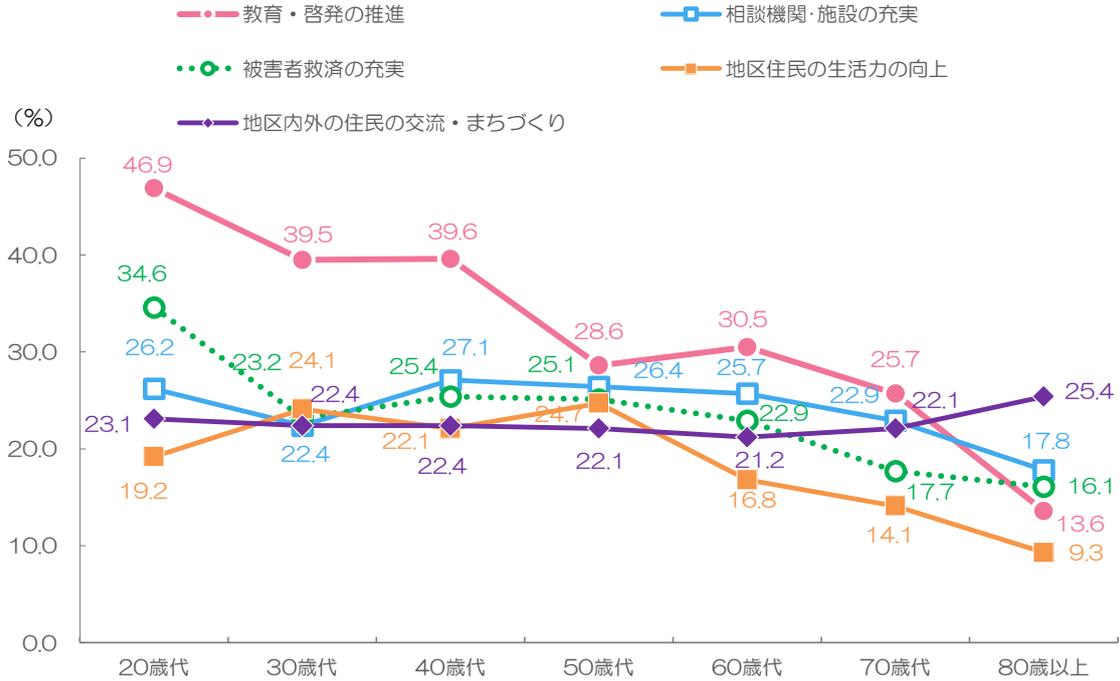


同和問題の解決策として、「教育・啓発の推進」や「相談機関・施設の充実」と答えた人の割合が高い



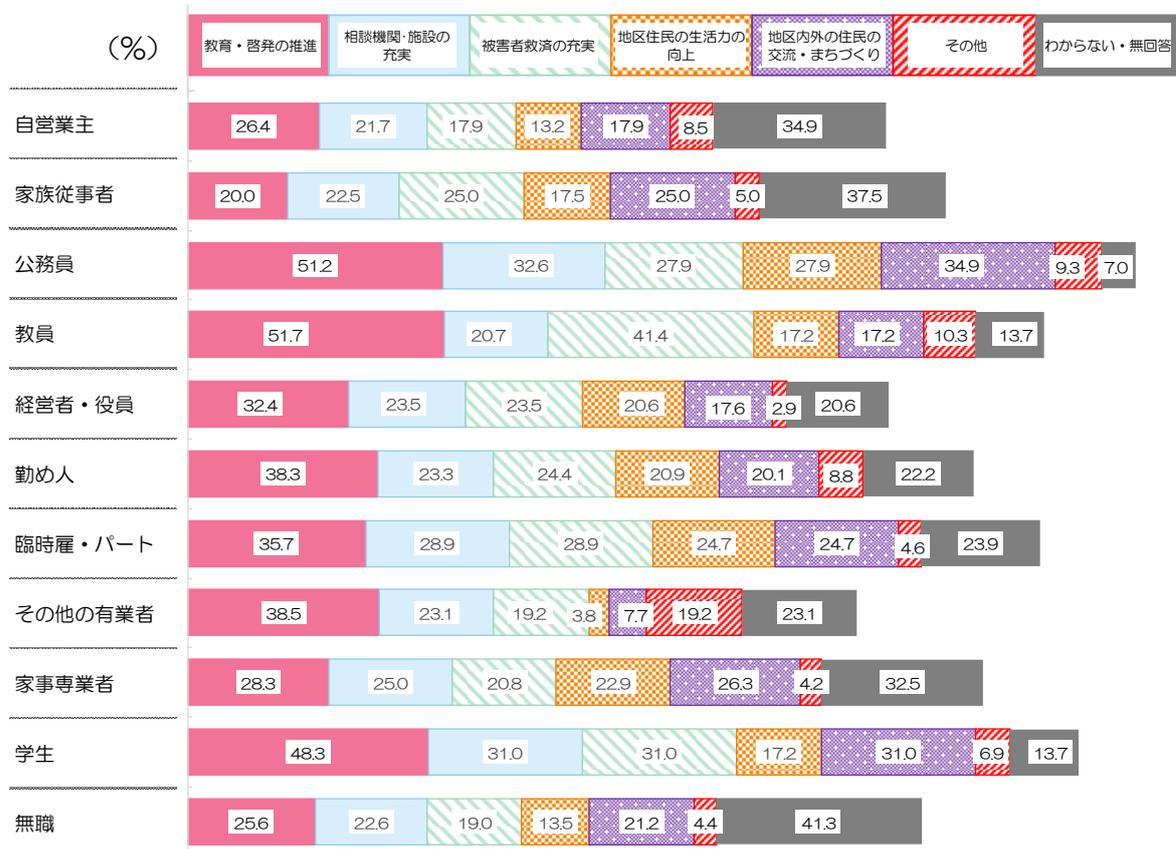
属性別集計

● 年代別比較



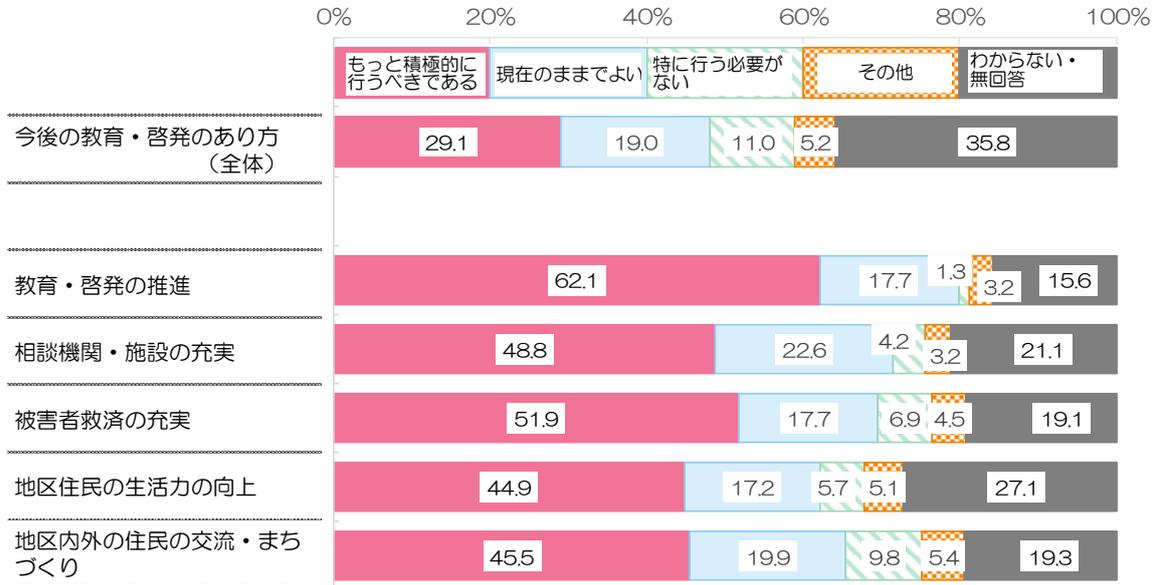
「教育・啓発の推進」と答えた人の割合は「20歳代」が最も高い

● 職業別比較



※注：問 17 はマルチ（複数回答）のため、職業別ごとの回答の合計は 100% を超える。

質問 17「同和問題の解決策」と質問 16「今後の教育・啓発のあり方」との関連分析



同和問題の解決策として、「教育・啓発の推進」と答えた人は、「もっと積極的に行うべきである」と答えた人の割合が高い

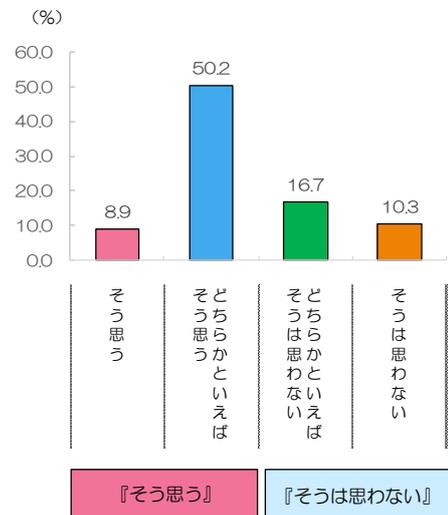
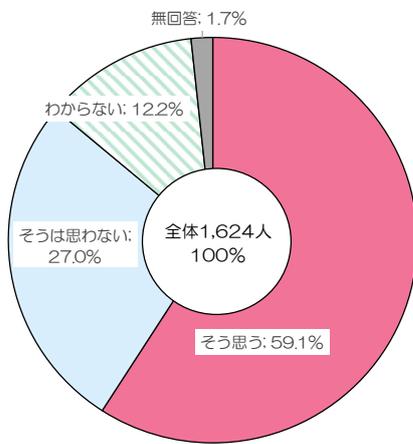
18 「基本的人権」に対する意識

【質問 18】

あなたは、今の日本が基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。(SA)
(当てはまる番号 1 つに○)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそうは思わない
- 4 そうは思わない
- 5 わからない

単純集計



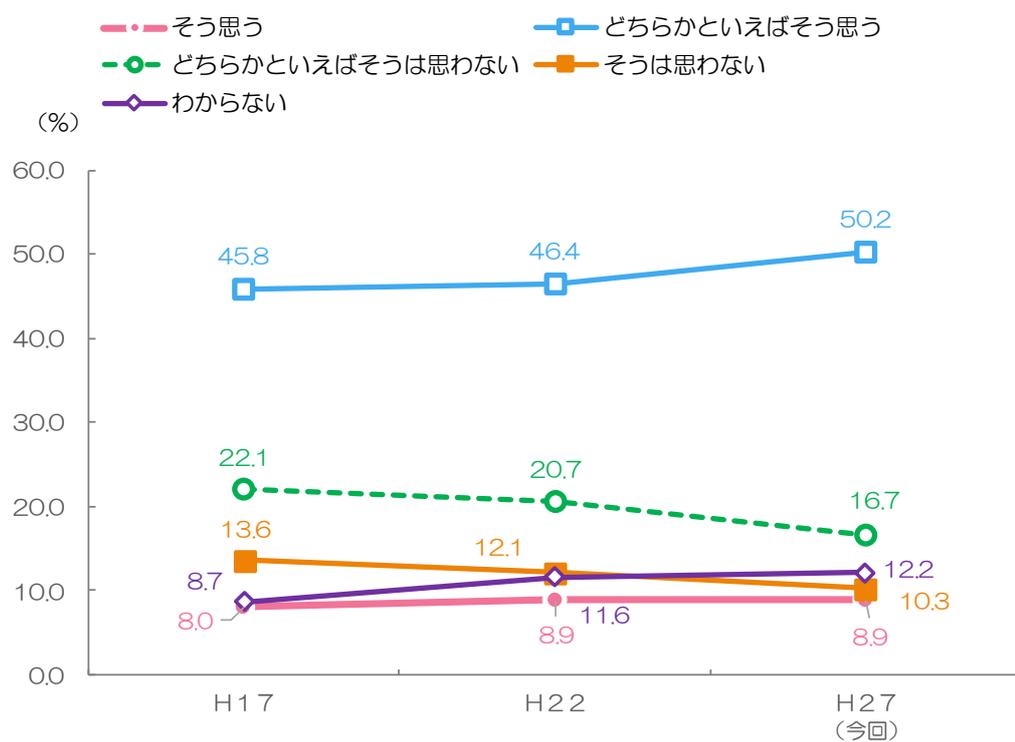
「そう思う」(8.9%)、「どちらかといえばそう思う」(50.2%) と答えた人の割合を合わせた『そう思う』は、59.1%となっている。



今の日本が「基本的人権が尊重されている社会だと思う」と答えた人の割合は、59.1%



時系列比較



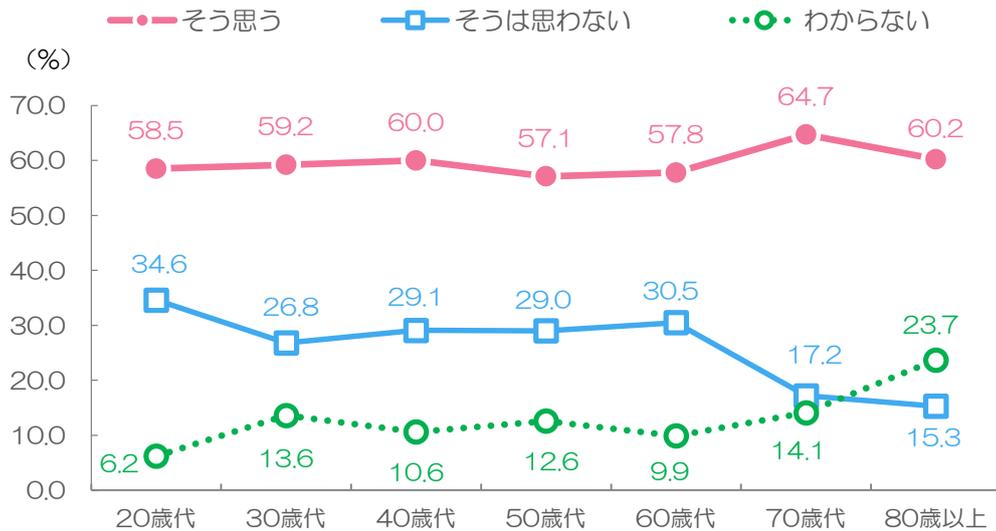
『そう思う』と答えた人の割合は、前回より 3.8%増えており、『そうは思わない』と答えた人の割合は、前回より 5.8%減っている。



属性別集計

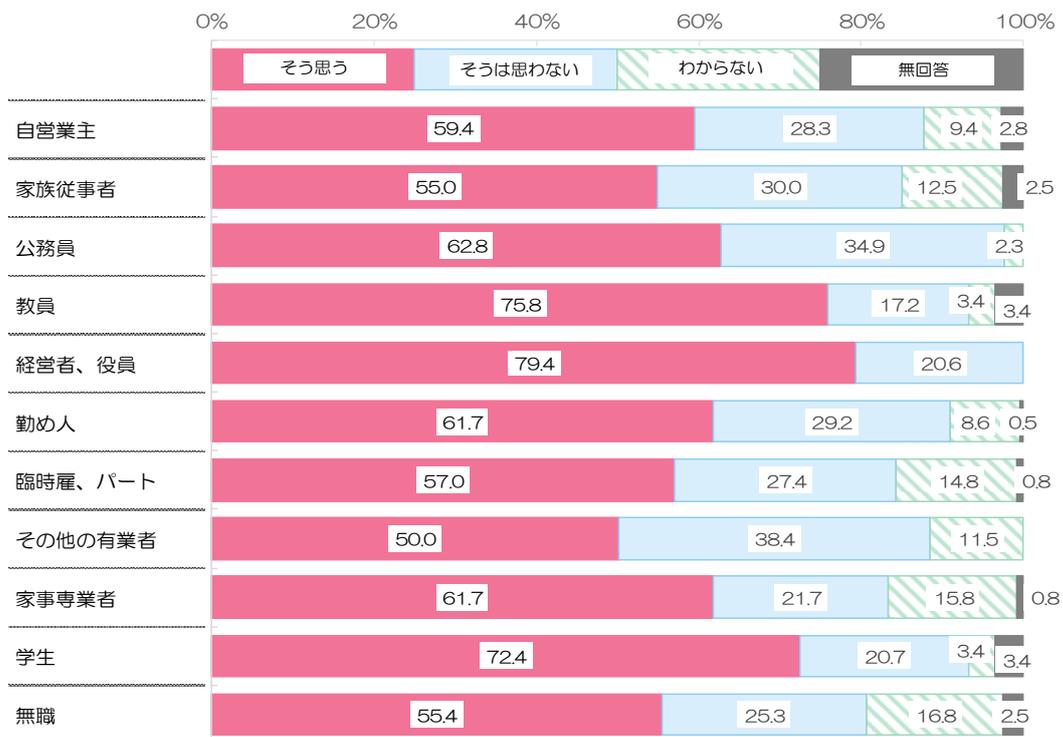
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を『そう思う』、「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」を『そうは思わない』に分け、年代別、職業別比較

● 年代別比較



いずれの年代も、『そう思う』と答えた人の割合が高い

● 職業別比較



いずれの職業も、『そう思う』と答えた人の割合は高い

Ⅲ 単純集計表

(上段：件数/下段：構成比)

問1 -Ⅰ 同じように仕事ができるのに、性別だけで昇進に差をつける

全体	差別だと思う	差別でないと 思う	いちがいに いえない	わからない	無回答
1,624	1,050	54	469	35	16
100.0	64.7	3.3	28.9	2.2	1.0

問1 -Ⅱ 家柄が違うということで、結婚に反対する

全体	差別だと思う	差別でないと 思う	いちがいに いえない	わからない	無回答
1,624	776	132	636	64	16
100.0	47.8	8.1	39.2	3.9	1.0

問1 -Ⅲ 人を雇うときに身元調査(聞き合わせ)をする

全体	差別だと思う	差別でないと 思う	いちがいに いえない	わからない	無回答
1,624	313	532	702	60	17
100.0	19.3	32.8	43.2	3.7	1.0

問1 -Ⅳ 結婚のときに相手の身元調査(聞き合わせ)をする

全体	差別だと思う	差別でないと 思う	いちがいに いえない	わからない	無回答
1,624	243	601	713	51	16
100.0	15.0	37.0	43.9	3.1	1.0

問2 同和問題を知っていますか

全体	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	まったく知らない	無回答
1,624	160	655	487	304	18
100.0	9.9	40.3	30.0	18.7	1.1

問3 同和問題を初めて知ったきっかけや、誰からまたは何からですか

全体	家族（祖父母、兄弟姉妹など）から聞いた	親戚の人から聞いた	近所の人から聞いた	友人から聞いた	職場の人から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・映画・本などで知った	インターネットで知った	講演会や研修会で知った	「同和問題と人権」などで知った	広報なごや・啓発冊子	その他	覚えていない	このアンケート調査で初めて知った	無回答
1,624	308	10	25	103	66	238	285	26	35	25	36	152	297	18	
100.0	19.0	0.6	1.5	6.3	4.1	14.7	17.5	1.6	2.2	1.5	2.2	9.4	18.3	1.1	

問4 同和問題について初めて知ったのは、いつ頃のことですか

全体	6歳未満（小学校に入る前）	6歳～12歳未満（小学生の頃）	12歳～15歳未満（中学生の頃）	15歳～19歳未満	19歳以降	覚えていない	このアンケート調査で初めて知った	無回答
1,624	13	290	232	191	367	202	316	13
100.0	0.8	17.9	14.3	11.8	22.6	12.4	19.5	0.8

問5 同和問題を初めて知ったとき、どう思いましたか

全体	差別があることを許せないと思った	なぜ差別が存在するのか不思議に思った	どういふことなのかよくわからなかった	同和地区の人をかわいそうに思った	自分とは同和地区に生まれなくてよかったと思っただけ	何となく自分たちと違うと思った	自分には関係ないことと思っただ	その他	覚えていない	わからない	無回答
1,624	115	670	355	85	57	100	63	29	44	90	16
100.0	7.1	41.3	21.9	5.2	3.5	6.2	3.9	1.8	2.7	5.5	1.0

問6 同和問題について、現在あなたはどうかお考えですか

全体	この問題の市民一人ひとりに努力すべきだと思う	あるから、自分には関係ないと思う	同和地区の人々には問題で	てあまの騒がずにとし	特に関心がない	その他	わからない	無回答
1,624	587	34	354	233	114	283	19	
100.0	36.1	2.1	21.8	14.3	7.0	17.4	1.2	

問7 親しい人が、同和地区出身とわかったとき、どうされますか

全体	これまでと同じように親しくつづきあう	表面的にはつきあいが、避けていく	つきあいはやめてしま	その他	わからない	無回答
1,624	1,274	87	7	18	221	17
100.0	78.4	5.4	0.4	1.1	13.6	1.0

問8 親しい人の結婚相手が、同和地区出身とわかったとき、どうされますか

全体	本人の意思を尊重する	さへはかまわなくても結婚してほしくない	自分には反対する	結婚することには反対する	その他	わからない	無回答
1,624	1,158	113	60	46	229	18	
100.0	71.3	7.0	3.7	2.8	14.1	1.1	

問9 お子さんの結婚相手が、同和地区出身とわかったとき、どうされますか

全体	子どもの意思を尊重する	かたがたの意思が強い	親として反対するが、ばい	家族や親類の反対があれ	絶対に結婚を認めない	その他	わからない	無回答
1,624	885	323	38	51	64	247	16	
100.0	54.5	19.9	2.3	3.1	3.9	15.2	1.0	

問10 あなたの結婚相手が、同和地区出身とわかったとき、どうされますか

全体	自分の意思を貫いて結婚	その後、自分の意思を貫いた	親の説得に全力を傾けた	家族や親類の反対があれ	絶対に結婚しない	その他	わからない	無回答
1,624	354	649	167	39	47	351	17	
100.0	21.8	40.0	10.3	2.4	2.9	21.6	1.0	

問11 インターネットの掲示板で差別を助長する書き込みを見たことがありますか

全体	同和地区出身者を誹謗・中傷する表示	同和地区に住む人々の表示	同和地区出身者に対する表示	同和地区に関する情報の表示	その他	差別を助長する書き込みを見たことがない	インターネットを利用したことがない	わからない	無回答
1,624	85	60	71	86	39	817	409	159	21
100.0	5.2	3.7	4.4	5.3	2.4	50.3	25.2	9.8	1.3

問12 現在どのような人権問題が起きていると思いますか

全体	結婚問題で周囲が反対する	就職・職場で不利な扱いを受ける	差別的な発言を受ける	差別的な落書きがある	結婚に際して身元調査が行われる	就職に際して身元調査が行われる	同和地区で生活する住民との交流避けたりする	住宅を選ぶ際に、同和地区の物件を避ける	インターネットを利用した差別的情報が掲載される	その他	特になし	わからない	無回答
1,624	613	460	429	163	356	259	382	405	234	37	132	507	14
100.0	37.7	28.3	26.4	10.0	21.9	15.9	23.5	24.9	14.4	2.3	8.1	31.2	0.9

問13.1 講演会・講座・研修会への参加

全 体	3 回 以 上	1 ～ 2 回	な い	無 回 答
	1,624 100.0	51 3.1	85 5.2	1,378 84.9
				110 6.8

問13.2 なごや人権啓発センターの展示

全 体	3 回 以 上	1 ～ 2 回	な い	無 回 答
	1,624 100.0	4 0.2	45 2.8	1,434 88.3
				141 8.7

問13.3 広報なごや

全 体	3 回 以 上	1 ～ 2 回	な い	無 回 答
	1,624 100.0	51 3.1	262 16.1	1,181 72.7
				130 8.0

問13.4 テレビ・ラジオ

全 体	3 回 以 上	1 ～ 2 回	な い	無 回 答
	1,624 100.0	141 8.7	399 24.6	970 59.7
				114 7.0

問13.5 映画・DVD・ビデオ

全 体	3 回 以 上	1 ～ 2 回	な い	無 回 答
	1,624 100.0	54 3.3	184 11.3	1,246 76.7
				140 8.6

問13.6 インターネット

全 体	3 回 以上	1 ～ 2 回	ない	無 回 答
1,624	74	137	1,272	141
100.0	4.6	8.4	78.3	8.7

問13.7 冊子・パンフレット

全 体	3 回 以上	1 ～ 2 回	ない	無 回 答
1,624	92	238	1,154	140
100.0	5.7	14.7	71.1	8.6

問13.8 新聞

全 体	3 回 以上	1 ～ 2 回	ない	無 回 答
1,624	155	415	942	112
100.0	9.5	25.6	58.0	6.9

問13.9 雑誌

全 体	3 回 以上	1 ～ 2 回	ない	無 回 答
1,624	84	237	1,172	131
100.0	5.2	14.6	72.2	8.1

問13.10 ポスター

全 体	3 回 以上	1 ～ 2 回	ない	無 回 答
1,624	87	204	1,194	139
100.0	5.4	12.6	73.5	8.6

問18 今の日本が基本的人権が尊重されている社会だと思いますか

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうは思わない	そうは思わない	わからない	無回答
全体	144	815	271	168	198	28
	8.9	50.2	16.7	10.3	12.2	1.7

Q1 あなたの性別をご記入ください

	男性	女性	その他	無回答
全体	686	832	6	100
	42.2	51.2	0.4	6.2

Q2 あなたは何歳代ですか

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答
全体	130	228	303	231	292	249	118	73
	8.0	14.0	18.7	14.2	18.0	15.3	7.3	4.5

Q3 あなたの職業は何ですか

	の事業主（自営業主、建設業、自由業など）	の家族従事者（商工サービ）	公務員	教員	役員・団体の経営者、	企業・団体の勤め人	臨時雇、パートタイマ、派遣、契約社員などの非正規雇用	その他の有業者	家事専業者	学生	無職	無回答
全体	106	40	43	29	34	373	263	26	240	29	363	78
	6.5	2.5	2.6	1.8	2.1	23.0	16.2	1.6	14.8	1.8	22.4	4.8

同和問題についての市民意識調査票

名古屋市

お答えいただくにあたってのお願い

- 1 お答えいただくのは、この調査票をお送りしたあて名の方ご本人にお願いします。
- 2 お答えは、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 3 お答えの中で「その他」を選ばれた場合は、お手数ですが()内に具体的に内容をご記入ください。
- 4 質問にお答えいただきましたら、同封の封筒に入れて、
平成27年11月30日(月曜日)までにご返送ください。
(切手は不要です。)
- 5 お答えいただいた内容は、統計を作るためだけに使います。また、調査票は無記名で、個人が特定されることは一切ありませんので、ご安心ください。

【質問1】 日本国憲法の第14条には、「すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。」と定められています。あなたは、「差別」ということについてどうお考えですか。

(I～IVのそれぞれについてあてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

I 同じように仕事ができるのに、性別だけで昇進に差をつけることは	
1 差別だと思う	64.7%
2 差別でないと思う	3.3
3 いちがいにいけない	28.9
4 わからない	2.2
	無回答 1.0
II 家柄が違うということで、結婚に反対することは	
1 差別だと思う	47.8%
2 差別でないと思う	8.1
3 いちがいにいけない	39.2
4 わからない	3.9
	無回答 1.0
III 人を雇うときに身元調査（聞き合わせ）をすることは	
1 差別だと思う	19.3%
2 差別でないと思う	32.8
3 いちがいにいけない	43.2
4 わからない	3.7
	無回答 1.0
IV 結婚のときに相手の身元調査（聞き合わせ）をすることは	
1 差別だと思う	15.0%
2 差別でないと思う	37.0
3 いちがいにいけない	43.9
4 わからない	3.1
	無回答 1.0

【質問2】 あなたは同和問題を知っていますか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1 よく知っている	9.9%
2 少しは知っている	40.3
3 聞いたことがある	30.0
4 まったく知らない	18.7
	無回答 1.1

【質問 3】 あなたが同和問題を初めて知ったり、聞いたりしたきっかけは、誰からまたは何からですか。

(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)から聞いた	19.0%
2	親戚の人から聞いた	0.6
3	近所の人から聞いた	1.5
4	友人から聞いた	6.3
5	職場の人から聞いた	4.1
6	学校の授業で教わった	14.7
7	テレビ・ラジオ・新聞・映画・本などで知った	17.5
8	インターネットで知った	1.6
9	講演会や研修会で知った	2.2
10	広報なごや・啓発冊子「同和問題と人権」などで知った	1.5
11	その他 ()	2.2
12	覚えていない	9.4
13	このアンケート調査で初めて知った	18.3
	無回答	1.1

【質問 4】 あなたが同和問題について初めて知ったり、聞いたりしたのは、いつ頃のことですか。

(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	6歳未満 (小学校に入学する前)	0.8%
2	6歳～12歳未満 (小学生の頃)	17.9
3	12歳～15歳未満 (中学生の頃)	14.3
4	15歳～19歳未満	11.8
5	19歳以降	22.6
6	覚えていない	12.4
7	このアンケート調査で初めて知った	19.5
	無回答	0.8

同和問題とは、「同和地区」や「被差別部落」などと呼ばれる地域の出身であることや、そこに住んでいるというだけの理由でいわれなき差別や不利益を受け、基本的人権や人間としての尊厳がおびやかされ、侵されているという日本固有の人権問題です。

【質問 5】 あなたが同和問題を初めて知ったり、聞いたりしたとき、どう思いましたか。(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	差別があることを許せないと思った	7.1%
2	なぜ差別が存在するのか不思議に思った	41.3
3	どういうことなのかよくわからなかった	21.9
4	同和地区の人をかわいそうに思った	5.2
5	自分は同和地区に生まれなくてよかったと思った	3.5
6	何となく自分たちと違うと思った	6.2
7	自分には関係ないことと思った	3.9
8	その他 ()	1.8
9	覚えていない	2.7
10	わからない	5.5
	無回答	1.0

【質問 6】 同和問題について、現在あなたはどうお考えですか。
(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	人間の自由や平等に関わる問題なので、自分も市民の一人としてこの問題の解決に努力すべきだと思う	36.1%
2	同和地区の人々の問題であるから、自分には関係ないと思う	2.1
3	あまり騒がずにそっとしておくのがよいと思う	21.8
4	特に関心がない	14.3
5	その他 ()	7.0
6	わからない	17.4
	無回答	1.2

【質問 7】 かりに、日ごろ親しくつきあっている職場の人や近所の人、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。
(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	これまでと同じように親しくつきあう	78.4%
2	表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく	5.4
3	つきあいはやめてしまう	0.4
4	その他 ()	1.1
5	わからない	13.6
	無回答	1.0

【質問 8】 かりに、あなたの親類や親しい人の結婚しようとしている相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。

(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	本人の意思を尊重する	71.3%
2	自分がかまわないが、世間へのてまえがあるから、できれば結婚してほしくない	7.0
3	結婚することには反対する	3.7
4	その他 ()	2.8
5	わからない	14.1
	無回答	1.1

【質問 9】 かりに、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区出身の人であることがわかったとき、あなたはどうされますか。

(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	子どもの意思を尊重する	54.5%
2	親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない	19.9
3	家族や親類の反対があれば、結婚を認めない	2.3
4	絶対に結婚を認めない	3.1
5	その他 ()	3.9
6	わからない	15.2
	無回答	1.0

【質問 10】 かりに、あなたが同和地区出身の人と恋愛をし、結婚しようとしたとき、家族や親類の人から強い反対を受けたら、あなたはどうされますか。

(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	自分の意思を貫いて結婚する	21.8%
2	親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する	40.0
3	家族や親類の反対があれば、結婚しない	10.3
4	絶対に結婚しない	2.4
5	その他 ()	2.9
6	わからない	21.6
	無回答	1.0

【質問 11】 あなたは、同和問題に関して、インターネットの掲示板で差別を助長する書き込みを見たことがありますか。それはどのようなものですか。

(あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。)

1	同和地区出身者を誹謗・中傷する表現の掲示	5.2%
2	同和地区を特定し、そこに住む人々を誹謗・中傷する表現の掲示	3.7
3	同和地区出身者に対する差別等をあおる表現の掲示	4.4
4	同和地区に関する情報の掲示	5.3
5	その他 ()	2.4
6	差別を助長する書き込みを見たことがない	50.3
7	インターネットを利用したことがない	25.2
8	わからない	9.8
	無回答	1.3

【質問 12】 あなたは、同和問題に関して、現在どのような人権問題が起きていると思いますか。

(あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。)

1	結婚問題で周囲が反対すること	37.7%
2	就職・職場で不利な扱いを受けること	28.3
3	差別的な発言を受けること	26.4
4	差別的な落書きがあること	10.0
5	結婚に際して身元調査（聞き合わせ）が行われること	21.9
6	就職に際して身元調査（聞き合わせ）が行われること	15.9
7	同和地区やそこで生活する住民との交流や交際を避けたりすること	23.5
8	住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区を含む小学校区にある物件を避けること	24.9
9	インターネットを利用して差別的な情報が掲載されること	14.4
10	その他 ()	2.3
11	特にない	8.1
12	わからない	31.2
	無回答	0.9

【質問 13】 あなたは、同和問題に関連する講演会や研修会に参加したり、新聞やテレビ・ラジオ等で同和問題に関連したことを見たり、聞いたり、読んだりしたことが何回ありますか。

(1～11のそれぞれについてA、B、Cのいずれかに○印をつけてください。)

事 項	3回以上	1～2回	ない	無回答
1 講演会・講座・研修会への参加	3.1%	5.2%	84.9%	6.8%
2 なごや人権啓発センター(※)の展示	0.2	2.8	88.3	8.7
3 広報なごや	3.1	16.1	72.7	8.0
4 テレビ・ラジオ	8.7	24.6	59.7	7.0
5 映画・DVD・ビデオ	3.3	11.3	76.7	8.6
6 インターネット	4.6	8.4	78.3	8.7
7 冊子・パンフレット	5.7	14.7	71.1	8.6
8 新聞	9.5	25.6	58.0	6.9
9 雑誌	5.2	14.6	72.2	8.1
10 ポスター	5.4	12.6	73.5	8.6
11 たれ幕・立看板	4.1	8.5	78.4	8.9

(※) なごや人権啓発センター

愛称「ソレイユプラザなごや」は、市民のみなさん一人ひとりが様々な人権問題について、気づき・学び・行動するための機会を提供するとともに、学校・地域・企業をはじめとする様々な団体・グループが人権研修や人権学習の際に利用できる施設として、平成26年5月に伏見ライフプラザ12階にオープンしました。

【質問 14】 あなたは、学校で同和問題(部落差別)についての授業を受けたことがありますか。

(受けたことがある学校の番号すべてに〇印をつけてください。)

1	小学校	11.1%
2	中学校	13.5
3	高等学校(旧制中学校なども含む)	6.7
4	短期大学・大学・大学院(高等専門学校、専門学校なども含む)	2.4
5	学校では受けたことがない	39.8
6	覚えていない	35.6
	無回答	2.3

【質問 15】 あなたは、同和問題などの人権課題について、学校や社会で行っている人権教育や人権啓発に何を期待しますか。

(あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。)

1	あらゆる偏見や差別をなくすため、同和問題などの人権課題についての理解を深めるようにする	40.0%
2	同和問題などの人権課題解決への市民の意欲と実践力を高めるようにする	15.4
3	ボランティア活動や高齢者との交流などを通じて人を思いやる心を育成するようにする	23.6
4	自分の大切さに気づくことができるとともに、他の人の大切さも認めることができるようにする	45.9
5	地域の実情に応じた様々な学習機会を提供し、地域交流の促進をはかるようにする	15.7
6	同和問題などの人権課題をなごや人権啓発センターなどの公的施設で学んだり調べたりすることができるための資料や講座を充実させる	8.4
7	その他()	4.0
8	わからない	21.6
	無回答	2.3

【質問 16】 あなたは、同和問題についての教育・啓発を今後どうすべきだと思いますか。(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	もっと積極的に行うべきである	29.1%
2	現在のままでよい	19.0
3	特に行う必要がない	11.0
4	その他 ()	5.2
5	わからない	33.5
	無回答	2.3

【質問 17】 あなたは、同和問題の解決のためどのようなことを行ったらよいと思いますか。(あてはまる番号 すべてに○印をつけてください。)

1	同和問題に関する教育や啓発活動を推進する	32.7%
2	同和問題に関する相談のための機関・施設を充実する	24.8
3	同和問題に関して人権が侵害された被害者の救済を充実する	23.3
4	同和地区の人の収入の安定・向上をはかり生活力を高める	19.3
5	同和地区内外の人たちが交流を活発にし、まちづくりをすすめる	22.6
6	その他 ()	6.2
7	わからない	27.3
	無回答	2.2

【質問 18】 あなたは、今の日本が基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。(あてはまる番号に 1つだけ○印をつけてください。)

1	そう思う	8.9%
2	どちらかといえばそう思う	50.2
3	どちらかといえばそうは思わない	16.7
4	そうは思わない	10.3
5	わからない	12.2
	無回答	1.7

最後に、あなた自身のことについてお伺いします。

【Q1】 あなたの性別をご記入ください。

1	男性	42.2%
2	女性	51.2
3	その他	0.4
	無回答	6.2

【Q2】 あなたは何歳代ですか。平成27年11月1日現在の年齢でお答えください。(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	20～29歳	8.0%
2	30～39歳	14.0
3	40～49歳	18.7
4	50～59歳	14.2
5	60～69歳	18.0
6	70～79歳	15.3
7	80歳以上	7.3
	無回答	4.5

【Q3】 あなたの職業は何ですか。

(あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。)

1	自営業主(商工サービス、建設業、自由業などの事業主)	6.5%
2	家族従事者(商工サービス、建設業、自由業などの家族従事の方)	2.5
3	公務員	2.6
4	教員	1.8
5	企業・団体の経営者、役員	2.1
6	企業・団体の勤め人	23.0
7	臨時雇、パートタイマー、派遣、契約社員などの非正規雇用	16.2
8	その他の有業者	1.6
9	家事専業者	14.8
10	学生	1.8
11	無職	22.4
	無回答	4.8

ご協力ありがとうございました。

お尋ねしたこと以外で、同和問題についてお考えのこと、お気づきのことがありましたら、お聞かせください。

質問は以上です。お手数ですが、回答もれや○印のつけ忘れ・つけすぎがないよう、もう一度お確かめください。

この調査票は、同封の封筒に入れて **11月30日（月曜日）まで**にご返送ください。

（切手は不要です。）

この調査のお問い合わせ先

名古屋市役所 市民経済局人権施策推進室

電 話 9 7 2 - 2 5 8 2

F A X 9 7 2 - 6 4 5 3

メールアドレス a2580@shiminkeizai.city.nagoya.lg.jp

当室の URL <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/49-3-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

名古屋市 人権 検索 

平成 27 年度
同和問題についての市民意識調査報告書

発 行：名古屋市市民経済局人権施策推進室

発行年月：平成 28 年 3 月

発行部数：500 部・特定

編 集：(株)サーベイリサーチセンター 名古屋事務所